

FUJITSU Software

ServerView Infrastructure Manager V2.0

ユーザーズマニュアル の修正情報

版数：第 2 版

CA92344-1452-02

提供年月：2017 年 1 月

【マニュアル修正情報】

ServerView Infrastructure Manager V2.0 ユーザーズマニュアル

【修正履歴】

修正 番号	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
1	2017 年 1 月	1.2.6 ネットワーク管理機能 の概要	同左	ネットワークマップの説明を追加	V2.0.0.c
2	2017 年 1 月	1.3.1 インフラ運用管理シー ンごとの ISM 機能イメ ージ	図 1.5 機能イメージ（管 理対象ノードの保守）	スイッチ情報の設定イメージを追加	V2.0.0.c
3	2016 年 9 月	1.4 構成	図 1.6 ネットワーク構成	ISM 外部で用意するサーバやサービスについ ての注意事項を追加	V2.0
4	2017 年 1 月	1.4 構成	同左	管理対象ノード-サーバ(管理対象サーバ)へ プロファイル管理機能で OS インストールす る場合の説明を追加	V2.0.0.c

修正 番号	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
5	2016 年 9 月	1. 5. 1 ISM-VA（仮想マシン） のシステム要件	同左	ディスク容量についての注意事項を追加	V2. 0
6	2016 年 9 月	1. 5. 3 ISM の運用に必要なサー ビス要件	ファイル転送用管理端末 のシステム要件	ISM 外部で必要なサービス要件を追加	V2. 0
7	2016 年 9 月	1. 6 留意事項	OS インストール完了のタ イミング	OS インストールする際の RAID 構成について の説明の追加	V2. 0
8	2017 年 1 月	1. 6 留意事項	ログ管理機能の自動収集 を利用する場合	ログファイルの総容量に上限を設定した場合 の説明の追加	V2. 0. 0. c
9	2016 年 9 月	2. 2. 1. 1 データセンター/フロア /ラック/ノードの登録	ノードの OS 情報の登録	ノードの OS 情報にドメインユーザーを使用 して登録した際の注意事項を追加	V2. 0. 0. c
10	2017 年 1 月	2. 2. 1. 1 データセンター/フロア /ラック/ノードの登録	ノード検出機能	サポート対象外機器に関する注意事項を追加	V2. 0. 0. c
11	2017 年 1 月	2. 2. 1. 2 データセンター/フロア /ラック/ノードの確認	ノードの OS 情報の確認	ノードの OS 情報にドメインユーザーが登録 されている際の説明を追加	V2. 0. 0. c

修正 番号	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
12	2016 年 9 月	2.2.2 モニタリング機能	監視項目/しきい値の設定	各種 LED ステータスの説明を追加	V2.0
13	2016 年 9 月	2.2.2 モニタリング機能	アラーム設定の登録	イベントタイプについての説明を追加	V2.0
14	2016 年 9 月	2.2.2 モニタリング機能	アラーム設定の登録	アラームの設定内容を変更する必要がある場合の説明とメンテナンスモードについての説明を追加	V2.0
15	2017 年 1 月	2.2.2 モニタリング機能	アラームステータスについて	MIB ファイル登録方法の説明を追加	V2.0.0.c
16	2016 年 9 月	2.2.3 プロファイル管理機能	プロファイル例	「プロファイル作成」画面例 (GUI) 画像を差し替え	V2.0
17	2016 年 9 月	2.2.3 プロファイル管理機能	プロファイルの編集と再適用手順	プロファイルの編集における OS の設定項目についての説明を追加	V2.0
18	2016 年 9 月	2.2.3 プロファイル管理機能	OS インストール時に必要な準備作業	ServerView Suite DVD のインポートに関する説明を追加 PXE ブート対象の LAN に関する説明を変更	V2.0 V2.0.0.c
19	2016 年 9 月	2.2.3 プロファイル管理機能	プロファイル適用時の動作指定	プロファイルの再適用時の説明を追加 電源オン状態でのプロファイルを適用についての説明を追加	V2.0

修正番号	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
20	2016 年 9 月	2.2.4.1 ノードのファームウェア版数の確認	同左	ノードリスト、[カラム表示]欄を[ファームウェア]に切り替えた際の、画面表示に関する説明を追加	V2.0
21	2016 年 9 月	2.2.4.2 ファームウェアアップデート	同左	文言を修正	V2.0
22	2016 年 9 月	2.2.4.2 ファームウェアアップデート	アップデート時の動作	文言を修正	V2.0
23	2016 年 9 月	2.2.4.2 ファームウェアアップデート	ファームウェアアップデートの実施	文言を修正 PCI カードのファームウェアアップデートを行う際の注意事項を追加	V2.0
24	2016 年 9 月	2.2.4.3 ファームウェアデータに添付されているドキュメントの確認	同左	文言を修正	V2.0
25	2017 年 1 月	2.2.5 ログ管理機能	収集可能なログの種類	ストレージのモデル修正	V2.0.0.c
26	2017 年 1 月	2.2.5 ログ管理機能	ログ保管先のディスク容量監視機能	ログファイルの総容量の上限値に関する説明の追加	V2.0.0.c

修正 番号	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
27	2017 年 1 月	2.2.6 ネットワーク管理機能	同左	ネットワーク管理機能の概要説明を追加・変更	V2.0.0.c
28	2017 年 1 月	2.2.6 ネットワーク管理機能	同左	画像を差し替え	V2.0.0.c
29	2017 年 1 月	2.2.6 ネットワーク管理機能	同左	ネットワーク管理機能の機能一覧の追加・変更	V2.0.0.c
30	2017 年 1 月	2.2.6 ネットワーク管理機能	ネットワーク接続の表示	仮想マシン、仮想スイッチと物理的なポートとの接続関係について説明を追加	V2.0.0.c
31	2016 年 9 月	2.2.6 ネットワーク管理機能	ネットワーク接続情報の表示	[ネットワークマップ]の画面表示に関する説明を追加	V2.0
32	2017 年 1 月	2.2.6 ネットワーク管理機能	ネットワーク接続情報の表示	操作手順の注意事項の追加	V2.0.0.c
33	2017 年 1 月	2.2.6 ネットワーク管理機能	ネットワーク管理情報の更新	ネットワーク管理情報の最終更新時刻の表示に関する説明を追加	V2.0.0.c
34	2017 年 1 月	2.2.6 ネットワーク管理機能	ネットワーク接続の変化情報の確認	文言の修正	V2.0.0.c
35	2017 年 1 月	2.2.6 ネットワーク管理機能	ネットワーク接続の変化情報の確認	接続情報変化の最終更新日時に関する説明を追加	V2.0.0.c
36	2017 年 1 月	2.2.6 ネットワーク管理機能	ネットワーク接続の変化情報の基準設定	基準点設定について詳細情報を追加	V2.0.0.c

修正番号	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
37	2017 年 1 月	2.2.6 ネットワーク管理機能	VLAN、リンクアグリゲーション設定の確認	VLAN 設定、リンクアグリゲーション設定の確認手順の説明を修正	V2.0.0.c
38	2017 年 1 月	2.2.6 ネットワーク管理機能	同左	VLAN 設定の変更手順およびリンクアグリゲーション設定の変更手順の説明を追加	V2.0.0.c
39	2016 年 9 月	2.3.1 ユーザー管理機能	2.3.1.2 ユーザーグループの管理	<ul style="list-style-type: none"> ISM-VA に保存できるファイル容量の上限値に関する説明を追加 認証方法に関する注意事項の削除 ユーザーグループ作成後の仮想ディスク割り当てに関する注意事項を追加 	V2.0 V2.0.0.c
40	2017 年 1 月	2.3.1.3 Microsoft Active Directory または LDAP との連携	設定手順	Microsoft Active Directory、LDAP との連携時の注意事項を追加	V2.0.0.c
41	2017 年 1 月	2.3.2 リポジトリ管理機能	同左	仮想ディスク割り当てに関する注意事項の追加	V2.0.0.c
42	2016 年 9 月	2.3.2 リポジトリ管理機能	ファームウェアデータの保存	文言と一部のモデル名を修正	V2.0

修正番号	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
43	2017 年 1 月	2.3.3 Emulex OneCommand Manager CLI、Qlogic QConvergeConsole CLI の導入	同左	Emulex OneCommand Manager CLI、QLogic QConvergeConsole CLI のインストール、操作方法に関する補足情報の修正	V2.0.0.c
44	2016 年 9 月	2.3.5.1 ISM-VA 管理機能のコマンド一覧	保守機能	SNMP コミュニティ名設定 コマンドの追加	V2.0
45	2017 年 1 月	2.3.5.1 ISM-VA 管理機能のコマンド一覧	イベント通知設定	MIB ファイル設定の追加	V2.0.0.c
46	2017 年 1 月	2.3.6 仮想化管理ソフトウェア管理機能	同左	仮想化管理ソフトウェア管理機能についての説明を追加	V2.0.0.c
47	2017 年 1 月	2.4.3 ユーザーグループ削除時	同左	ユーザーグループ削除時の説明の一部を変更	V2.0.0.c
48	2016 年 9 月	2.4.4 ユーザーグループ名の変更時	同左	文言を修正	V2.0

修正番号	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
49	2016 年 9 月	3.1 ISM 導入の流れ	(1) 導入設計	準備しておくべき作業の一部を修正	V2.0
50	2016 年 9 月	3.1 ISM 導入の流れ	(6) 仮想ディスクの割り当て	仮想ディスクの割り当てを行う際の説明の一部を修正	V2.0
51	2016 年 9 月	3.1 ISM 導入の流れ	注意	仮想ディスクに関する注意事項を追加	V2.0
52	2016 年 9 月	3.2.1.2 リポジトリの必要容量の見積り	ポイント	ServerView Suite DVD に関する説明を追加	V2.0
53	2017 年 1 月	3.2.3 ネットワークの設計	同左	OS で使用するネットワークに関する説明を追加	V2.0.0.c
54	2016 年 9 月	3.2.3 ネットワークの設計	注意	ISM-VA の初期 IP 競合に関する注意事項追加	V2.0
55	2016 年 9 月	3.2.4 ノード名の設定	同左	ノード名に使用可能な文字に関する説明を修正	V2.0
56	2016 年 9 月	3.3.1 Microsoft Windows Server Hyper-V へのインストール	同左	一部の画像を差し替え	V2.0

修正番号	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
57	2016 年 9 月	3. 3. 2 VMware vSphere Hypervisor へのイン ストール	同左	一部の画像を差し替え	V2.0
58	2016 年 9 月	3. 3. 3 KVM へのインストール	同左	ファイル名の修正 一部の画像の差し替え	V2.0
59	2016 年 9 月	3. 4. 1. 1 Microsoft Windows Server Hyper-V で動作 する ISM-VA の場合（初 回）	同左	一部の画像の差し替え	V2.0
60	2016 年 9 月	3. 4. 1. 2 VMware vSphere Hypervisor で動作する ISM-VA の場合（初回）	同左	一部の画像の差し替え	V2.0
61	2016 年 9 月	3. 4. 1. 3 KVM で動作する ISM-VA の場合（初回）	同左	一部画像の差し替え	V2.0
62	2016 年 9 月	3. 4. 2 ISM 初期設定	同左	コマンド実行結果例の一部を修正	V2.0

修正 番号	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
63	2017 年 1 月	3.4.2 ISM 初期設定	4. コンソールで、日付・ 時間の設定をします。	ドメイン環境で使用する場合は設定手順を追 加	V2.0.0.c
64	2016 年 9 月	3.7.1 ISM-VA 全体に対する仮 想ディスク割当て	Microsoft Windows Server Hyper-V の場合	一部画像の差し替え	V2.0
65	2016 年 9 月	3.7.2 ユーザーグループに対 する仮想ディスク割当	Microsoft Windows Server Hyper-V の場合	一部画像の差し替え	V2.0
66	2016 年 9 月	4.1.1.1 Microsoft Windows Server Hyper-V で動作 する ISM-VA の場合（2 回目以降）	同左	一部の画像の差し替え	V2.0
67	2016 年 9 月	4.1.1.2 VMware vSphere Hypervisor で動作する ISM-VA の場合（2 回目 以降）	同左	一部の画像の差し替え	V2.0

修正 番号	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
68	2016 年 9 月	4.1.1.3 KVM で動作する ISM-VA の場合（2 回目以降）	同左	一部の画像の差し替え	V2.0
69	2016 年 9 月	4.6.1 SSL サーバ証明書配置	同左	証明書の配置手順の一部追加 独自 SSL サーバ証明書の作成手順追加	V2.0
70	2016 年 9 月	4.8 ネットワーク設定	同左	DNS サーバ設定に関するコマンドの説明の追加	V2.0
71	2016 年 9 月	4.11 システム情報の表示	同左	コマンド実行結果例の一部を修正	V2.0
72	2016 年 9 月	4.17 SNMP コミュニティー名 設定	4.16 障害調査ログレベル切り 替え	SNMP コミュニティー名設定に関するコマンド の説明の追加	V2.0
73	2016 年 9 月	4.18 ISM-VA 内部の DHCP サ ーバ	4.16 障害調査ログレベル切り 替え	ISM-VA 内部の DHCP サーバについての説明を 追加	V2.0.0.c
74	2017 年 1 月	4.19 MIB ファイル設定	4.16 障害調査ログレベル切り 替え	MIB ファイル設定の操作方法の説明を追加	V2.0.0.c

修正番号	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
75	2016 年 9 月	付録 A ISM-VA のアンインストール	Microsoft Windows Server Hyper-V からのアンインストール	一部画像の差し替え	V2.0
76	2016 年 9 月	付録 A ISM-VA のアンインストール	VMware vSphere Hypervisor からのアンインストール	一部画像の差し替え	V2.0
77	2016 年 9 月	付録 A ISM-VA のアンインストール	KVM からのアンインストール	一部画像の差し替え	V2.0
78	2017 年 1 月	付録 B トラブルシューティング	現象：ismadm コマンドを 火曜 2:20 頃に実行するとエラーとなる。	ismadm コマンドの実行エラーに関するトラブルシューティング記事の追加	V2.0.0.c
79	2016 年 9 月	付録 B トラブルシューティング	現象：以下の機能において、ファイルのインポート操作の実施時に、ファイル選択画面で「サーバとの通信に失敗しました。」のエラーが表示される。	文言の修正	V2.0

修正番号	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
80	2016 年 9 月	付録 B トラブルシューティング	現象：ETERNUS DX/AF モデルのファームウェアアップデートに失敗する。	文言の修正 ETERNUS AF を追加	V2.0 V2.0.0.c
81	2017 年 1 月	付録 B トラブルシューティング	現象：プロファイル機能で OS インストールがエラーになる。	ISM-VA の接続確認の説明の修正	V2.0.0.c
82	2017 年 1 月	付録 B トラブルシューティング	現象：ネットワークマップの表示情報が古い、また正しい情報が表示されない。	ネットワーク管理機能に関するトラブルシューティング記事の追加	V2.0.0.c
83	2017 年 1 月	付録 B トラブルシューティング	現象：ノードログが収集されない、ノードログの収集に失敗する。	ログファイルの総容量の上限値に関するトラブルシューティング記事の修正	V2.0.0.c
84	2017 年 1 月	付録 B トラブルシューティング	現象：ノードログ収集の設定ができない。	文言の修正	V2.0.0.c
85	2017 年 1 月	付録 B トラブルシューティング	現象：ノードログ収集で、「オペレーティングシステム」、「ServerView Suite」が指定できない。	文言の修正	V2.0.0.c

修正番号	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
86	2016 年 9 月	付録 C プロファイル設定項目	同左	付録 C として、プロファイル設定項目の説明を追加 V2.0.0.c で「1.2.4 SUSE Linux Enterprise Server 用プロファイル」を追加	V2.0 V2.0.0.c

注) 修正記事は、対応する修正番号のページをご覧ください。修正記事の記載方法は、修正形式により以下のように異なります。

- 記事の修正：修正後の内容を点線の下線付きの青文字で記載しています。
- 記事の追加：追加した内容を青文字で記載しています。
- 記事の削除：削除した内容に取り消し線が引かれています。なお、「修正概要」だけで、削除内容がわかる場合は、記載を省略しています。
- 図やイメージの差し替え：差し替えた図、イメージに「差し替え画像」と記載しています。
- 上記の形式での記載が難しいものは、「修正概要」に修正/追加/削除内容を記載していることがあります。

修正番号：1

1.2.6 ネットワーク管理機能の概要

ネットワーク管理機能は、主に以下の用途で利用する機能です。

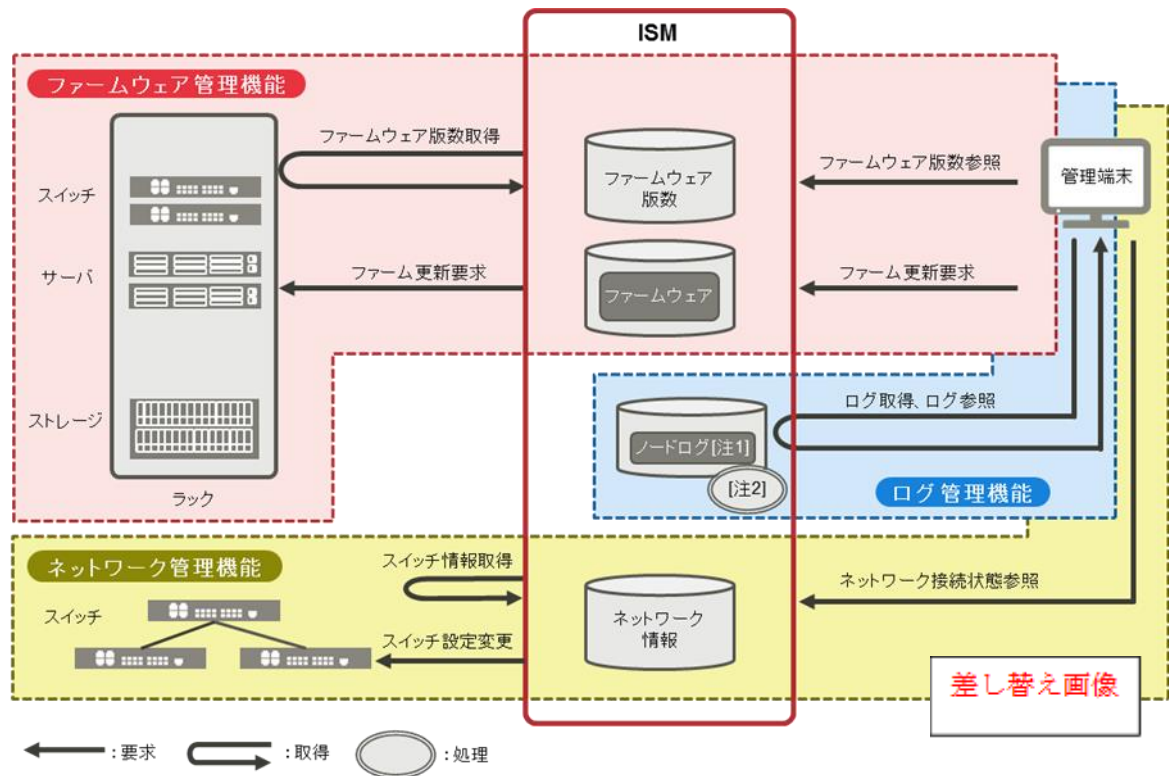
- 複数ノード間のネットワーク接続状態を画面上の接続図（ネットワークマップ）で確認
- ネットワーク接続状態に変化が発生した場合に、変更箇所を画面で確認
- 仮想マシン、仮想スイッチと物理的な接続との関係をネットワークマップで確認
- ネットワークスイッチのVLAN、リンクアグリゲーション（LAG）設定を確認、変更

ネットワーク管理機能の詳細については、「2.2.6 ネットワーク管理機能」を参照してください。

修正番号：2

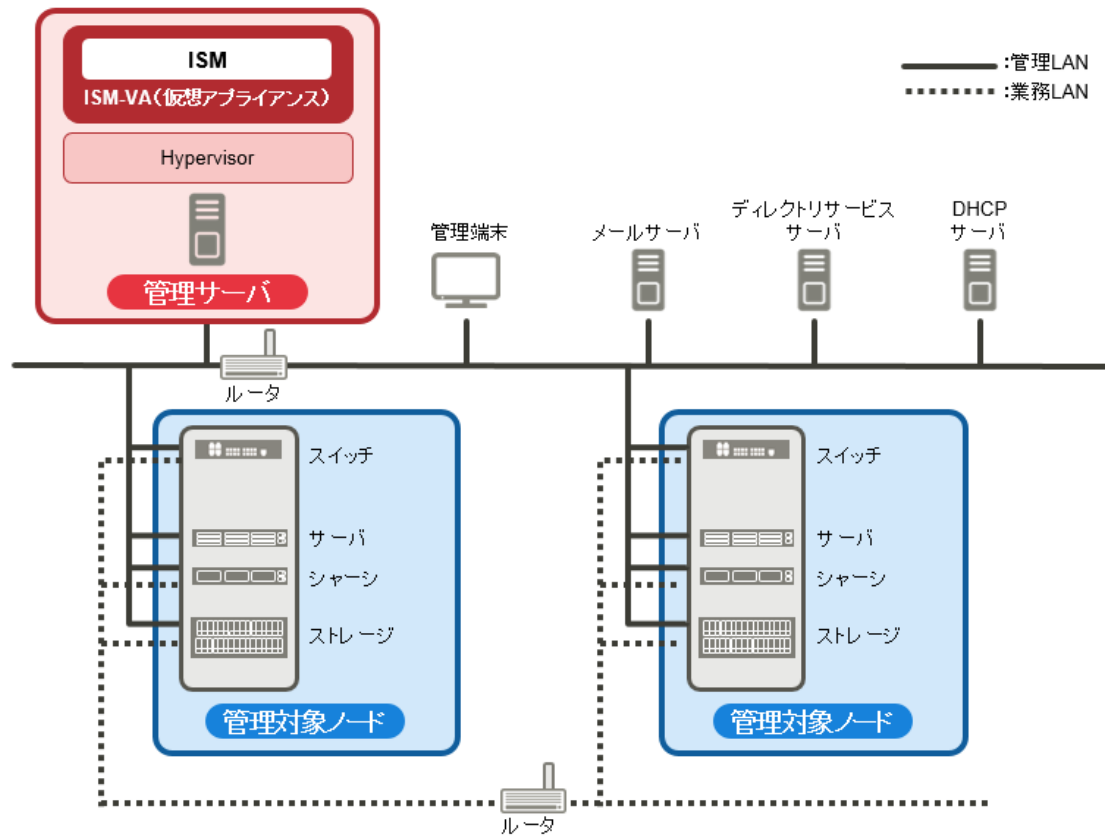
1.3.1 インフラ運用管理シーンごとの ISM 機能イメージ

図1.5 機能イメージ（管理対象ノードの保守）



修正番号：3

1.4 構成



注意

図1. 6に記載しているISM外部で用意するサーバやサービスについての詳細は、「1. 5. 3 ISMの運用に必要なサービス要件」を参照してください。

修正番号：4

1.4 構成

管理対象ノード	スイッチ	ISM が状態監視、制御の対象とするノードです。
	ストレージ	
	サーバ (管理対象サーバ)	ISM が状態監視、制御の対象とするノードです。 BMC (iRMC) <u>に使用する LAN ポートを管理 LAN に接続します。</u> プロファイル管理機能で OS をインストールする場合には、上記の LAN ポート以外のポートも管理 LAN に接続する必要があります。

修正番号：5

1.5.1 ISM-VA（仮想マシン）のシステム要件

ISM-VAが動作する仮想マシンのシステム要件は以下のとおりです。

項目	説明
CPUコア数	2コア以上[注1]
メモリ容量	8GB以上[注1]
空きディスク容量	35GB以上[注2][注3][注4]
ネットワーク	1Gbps以上
ハイパーバイザー	Windows Server 2012/2012R2 VMware ESXi 5.5/6.0 Red Hat Enterprise Linux KVM

[注1] 管理するノード数に応じて、必要なコア数およびメモリ容量が異なります。

ノード数	CPUコア数	メモリ容量
1～100	2	8GB
101～400	4	8GB
401～1000	8	12GB

[注2] 約100ノードを監視するのに必要最低限のディスク容量です。管理するノード数および使用するISM機能に応じて、ディスク容量を見積もる必要があります。ディスク容量の見積りについては、「[3.2.1 ディスク資源の見積り](#)」を参照してください。

[注3] ISM-VAをバックアップする場合は、管理サーバにISM-VAと同等以上の空きディスク容量が必要です。

[注4] ISM-VA導入時に自動的に割り当てる必要があります。

修正番号：6

1.5.3 ISM の運用に必要なサービス要件

本章では、ISM の各種運用に必要な外部サービスについて示します。

項目	説明
メールサーバ (SMTP サーバ)	<p>管理対象ノードの異常や状態の変化をメール送信する場合に、メールサーバを構築しておく必要があります。</p> <p>【設定】 ISM の [各種設定]-[アラーム]-[SMTP サーバ] で設定します。</p> <p>【注意】 ISM に登録できるメールサーバはひとつだけです。</p>
ディレクトリサービスサーバ	<p>以下の用途で使用する場合に、ディレクトリサービスを構築しておく必要があります。</p> <p>(1) ISM のユーザー管理で使用する場合</p> <p>使用できるディレクトリサービスは、以下の 2 種類です。</p> <ul style="list-style-type: none">• OpenLDAP• Microsoft Active Directory <p>【設定】 ISM の [各種設定]-[基本設定]-[LDAP サーバ設定] で、構築したサーバを登録します。</p> <p>【注意】 ISM に登録できる LDAP サーバはひとつだけです。</p> <p>(2) プロファイルの OS インストールで使用する場合</p> <p>(1) の設定は使用されません。</p> <p>プロファイルの OS インストールの設定項目で指定されたディレクトリサービスが使用されます。詳細は、プロファイルの OS インストールを参照してください。</p> <p>【注意】 監視対象ノードがディレクトリサービスを使用している場合、監視対象ノードが</p>

	<p>属しているディレクトリサービスとは連携していません。監視対象ノードにアクセスできるアカウントを個別に設定してください。</p>
DHCP サーバ	<p>プロファイル管理機能でOSインストールを行う場合にDHCPサーバの構築しておく必要があります。</p> <p>OSインストール先のノード(サーバ)でPXEブートを可能とするため、ノードに適切なIPv4アドレスをリースできるように設定してください。</p> <p>【参考】</p> <p>ISM-VA内部のDHCPサービスを起動することで、ISM-VAをDHCPサーバとして使用することもできます。</p> <p>ISM-VAをDHCPサーバとして使用する場合は設定方法は、「4. 18 ISM-VA内部のDHCPサーバ」を参照してください。</p>
DNS サーバ	<p>以下の用途で使用する場合に DNS サーバを構築しておく必要があります。</p> <p>(1) ISM へホスト名でアクセスしたい場合。</p> <p>(2) LDAP 連携など ISM の各種サーバ設定で FQDN を使う場合。</p> <p>【設定】</p> <p>DNS サーバを ISM に設定する方法は、「4. 8 ネットワーク設定」の「DNS サーバ追加」を参照してください。</p> <p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DNS サーバを使用しない場合に ISM をホスト名でアクセスしたい場合は、ISM-VA に手動でホスト名を設定してください。手動でのホスト名設定方法は、「4. 12 ホスト名変更」を参照してください。 ・ DNS サーバを使用しない場合、LDAP 連携など ISM の各種サーバ設定は全て IP アドレスで設定してください。
NTP サーバ	<p>ISM と監視対象ノードおよび、管理クライアント間の時間がずれないように同期させる場合に、NTP サーバを構築しておく必要があります。</p> <p>【設定】</p> <p>NTP サーバを ISM に設定する場合は、ismadm コマンドを使用してください。</p> <p>設定方法は、「3. 4. 2 ISM 初期設定」の「NTP 同期有効無効設定」、「NTP サーバ追加削除」を参照してください。</p>
Proxy サーバ	<p>管理クライアントから、Proxy サーバを経由して ISM へアクセスする場合に、Proxy サーバを構築しておく必要があります。</p>

	<p>【注意】</p> <p>監視対象ノードと ISM 間は Proxy サーバを経由して接続することはできません。</p>
ルータ	<p>ISM のネットワークインターフェースはひとつだけしか定義できないため、複数のネットワークを構成する環境で ISM を使用する場合に、各ネットワーク間で通信可能な状態にルータを設定しておく必要があります。</p> <p>【設定】</p> <p>ゲートウェイを ISM に設定する場合は、ismadm コマンドを使用してください。設定方法は、「4.8 ネットワーク設定」の「ネットワーク設定変更」を参照してください。</p>

修正番号：7

1.6 留意事項

OS インストール完了のタイミング

OS の種類、OS 設定によってプロファイル適用完了時の状態が異なります。また、プロファイルで指定する任意スクリプトが実行されるタイミングも OS の種類によって異なります。

OS 種類、設定	OS プロファイル適用完了時点の状態	任意スクリプトが実行されるタイミング
Windows	OS インストール途中の EULA 画面	EULA 承諾、ライセンス入力などを完了し、最初にログインした際
Linux	OS 起動完了し、ログインプロンプトの状態	最初のログインプロンプトの状態（実行済み）
RHEL7 で X Window 有効	OS インストール途中の最終設定画面	最終設定が完了し、OS のログインプロンプト画面になった時点
VMware ESXi (IP アドレスが固定アドレス)	OS 起動が完了し、ネットワーク通信可能となった状態	OS インストール途中（実行済み）
VMware ESXi (IP アドレスが DHCP 設定)	OS のインストールが完了し、再起動した状態	OS インストール途中（実行済み）

管理対象サーバにOSをインストールする際のRAID構成について

OS インストールには ServerView Suite Installation DVD が必要です。

その際、ServerView Suite Installation DVD の V11.16.04 を使用して OS インストールを行う場合には、アレイコントローラで構成するロジカルドライブは1個のみにしてください。

Red Hat Enterprise Linuxの有償サポートサービス（SupportDesk Standard）利用時の注意

有償サポートサービスを契約しサポートを受ける際は、システム構築に対する条件が存在します。

ISM のプロファイル機能を利用した Red Hat Enterprise Linux の自動インストール時は、サポートに必要な「富士通 Linux サポートパッケージ（FJ-LSP）」の適用やメモリダンプ設定などとは行われません。必要な設定はインストール後に手動で実施してください。

設定内容や設定方法などの詳細については、SupportDesk サービスご契約者様向けの Linux ユーザーズマニュアルを参照してください。

修正番号：8

1.6 留意事項

ログ管理機能の自動収集を利用する場合

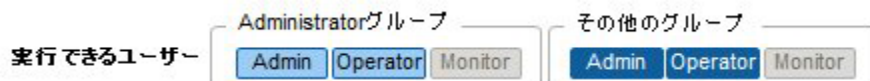
事前に設定したスケジュールに従って ISM が定期的にログを収集できますが、利用する際は以下に注意してください。

- ノードを登録しただけではログは収集されません。ノードごとに収集対象ログの種類とスケジュールを設定してください。
- ノード設定やISM上の設定に誤りがあると正しくログが収集できません。設定後は手動ログ収集を実施し、ログファイルが正しく蓄積されていること、またはISMイベントログにログ収集のエラーが記録されていないことを確認してください。
- ~~収集可能なログファイルの総容量には上限が設定されています。ログの容量が上限の80%。ログファイルの容量が、~~
[各種設定]でユーザーグループごとに設定した「保管ログ」および「ノードログ」各々の「警告しきい値(%)」に達すると、ISMのイベントに警告イベントが登録されるので、~~ます。~~不要なログを削除してファイル量を削減してください。なお、同じく設定された「最大サイズ(MB)」に達した場合、それ以上ログが保存されなくなります。
- 収集したログの保有期間/保有回数はノードごとに設定されており、それを超えた古いログは自動的に削除されます。ログ収集機能の利用時に、適切な設定に変更してください。

修正番号：9

2.2.1.1 データセンター/フロア/ラック/ノードの登録

ノードの OS 情報の登録



ISMに登録しているサーバにOSがインストールされている場合、OS情報を登録してください。

OS情報にはOSの種類、IPアドレス、およびOSに接続するためのアカウント情報などが含まれます。

ドメインユーザーを使用してサーバを監視するにはドメイン名欄はActive Directoryのレルム名のFQDNを入力し、アカウント欄にはレルム名を除いたユーザー名を入力してください。

ISMでは、登録されたOS情報を使用して、ノード上でOSの管理下に置かれている情報の取得が行われます。

サポート機器、OSに関する最新の情報は、弊社の本製品Webサイトを参照してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serveviewism/environment/>

注意

- サーバOSをISMから監視対象にするためには、OSごとに導入手順が必要になります。
アカウント情報にドメイン名、アカウントにドメインユーザーを登録した場合には、監視対象OSに別途ドメインユーザーで監視させるための設定を追加してください。
導入手順については、弊社の本製品Webサイトを参照してください。
<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serveviewism/technical/>
- ドメインユーザーを使用してOSを監視するには、DNSの設定およびドメイン環境の設定が必要になります。
設定方法については「3.4.2 ISM初期設定」を参照してください。
- OS情報が登録されていない場合、またはOSがシャットダウンされている場合、ノード情報を一部取得できなくなります。また、ノード上でOSの管理下に置かれている情報が取得できなくなります。
- OS情報を登録する際にはドメイン名を大文字で入力してください。

操作例を示します。

1. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ノード]を選択し、「ノードリスト」画面を表示します。
2. 対象ノードのノード名を選択し、[OS]タブを表示します。
3. [アクション]ボタンから[OS情報編集]を選択します。
4. 必要な情報を入力し、適用します。
5. [アクション]ボタンから[ノード情報取得]を選択します。
ノード情報取得が完了すると、イベントログにメッセージID「10020303」のログが出力されます。
6. 更新ボタンをクリックして、[OS]タブの表示を更新します。

修正番号：10

ノード検出機能

注意

- 検出されたノード情報は、同じセッション内でのみ有効です。
 - 手動検出結果には、サポート対象外の機器も表示される場合があります。サポート対象外の機器は登録しないでください。
-
-

修正番号：11

2.2.1.2 データセンター/フロア/ラック/ノードの確認

ノードの OS 情報の確認

Administratorグループ その他のグループ

実行できるユーザー

Admin	Operator	Monitor
Admin	Operator	Monitor

ノードにOSアカウント情報が登録されている場合には、OSからネットワーク、ディスク、カード情報を確認できます。

ドメインユーザーIDを使用しOSを監視する際にはドメインID欄はActive Directoryのレルム名のFQDNを入力し、ユーザー名にはレルム名を除いたユーザー名を入力してください。

その場合、GUIの表示項目には、そのドメインユーザーの権限で取得できる情報のみ表示されます。

監視対象OSに関する設定方法については、弊社の本製品Webサイトを参照してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serversviewism/technical/>

修正番号：12

2.2.2 モニタリング機能

監視項目/しきい値の設定

実行できるユーザー

Administratorグループ			その他のグループ		
<input checked="" type="checkbox"/> Admin	<input checked="" type="checkbox"/> Operator	<input type="checkbox"/> Monitor	<input checked="" type="checkbox"/> Admin	<input checked="" type="checkbox"/> Operator	<input type="checkbox"/> Monitor

監視項目（値の取得対象の項目）としきい値を設定します。

以下の項目については、ノードの登録時にデフォルトで監視項目として登録されます（実際に管理可能な項目の詳細は機種によって異なります）。

デフォルトの監視対象	説明
統合ステータス	管理対象ノード自身が持つ、システム全体としてのステータス値 (overall status) を監視します。
消費電力	管理対象装置全体としての消費電力や部品ごとの消費電力を監視します。
温度情報	筐体内部の温度や、吸気口の温度などを監視します。
各種LEDステータス	Power LED, CSS LED, Identify LED, Error LEDを監視します。 対象はPRIMERGYのみとなります。

修正番号：13

2.2.2 モニタリング機能

アラーム設定の登録

イベントタイプについて

イベントタイプには、以下の種類があります。

イベントタイプ	説明
イベント	ISM内部で検出した各種イベント。 アラームを発生させる対象となるイベントを重大度で指定します。(複数指定可)
トラップ	監視対象装置から送信されるSNMPトラップ。 ISM-VA内に登録されているMIB情報を基に、受信可能なトラップの一覧が表示されます。 アラームを発生させる対象となるトラップを重大度で指定、あるいはこのトラップを指定します。 [対象種別]で[システム]を選択した場合は表示されません。

修正番号：14

2.2.2 モニタリング機能

アラーム設定の登録

ポイント

-
- アラームステータスは、自動的に解除されません。検出された、より優先度の高いステータスが表示されます
 - 保守作業による計画的な電源オフを行うとき、それに関連するアラームをISMが検出しないように、監視を一時的に停止する「メンテナンスモード」の機能があります。
メンテナンスモードに変更されたノードに対しては、ISMのアラーム検出が抑止されるため、当該ノードで何度もアラームが発生することを防止できます。
メンテナンスモードについては、「5.1 メンテナンスモード」を参照してください。
-

修正番号：15

2.2.2 モニタリング機能

アラームステータスについて

アラームステータスは各ノードに1つ存在する値で、そのノードに関して何らかのISMイベントやSNMPトラップが検出された場合に変わります。アラームステータスは以下の値を取ります。

アラームステータス	優先度	説明
Error	高	以下のイベントが検出された場合に変わります。 <ul style="list-style-type: none">● ErrorレベルのISMイベント● CRITICALレベルのSNMPトラップ ISMのGUI上では、赤色のベルマーク (🔔) で表示されます。
Warning	中	以下のイベントが検出された場合に変わります。 <ul style="list-style-type: none">● WarningレベルのISMイベント● MAJORまたはMINORレベルのSNMPトラップ ISMのGUI上では、黄色のベルマーク (🔔) で表示されます。
Info	低	以下のイベントが検出された場合に変わります。 <ul style="list-style-type: none">● InfoレベルのISMイベント● INFORMATIONALレベルのSNMPトラップ ISMのGUI上では、青色のベルマーク (🔔) で表示されます。
None	-	何もイベントが検出されていない状態です。 ISMのGUI上では、白色のベルマーク (🔔) で表示されます。

アラームステータスがInfo以上の値の場合、各レベルに対応したイベントを検出したことを意味します。[イベント/タスク]タブから「イベント」画面、または[ログ]タブから「受信トラップ」画面を表示し、検出したイベントの内容を確認してください。

検出したイベントに対して対処・確認が完了した場合は、以下の手順でアラームステータスを解除してください。

1. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ノード]を選択し、「ノードリスト」画面を表示します。
2. 対象ノードのノード名を選択します。
3. [アクション]ボタンから[アラーム解除]を選択します。

ポイント

アラームステータスは、自動的に解除されません。検出された、より優先度の高いステータスが表示されます。

MIBファイルの登録

ISMにMIBファイルを登録する方法と、登録されているMIBファイルの確認方法および削除方法について説明します。

MIBファイルについて

MIBとは、SNMPで管理されるネットワーク機器が自分の状態を外部に知らせるために公開する情報のことであり、RFC 1213で規定されているMIB2として標準化されています。MIBファイルはこの公開情報を定義したテキストベースのファイルを指します。SNMPトラップをやり取りするためには、受信側が機器側の提供するMIBファイルを保持しておく必要があります。

MIBファイルは以下の場合に追加/更新します。

- ・ 当社外装置からSNMPトラップを受信するために新規MIBファイルを追加したい場合
- ・ ファームウェアアップデートに伴い、既にISMに登録済みのMIBファイルを更新したい場合

注意

- 登録されている MIB ファイルは削除することが可能ですが、削除した MIB ファイルに定義されていた SNMP トラップを受信した場合、不明なトラップとして処理されます。
 - 同一トラップが定義された MIB ファイルを複数登録しないでください。同一トラップが定義された MIB ファイルを複数登録した場合、同一トラップを複数受信したように扱われます。
-
-

MIBファイルの登録

ISM に登録されていない MIB ファイルを新たに追加します。

1. MIB ファイルを用意します。このとき、MIB ファイルに依存関係のある全てのファイルが必要になります。
2. ISM-VA に FTP で接続し、MIB ファイルを転送します。
3. ISM VA 管理機能から MIB の登録コマンドを実行します。

詳細は「4. 19. 1 MIB ファイル登録」を参照してください。

ポイント

既にISMに登録されているMIBファイルと同名のファイルを登録することで、MIBファイルをアップデートできます。

MIBファイルの確認

ISM に登録されている MIB ファイル名の一覧を確認します。MIB ファイル名の一覧を確認するには、ISM-VA 管理機能の MIB ファイル表示コマンドを実行します。

詳細は「4. 19. 2 MIB ファイル登録」を参照してください。

MIBファイルの削除

ISM に登録されている MIB ファイルの登録を解除するためには、該当する MIB ファイルを削除します。MIB ファイルを削除するには、ISM-VA 管理機能の MIB ファイル削除コマンドを実行します。

詳細は「4. 19. 3 MIB ファイル削除」を参照してください。

注意

MIB ファイルを削除する場合、依存関係に注意してください。依存関係のある MIB ファイルを削除した場合、トラップを受信できなくなる可能性があります。

修正番号：16

2.2.3 プロファイル管理機能

プロファイル例

図 2.5 「プロファイル作成」画面例（GUI）

ServerView Infrastructure Manager

Language ヘルプ ISMA Administrator FUJITSU

プロファイル追加

1. 基本情報 2. 詳細 3. 確認

BIOS iRMC OS OS個別情報

参照リンク設定中 (リンクRX2520_BIOSの設定に依存されます。編集不可。)

CPU Configuration

<input type="checkbox"/>	Execute Disable Bit	<input type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled
<input checked="" type="checkbox"/>	Hyper-Threading	<input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled
<input checked="" type="checkbox"/>	Intel Virtualization Technology	<input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled
<input checked="" type="checkbox"/>	Intel(R) Vt-d	<input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled
<input checked="" type="checkbox"/>	Power Technology	<input type="radio"/> Energy Efficient <input checked="" type="radio"/> Customize <input type="radio"/> Disabled
<input checked="" type="checkbox"/>	Enhanced Speed Step	<input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled
<input checked="" type="checkbox"/>	Turbo Mode	<input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled

差し替え画像

Memory Configuration

<input checked="" type="checkbox"/>	DDR Performance	<input checked="" type="radio"/> Low-Voltage optimized <input type="radio"/> Energy optimized <input type="radio"/> Performance optimized
-------------------------------------	-----------------	---

戻る 次へ キャンセル

CXServer

修正番号：17

2.2.3 プロファイル管理機能

プロファイルの編集と再適用手順

実行できるユーザー

Administratorグループ			その他のグループ		
Admin	Operator	Monitor	Admin	Operator	Monitor

ノードに適用したプロファイルを変更再編集し、再度ノードに適用することにより、ノードの設定を変更することができます。

(ただしノードがサーバで、そのプロファイル内に「サーバのOSの設定」が記述されている場合、それらの項目は再編集することはできません。)

プロファイルがノードに適用された状態でプロファイルの中身を変更再編集することができます。その場合とき、プロファイルを変更再編集してもノードの設定は連動して変化しません。ISM管理上は、プロファイルの内容とノードの設定との不一致という状態となります。

任意のタイミングで再編集済みのプロファイルをノードに対して再適用してください。再適用が完了するとノードの設定が変更され、再びプロファイルとノードの設定が一致した正常状態になります。

修正番号：18

2.2.3 プロファイル管理機能

OS インストール時に必要な準備作業

- 事前にOSインストール媒体およびServerView Suite **Installation** DVDをISM-VA上のリポジトリ領域にコピーしておく必要があります。この作業を「インポート」と呼びます。

OSインストール媒体のISOイメージをインポートする場合は、ユーザーグループのLVMボリュームサイズを拡張してください。

ServerView Suite DVDのISOイメージをインポートする場合は、システムのLVMボリュームサイズを拡張してください。

~~ServerView Suite DVDは、ISM上1度インポートされている場合、インポートする必要はありません。(ユーザーグループ毎のインポートは必要ありません。)~~

ServerView Suite DVDのインポートは、ISM管理者(Administratorグループのadministratorユーザー)で行ってください。全ユーザーグループで共有されるため、ユーザーグループ毎のインポートは必要ありません。

詳細は「2.3.2 リポジトリ管理機能」を参照してください。

- 対象ノードでPXEブート機能を利用します。オンボードLANまたはLANカードからPXEブートが可能のように、ネットワーク接続および対象サーバのBIOS設定を事前に完了させてください。また、ネットワーク内に別途DHCPサーバが必要です。PXEブート時に適切なIPv4アドレスを対象ノードにリースできるようにDHCPサーバを設定してください。

詳細については、弊社の本製品Webサイトを参照してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverview-ism/>

修正番号：19

2.2.3 プロファイル管理機能

プロファイル適用時の動作指定

通常、プロファイルは新規にノードに適用するか、適用済みの状態でプロファイルを変更したあとに再適用しますが、適用/再適用のGUI操作途中に、「プロファイル適用」画面で[高度な設定を有効にする]にチェックを付けることで、プロファイル適用時の動作条件を変更できます。また、サーバの場合は、適用する範囲を機能グループ（iRMC、BIOS、OS）ごとに指定できます。

指定可能な動作条件は以下のとおりです。

- 変更がない箇所にも適用を行う
プロファイル適用状態で、ノードとプロファイル内容が一致している場合でも、ノードに対して設定を上書きします。
ただし、その場合でもOSの再適用は実施されません。
- 電源オン状態でプロファイルの適用を実行する
サーバにプロファイルを適用する場合、通常は対象ノードの電源をオフにした状態で適用を行う必要がありますが、本動作を選択すると、対象ノードが電源オンの状態でもプロファイル適用が可能です。
以下の点に注意してください。
 - BIOS設定とiRMC設定の一部はサーバを再起動するまで変更が反映されません。
プロファイル適用が完了した後、任意のタイミングで再起動を実施してください。
 - OSが適用対象となる場合は、本モードは選択できません。
- プロファイルをノードに適用せず、ISM上で適用したことにする
ISMの管理上はプロファイル適用を完了させますが、ノードに対する変更は行いません。そのため、適用後にノードの状態とISM管理状態に差異が発生する場合があります。

修正番号：20

2.2.4.1 ノードのファームウェア版数の確認

	Administratorグループ	その他のグループ
実行できるユーザー	<div>Admin Operator Monitor</div>	<div>Admin Operator Monitor</div>

GUI を使った操作例を示します。

- 対象ノードの現在のノード情報を取得します。
ノード情報取得の詳細は、「2.2.1.1 データセンター/フロア/ラック/ノードの登録」の「ノード情報の管理」を参照してください。
- ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ノード]を選択します。
- [カラム表示]欄で[ファームウェア]を選択します。
- 現行バージョン欄を確認します。
現行バージョン欄が現在動作中のファームウェア版数を表しています。

ポイント

[ノード]画面に表示されるノード数が多くなると、[カラム表示]欄を[ファームウェア]に切り替えた後、画面が表示されるまでに1分から数分かかります。

その場合は、ログインユーザーが扱うノード数を200ノード以内を目安に制限することで表示時間を短縮することができます。

ログインユーザーあたりの扱いノード数は、ノードグループ機能およびユーザーグループ機能を利用して設定することが出来ます。ノードグループ機能の詳細は「2.3.1 ユーザー管理機能」を参照してください。

また、全ノードのファームウェア版数一覧が不要で、特定ノードの版数だけを確認する場合は、目的ノードのノード詳細画面を表示した上で[ファームウェア]タブに切り替えることにより短時間でファームウェア版数を確認することができます。

修正番号：21

2.2.4.2 ファームウェアのアップデート

以下について説明します。

- アップデート時の動作
- ファームウェアアップデートの実施

ファームウェアをアップデートする場合は、事前にファームウェアデータを ISM にインポートする作業が必要となります。

ファームウェアデータを富士通の Web サイトなどからダウンロードし（下図（1））、それを ISM-VA 上のリポジトリに転送します（下図（2）（3））。ISM はリポジトリに配置されたファームウェアデータを使用して対象ノードのアップデートを実行します（下図（4））。

リポジトリへファームウェアデータを転送する操作の詳細は、「2.3.2 リポジトリ管理機能」を参照してください。

修正番号：22

2.2.4.2 ファームウェアのアップデート

アップデート時の動作

ファームウェアアップデートの対象ノードの種別に応じて、アップデート時およびアップデート後の動作が異なります。以下に示す表に従ってアップデートを実施してください。

種別	アップデート時およびアップデート後の動作
サーバ (iRMC)	サーバの電源がオン・オフどちらの状態でもアップデートが可能です。
サーバ (BIOS)	サーバの電源がオン・オフどちらの状態でもアップデートが可能です。 電源オンの状態でアップデートした場合は、新しいファームウェア (BIOS) に切り替えるためにサーバの再起動、および電源をオンにする操作が必要です。再起動は任意のタイミングで行ってください。再起動時に自動でファームウェアの適用が行われ、その後サーバの電源がオフになります。電源オフになったあとで、ISM の「ノード詳細」画面などで電源をオンにすることで新しいファームウェアに切り替わります。 電源オフの状態でアップデートした場合は、新しいファームウェア (BIOS) に切り替えるためにサーバの電源をオンにする操作が必要です。ファームウェアのアップデートが完了したタイミングで自動的に電源がオン状態になり、その後サーバの電源がオフになります。電源オフになったあとで、ISM の「ノード詳細」画面などで電源をオンにすることで新しいファームウェアに切り替わります。
サーバ (搭載 PCI カード)	サーバで、サポート対象 OS が動作している場合にアップデートを実施できます。新しいファームウェアが動作するのは再起動後になります。再起動は任意のタイミングで行ってください。
スイッチ ストレージ	ノードの電源がオンの状態でファームウェア アップデート を実施します。ファームウェアアップデート後にノードの再起動が実施される場合があります。

修正番号：23

2.2.4.2 ファームウェアのアップデート ファームウェアアップデートの実施

注意

- アップデート中は以下の事項を遵守してください。
 - 対象ノードの電源をオフにしない。
 - 対象ノードの再起動、リセットを行わない。
 - ISMと対象ノードの間のネットワークを切断しない。
 - 管理サーバを再起動しない。管理サーバの電源をオフにしない。
 - リポジトリからファームウェアファイル [インポートデータ](#)、[ファームウェアデータ](#) を削除しない。
- アップデート開始前に、ファームウェアデータ添付のドキュメントなどに記載されている注意事項を確認してください。
- アップデート操作の前に、対象ノードに対して適用可能なファームウェアデータをインポートしておく必要があります。
ファームウェアデータのインポートについては、「2.3.2 リポジトリ管理機能」を参照してください。
- ファームウェアの版数を下げることできません。
- ネットワークスイッチのアップデート後、スイッチはリセットされるため、通信が一時的に切断されます。ネットワークを冗長化している場合は冗長構成の片側ずつ順番にアップデートするなどしてください。
- ETERNUS DX/AFのファームウェアアップデートを行う際は、Maintainerのロールを持つアカウント情報がISMに登録されている必要があります。
- PCIカードのファームウェアアップデートを行う際は、PCIカードが搭載されているサーバのOS情報がISMに登録されている必要があります。
ノードのOS情報の登録については、「2.2.1.1 データセンター/フロア/ラック/ノードの登録」の「ノードのOS情報の登録」を参照してください。また、PCIカードのファームウェアアップデートは、OSタイプが以下のもののみ対応しています。
 - CentOS
 - Red Hat Enterprise Linux
- サーバに搭載されるPCIカードのファームウェアアップデートは、搭載されている同一種類のカードすべてに対して実行されます。
同一種類のカードが複数存在する場合、カードごとに異なるファームウェア版数を指示したり、一部のカードだけをアップデート対象とすることはできません。ISM画面上で一部のカードだけをアップデート対象に指定した場合や、それぞれ異なるファームウェア版数を指定した場合も、同一種類のカードはすべてファームウェアアップデートが実行され、アップデートされる版数は指示したファームウェア版数の中において、最も新しい版数となります。
- ~~以下のPCIカードのファームウェアアップデートを行う際には、それらが搭載されているサーバにEmulex OneCommand Manager CLIが導入されている必要があります。~~
~~ファームウェア名：LPe1250、LPe12002、LPe16000、LPe16002、OCe10102、OCe14102~~
~~Emulex OneCommand Manager CLIの導入については、「2.3.3 Emulex OneCommand Manager CLI、Qlogic QConvergeConsole CLIの導入」を参照してください。~~
- ~~以下のPCIカードのファームウェアアップデートを行う際には、それらが搭載されているサーバにQlogic QConvergeConsole CLIが導入されている必要があります。~~
~~ファームウェア名：QLE2560、QLE2562、QLE2670、QLE2672~~
~~Qlogic QConvergeConsole CLIの導入については、「2.3.3 Emulex OneCommand Manager CLI、Qlogic QConvergeConsole CLIの導入」を参照してください。~~
- [Linux上の富士通PCIカード\(FC/CNA/LANカード\)のファームウェアアップデートをするためには、対象サーバのOS上にEmulex OneCommand Manager CLI、または、QLogic QConvergeConsole CLIがインストールされている必要があります。](#)
[Emulex OneCommand Manager CLI、Qlogic QConvergeConsole CLIの導入については、「2.3.3 Emulex OneCommand](#)

Manager CLI、Qlogic QConvergeConsoleCLIの導入」を参照してください。

- 以下のPCIカードの一部のノード、PCIカードは現行バージョン欄と最新バージョン欄に表示される版数のフォーマットはが異なります。

ファームウェア名：QLE2560、QLE2562、QLE2670、QLE2672

~~現行バージョン欄には<ファームウェアバージョン>、<BIOSバージョン>が表示され、最新バージョン欄には<BIOSバージョン>が表示されます。該当するノード、PCIカードと表示のされ方は弊社の本製品Webサイトを参照してください。~~

<http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/environment/>

- 一部のノードはファームウェアアップデートにあたって段階適用を行う必要があります。各ファームウェアデータに添付されるドキュメントを参照してください。
- サーバ搭載のPCIカードおよびサーバのBIOSのアップデートでは、ISM上でアップデート処理が完了しても古いファームウェアで動作しています。新しいファームウェアに動作を切り替えるために、以下の手順を行ってください。
 - サーバ搭載のPCIカードをアップデートした場合は、新しいファームウェアに切り替えるためにサーバの再起動が必要です。再起動は任意のタイミングで行ってください。
 - 電源オンの状態でサーバのBIOSをアップデートした場合は、新しいファームウェア（BIOS）に切り替えるためにサーバの再起動、および電源をオンにする操作が必要です。再起動は任意のタイミングで行ってください。再起動時に自動でファームウェアの適用が行われ、その後サーバの電源がオフになります。電源オフになったあとで、ISMの「ノード詳細」画面などで電源をオンにすることで新しいファームウェアに切り替わります。
 - 電源オフの状態でサーバのBIOSをアップデートした場合は、新しいファームウェア（BIOS）に切り替えるためにサーバの電源をオンにする操作が必要です。ファームウェアのアップデートが完了したタイミングで自動的に電源がオン状態になり、その後サーバの電源がオフになります。電源オフになったあとで、ISMの「ノード詳細」画面などで電源をオンにすることで新しいファームウェアに切り替わります。
- ファームウェアアップデート処理が正常に開始できない場合やアップデートに失敗した場合、通常はISMのアップデート処理はエラー終了します。~~しかし、アップデート途中で対象ノードが応答しなくなる場合などはタイムアウトエラーの検出は行いません。~~

想定される作業時間を大きく超えても処理が完了しない場合は、対象ノードの状態を直接確認してください。異常の場合は、ISM上のファームウェアアップデートのタスクをキャンセルしてください。

目安となるファームウェアアップデートの処理時間については、Webに記載される情報を参照してください。

修正番号：24

2.2.4.3 ファームウェアデータに添付されているドキュメントの確認

ファームウェアアップデートを実行する際、ファームウェアインポート時に取り込んだドキュメントを確認できます。

1. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ノード]を選択します。
2. [カラム表示]欄で[ファームウェア]を選択します。
3. アップデートを行うノードにチェックを付け、[アクション]ボタンから[ファームウェア更新]を選択します。
4. プルダウンメニューから更新バージョン、~~リポジトリ~~インポートデータを選択して、[次へ]ボタンをクリックします。
5. [ドキュメントURL] 欄で確認したいドキュメントのURLを選択し、ドキュメントを確認します。

ポイント

- ISMを使用したアップデートの方法は、ファームウェアデータに添付されているドキュメントに記載されている方法とは異なります。
 - サーバのiRMC/BIOSのOnlineアップデート方法は、ファームウェアデータに添付されているドキュメントの「オンラインアップデート」とは異なり、「リモートアップデート」に相当する処理が行われます。ファームウェアデータはISM-VA内のTFTPサーバから、対象サーバのiRMC Webインターフェースを利用して転送されます。
-

修正番号 : 25

2.2.5 ログ管理機能

収集可能なログの種類

ログ管理機能は、ハードウェアログ、オペレーティングシステムログ、ServerView Suite ログの3種類のログが収集可能です。サポートするハードウェアやOSなどの詳細は、弊社の本製品 Web サイトを参照してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/>

ハードウェアログ

各種管理対象ノードの装置ログを収集します。

種別	収集対象ノード	収集する保管ログ種類	解析および蓄積されるノードログ種類
サーバ	PRIMERGY	SEL	SEL
ストレージ	ETERNUS DX/AF	export log コマンドの出力結果 show events コマンドの出力結果	show events コマンドの出力結果
スイッチ	SR-X	show tech-support コマンドの出力結果	show logging syslog コマンドの出力結果 (show tech-support コマンドの出力結果に含まれている)
	VDX	copy support コマンドで作成される各種ファイル	show logging raslog コマンドの出力結果 show logging audit コマンドの出力結果 (copy support コマンドで作成される<任意の文字列>.INFRA_USER.txt.gz ファイルに含まれている)

修正番号：26

2.2.5 ログ管理機能

ログ保管先のディスク容量監視機能

ログファイルは、ノードが所属しているユーザーグループのログ保存領域に保管されます。

本機能はユーザーグループのログ保存領域の容量を監視します。

保管されるログファイルの最大容量は、保管ログ、ノードログ（ダウンロード用データ）、ノードログ（ログ検索用データ）それぞれ10GBで設定されています。この設定値は変更できません。[ISMが保管する各種ログファイル\(保管ログ、ノードログ（ダウンロード用データ）、ノードログ（ログ検索用データ）\)の総容量の上限（サイズ制限）とディスク容量監視（しきい値監視）の設定値はユーザーグループ設定に設定されています。ユーザーグループ設定については、「2.3.1.2 ユーザーグループの管理」を参照してください。](#)

それぞれのログファイル容量[各種ログファイルの総容量](#)が設定値に近づくと、ISMの[イベント/タスク]-[イベント]-[運用ログ]に警告/エラーイベントが登録されます。設定値を超えた（エラーイベントが登録された）場合は、新たなログは取得[保管](#)されません。

警告/エラーイベントが登録された場合、イベントが発生したノード、または、同じユーザーグループに所属している別ノードに対して、手作業で不要なログを削除するか、保管期限を超えたログが自動削除されて空き領域が増えると、新しいログが取得[保管](#)されるようになります。

条件	動作
ログのデータ量が設定した容量の 80% を超えた場合 ログファイルの総容量がディスク容量監視の設定値の容量を超えた場合例 。 上限設定値が 10GB、ディスク容量監視の設定値が 80% の場合、ログファイルの総容量が 8GB を超えると右記動作を行います。	<ul style="list-style-type: none">● ログ収集は行う。● [イベント]-[運用ログ]に警告イベントが出力される。 表示されるメッセージは以下のような内容になります。<ul style="list-style-type: none">○ 保管ログの場合 保管ログ保存領域のデータ量がしきい値を超過しました。 「保管ログの削除」参照○ ノードログ（ダウンロード用データ）の場合 ノードログ（ダウンロード用データ）保存領域のデータ量がしきい値を超過しました。 「ノードログの削除」参照○ ノードログ（ログ検索用データ）の場合 ノードログ（ログ検索用データ）保存領域のデータ量がしきい値を超過しました。 「ノードログの削除」参照
ログのデータ量が設定した容量を超えた場合 ログファイルの総容量が上限設定値を超えた場合例 。 上限設定値が 10GB の場合、ログファイルの総容量が 10GB を超えると右記動作を行います。	<ul style="list-style-type: none">● ログ収集を行わない。● [イベント]-[運用ログ]にエラーイベントが出力される。 表示されるメッセージは以下のような内容になります。<ul style="list-style-type: none">○ 保管ログの場合 保管ログ保存領域の設定容量を超過しました。 「保管ログの削除」参照○ ノードログ（ダウンロード用データ）の場合 ノードログ（ダウンロード用データ）保存領域の設定容量を超過しました。 「ノードログの削除」参照○ ノードログ（ログ検索用データ）の場合 ノードログ（ログ検索用データ）保存領域の設定容量を超過しました。 「ノードログの削除」参照

修正番号：27

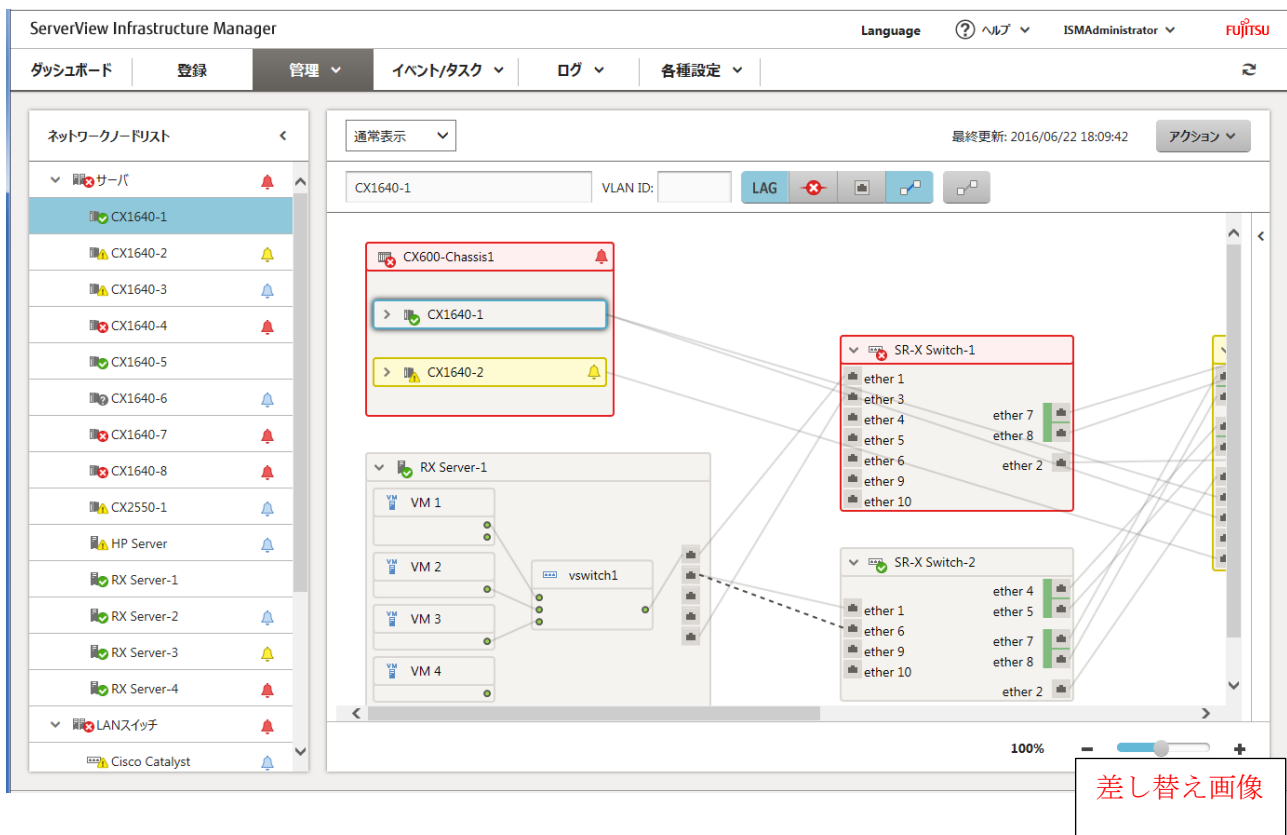
2.2.6 ネットワーク管理機能

ネットワーク管理機能は主に以下の用途で利用する機能です。

- 管理対象ノード間の物理のネットワーク接続情報やポートの情報を確認
- 管理対象ノード間のネットワーク接続情報の変化を確認
- 管理対象ノードの物理的なポートとそのノード上の仮想マシン、仮想スイッチの仮想的なポートとの仮想的な接続関係を確認
- VLAN、LAG リンクアグリゲーション 設定を確認、変更

修正番号 : 28

2.2.6 ネットワーク管理機能



修正番号：29

2.2.6 ネットワーク管理機能

以下について説明します。

- ネットワーク接続情報の表示
- ネットワーク管理情報の更新
- ネットワーク接続の変化情報の確認
- ネットワーク接続の変化情報の基準設定
- VLAN、LAG、[リンクアグリゲーション](#)設定の確認
- [VLAN 設定の変更](#)
- [リンクアグリゲーション設定の変更](#)
- 手動でのネットワーク接続情報の設定

修正番号：30

2.2.6 ネットワーク管理機能

ネットワーク接続情報の表示

The screenshot shows a web interface for network management. On the left, there is a label '実行できるユーザー' (Users who can execute). To its right, there are two main sections. The first section is titled 'Administratorグループ' (Administrator group) and contains three buttons: 'Admin', 'Operator', and 'Monitor'. The second section is titled 'その他のグループ' (Other groups) and also contains three buttons: 'Admin', 'Operator', and 'Monitor'.

管理対象ノード間のネットワーク接続情報をネットワークの接続図（ネットワークマップ）としてグラフィカルに確認できます。簡単な操作で各管理対象ノードやそのポートの状態を含む詳細な情報が表示されます。サーバ、ネットワークスイッチの接続関係を1つの画面で確認できます。加えて、管理対象ノードの物理的なポートとそのノード上の仮想マシン、仮想スイッチの仮想的なポートとの仮想的な接続関係が確認できます。

修正番号：31

2.2.6 ネットワーク管理機能

ネットワーク接続情報の表示

ポイント

- ネットワークマップでは、ネットワークノードリストから選択したノードと接続関係にあるノードが表示されます。ネットワークマップ上のノードの[>]アイコンをクリックすると、ノード内のポートが展開表示されます。
- [ネットワークマップ]画面に表示されるノード数が増えると、ネットワークマップ画面が表示されるまでに1分から数分かかります。

その場合は、ログインユーザーが扱うノード数を200ノード以内を目安に制限することで表示時間を短縮することができます。

ログインユーザーあたりの扱いノード数は、ノードグループ機能およびユーザーグループ機能を利用して設定することができます。ノードグループ機能の詳細は「2.3.1 ユーザー管理機能」を参照してください。

修正番号：32

2.2.6 ネットワーク管理機能

ネットワーク接続情報の表示

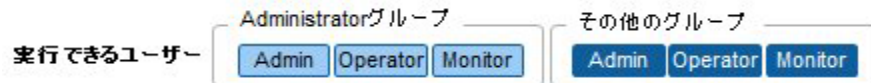
注意

-
-
- ネットワークの接続情報はLLDP (Link Layer Discovery Protocol) を利用して取得されます。LLDPに対応していないノードやLLDPが無効になっている場合、実際に接続が存在していても接続情報は取得できません。ノードのLLDP対応の有無、ノードのLLDP設定の有効・無効の確認方法については、各ノードの仕様を確認してください。
 - 表示される接続図 [ネットワークマップ](#) は、前回の[ネットワーク管理情報の更新]操作時に取得した状態、またはISMによる1日1回の定期的なネットワーク管理情報の更新時の状態になります。ノード登録後、接続変更後または異常発生時などに最新状態を確認する場合は[アクション]ボタンから[ネットワーク管理情報の更新]を実行してください。また、ノードのハードウェア構成変更後は、対象ノードの「ノード詳細」画面で[ノード情報取得]を実行後に、[ネットワーク管理情報の更新]を実行してください。定期的なネットワーク管理情報の更新は、AM4:00に実行が開始されます。
 - 仮想スイッチ、仮想マシンの接続関係を表示するためには管理対象ノードを管理している仮想化管理ソフトウェアをISMに登録し、管理対象ノードのOS情報を登録しておく必要があります。仮想化管理ソフトウェアの登録については「2.3.6 仮想化管理ソフトウェア管理機能」、OS情報の登録については「2.2.1.1 データセンター/フロア/ラック/ノードの登録」をご参照ください。
-
-

修正番号：33

2.2.6 ネットワーク管理機能

ネットワーク管理情報の更新



ネットワーク接続情報は定期的に最新情報に更新されます。また、ユーザーの任意のタイミングで手動更新することもできます。以下はネットワーク管理情報の更新の操作手順です。

操作手順

1. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ネットワークマップ]を選択します。
2. [アクション]ボタンから[ネットワーク管理情報の更新]を選択します。
3. [更新^{はい}]ボタンをクリックします。

注意

ネットワーク管理情報の更新中に、ネットワーク接続情報の取得および、各ノードへの設定はできません。情報更新の完了後に操作してください。

ポイント

-
- ネットワーク管理情報の更新は管理対象ノードの数に応じて時間がかかります。情報更新の完了は、イベント/タスクの運用ログで更新の完了を示すイベントを確認してください。
 - ネットワーク管理情報の最終更新時刻はネットワークマップ右上に表示されます。この最終更新時刻は最後に情報の更新が完了した時刻を指します。
 - ネットワーク管理情報は、1日に1度、AM4:00に定期的に更新されます。
 - ネットワーク管理情報の更新は、各ノードの情報の更新後に実行することで最新化できます。
-
-

修正番号：34

2.2.6 ネットワーク管理機能

ネットワーク接続の変化情報の確認

The screenshot shows a web interface for network management. On the left, there is a label '実行できるユーザー' (Users who can execute). To its right, there are two main sections: 'Administratorグループ' (Administrator Group) and 'その他のグループ' (Other Groups). Each section contains three buttons: 'Admin', 'Operator', and 'Monitor'. The 'Admin' button in the 'Administratorグループ' section is highlighted with a blue border.

ネットワークマップでは、設定された基準時点からのネットワーク接続の状態変化を確認できます。状態変化の種類には「追加」と「削除」があります。

「追加」は接続の追加などの新規の接続が検出された場合です。「追加」された接続は、接続図中[ネットワークマップ上](#)に太実線で表示されます。

「削除」は接続断や接続の撤去によりこれまで検出していた接続が存在しなくなった場合です。「削除」された接続は接続図中[ネットワークマップ上](#)に太破線で表示されます。

本機能を使用してネットワーク接続の変化を捉え、ネットワークの接続断を検出し、その箇所を特定できます。

また、以下の操作手順により、ネットワーク接続の変化情報をリスト形式で確認できます。

修正番号：35

2.2.6 ネットワーク管理機能

ネットワーク接続の変化情報の確認

ポイント

現在設定されている「基準時点」は、[接続情報変化の確認]の[最終更新日時]で確認することができます。

注意

[接続情報変化の確認]で[更新]ボタンをクリックした場合、基準時点が更新されて、変化情報が削除されます。

修正番号：36

2.2.6 ネットワーク管理機能

ネットワーク接続の変化情報の基準設定

実行できるユーザー

Administratorグループ

Admin Operator Monitor

その他のグループ

Admin Operator Monitor

ネットワーク接続の変化情報は、ある基準時点からの変化（追加、削除）を表示したものです。この基準時点を更新できます。基準時点はネットワーク接続の構成を変更した場合などに設定します。基準時点を更新すると、その時点から「追加」または「削除」によって変化したネットワーク接続情報が表示されます。以下の操作手順で更新できます。

操作手順

- ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ネットワークマップ]を選択します。
画面左側のネットワークノードリストに、ネットワークマップ表示対象のノード一覧がツリー構造で表示されます。
- ネットワークノードリストから、確認したいネットワーク接続のポイントとなるノードを選択します。
ネットワークマップを開いた時点では、ネットワークノードリストの一番上のノードが選択された状態になっています。
画面中央にネットワークマップが表示されます。
- [アクション]ボタンから[接続変化情報の確認]を選択します。最終更新の日時が現在設定されている基準時点です。
- [更新]ボタンをクリックします。
確認画面が表示されます。
- 内容を確認し、[はい]ボタンをクリックします。
基準時点が更新操作を実行した時刻に更新されます。

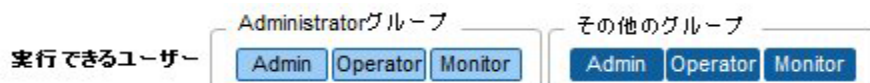
ポイント

ネットワーク接続の変化情報の基準設定は、ISMのサービスの初回起動時のみ自動的に更新されます。

修正番号：37

2.2.6 ネットワーク管理機能

VLAN、LAGリンクアグリゲーション設定の確認



ネットワークスイッチに設定された VLAN、LAGリンクアグリゲーションの設定状態を専用の GUI 画面で確認できます。

ネットワーク接続図マップ上で、設定を視覚的に確認できます。

操作手順（VLANの例）

- ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ネットワークマップ]を選択します。
画面左側のネットワークノードリストに、ネットワークマップ表示対象のノード一覧がツリー構造で表示されます。
- ネットワークノードリストから、確認したいネットワーク接続のポイントとなるノードを選択します。
ネットワークマップを開いた時点では、ネットワークノードリストの一番上のノードが選択された状態になっています。
画面中央にネットワークマップが表示されます。
- ~~[アクション]ボタンから[VLAN表示]-[表示設定]を選択します。VLAN IDのテキストボックスに表示したいVLANのIDを入力します。~~
- ~~表示したいVLAN IDを入力し、[表示]ボタンをクリックします。~~

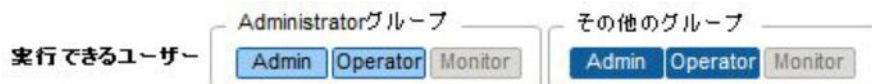
操作手順（LAGリンクアグリゲーションの例）

- ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ネットワークマップ]を選択します。
画面左側のネットワークノードリストに、ネットワークマップ表示対象のノード一覧がツリー構造で表示されます。
- ネットワークノードリストから、確認したいネットワーク接続のポイントとなるノードを選択します。
ネットワークマップを開いた時点では、ネットワークノードリストの一番上のノードが選択された状態になっています。
画面中央にネットワークマップが表示されます。
- ~~ネットワークマップ左上に表示されているプルダウンメニューから[リンクアグリゲーション]を選択します。ネットワークマップ上のノードの[>]アイコンをクリックすると、ノード内のポートが展開されリンクアグリゲーションの設定が表示されます。~~

修正番号：38

2.2.6 ネットワーク管理機能

VLAN設定の変更



ネットワークスイッチの VLAN 設定を変更することができます。

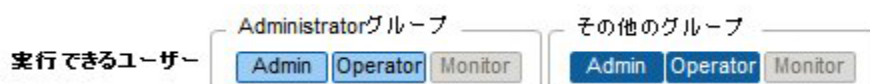
操作手順

1. ISM の GUI でグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ネットワークマップ]を選択します。
2. 画面中央にネットワークマップが表示されます。
ネットワークマップを開いた時点では、画面左上のネットワークノードリストの先頭のノードが選択された状態になっているので、設定したいネットワーク接続のポイントとなるノードを選んで、選択状態にします。
3. ネットワークマップ左上に表示されるプルダウンメニューから[一括設定]を選択します。
4. ネットワークマップ内のノードの[>]アイコンをクリックすると、ノード内のポートが展開表示されるので、同じ VLAN ID を設定したいポートをそれぞれクリックしてチェックを入れ、[アクション]ボタンから[VLAN 一括設定]を選択します。
5. 設定する VLAN ID を入力、内容を編集し、[確認]ボタンをクリックします。
6. 設定の変更内容を確認し、[登録]ボタンをクリックすると VLAN 設定が変更されます。

注意

- VLAN 設定はネットワークスイッチのモデルによって仕様が異なる場合があります。装置仕様を確認した後、設定を行ってください。
- 管理対象ノードに一度に設定可能なポート数は1つ、VLAN ID の数は100個までとなります。
- ネットワークスイッチのモデルによって予約済みのVLAN ID が存在します。予約済みのVLAN ID については設定の変更ができません。各ノードの仕様を確認してください。

リンクアグリゲーション(LAG)設定の変更



ネットワークスイッチのリンクアグリゲーション設定を変更することができます。

操作手順(追加の例)

1. ISM の GUI でグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ネットワークマップ]を選択します。
2. ネットワークノードリストから、設定したいネットワーク接続のポイントとなるノードを選択します。
ネットワークマップを開いた時点では、ネットワークノードリストの一番上のノードが選択された状態になっています。
画面中央にネットワークマップが表示されます。
3. [アクション]ボタンから[LAG 設定]を選択します。
4. リンクアグリゲーションを設定する対象のノード名を選び、リンクアグリゲーション設定の「追加」を選択します。
5. LAG 名、動作モードを入力し、リンクアグリゲーションを設定するポートにチェックを入れ、[確認]ボタンをクリックします。
6. リンクアグリゲーションの設定内容を確認し、[登録]ボタンをクリックします。

注意

- リンクアグリゲーション設定はネットワークスイッチのモデルによって仕様が異なる場合があります。装置仕様を確認した後、設定を行ってください。
 - ネットワークスイッチのモデルによって設定可能な LAG 名が異なります。設定可能な LAG 名の範囲については各ノードの仕様を確認してください。
 - ネットワークスイッチのモデルによって設定可能な動作モードが異なります。設定可能な動作モードについては各ノードの仕様を確認してください。
 - VLAN ID が異なるポート同士でリンクアグリゲーションを組むことはできません。ポート同士が同じ VLAN 設定となっていることを確認してリンクアグリゲーション設定を行ってください。
 - 異なるノード間で MLAG を設定する場合、各スイッチに対してリンクアグリゲーション設定の変更を行う必要があります。
-

修正番号：39

2.3.1 ユーザー管理機能

2.3.1.2 ユーザーグループの管理

ユーザーグループの追加



ISM 管理者が、以下の方法で新しくユーザーグループを追加します。

- ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[各種設定]-[基本設定]-[ユーザーグループ]を選択します。
- [アクション]ボタンから[追加]を選択します。

ユーザーグループを追加する場合に設定する情報は、以下のとおりです。

- ユーザーグループ名
ISM全体で、ユニークな名称を指定してください。
- 認証方法
ユーザーグループに属するユーザーの認証方法は、以下のどちらかを指定します。
 - ☐ ISM認証
 - ☐ Microsoft Active DirectoryまたはLDAP連携認証
- 説明
ユーザーグループの説明（コメント）を入力してください。入力内容は任意です。
- ディレクトリサイズ
ユーザーグループで使用するファイルの総容量の上限と警告の通知しきい値を指定できます。

用途	サイズ制限	しきい値監視
ユーザーグループ全体	<ul style="list-style-type: none">● 有効時 ユーザーグループで使用するファイルの総容量を[最大サイズ(MB)]に、MB単位で指定します。 ファイルの総容量とは、以下のデータの合計を意味します。<ul style="list-style-type: none">- リポジトリ- 保管ログ- ノードログ- FTPでISM-VAに取り込むファイル 指定した「最大サイズ(MB)」に対して、実際の使用量がその値を超えた場合、運用ログにエラーメッセージが出力されます。 ただしその場合でも、リポジトリ、保管ログ、ノードログの各々の動作に影響しません。	<ul style="list-style-type: none">● 有効時 警告メッセージを出力するしきい値を[警告しきい値(%)]に指定します。%単位で指定してください。警告メッセージは運用ログに出力されます。
リポジトリ	<ul style="list-style-type: none">● 有効時 リポジトリにインポートするファイルの総容量を[最大サイズ(MB)]に、MB単位で指定します。 指定した「最大サイズ(MB)」に対して、インポートしたファイルの総使用量がその値を超えた場合、実行中のリポジトリへのインポートはエラーになり、エラーメッセージが運用ログに出力されます。	指定できません。

保管ログ	<p>保管ログの総容量を[最大サイズ(MB)]に、MB単位で指定します。</p> <p>指定した「最大サイズ(MB)」に対して、保管ログの総容量がその値を超えた場合、新たに発生したログは保管されなくなり、運用ログにエラーメッセージが出力されます。</p> <p>なお、[最大サイズ(MB)]の設定値を、デフォルトの「0」のままにしておくと、発生したログは保管されず、そのたびに運用ログにエラーメッセージが出力されます。</p> <p>値を超える前に保管されたログはそのまま保管されます。</p>	<p>警告メッセージを出力するしきい値を[警告しきい値(%)]に指定します。％単位で指定してください。警告メッセージは運用ログに出力されます。</p>
ノードログ	<p>ダウンロード用データとログ検索用データの各々の総データ容量を[最大サイズ(MB)]に、MB単位で指定します。</p> <p>(ログ検索用データは、Administrator ユーザーグループにのみ指定できます。)</p> <p>ダウンロード用データ、ログ検索用データのいずれかにおいて、指定した「最大サイズ(MB)」に対して総データ容量がその値を超えた場合、同時に容量のデータが出力されなくなり、運用ログにエラーメッセージが出力されます。</p> <p>なお、いずれか、もしくは両方のデータの「最大サイズ(MB)」の設定値を、デフォルトの「0」のままにしておくと、どちらのデータも出力されず、運用ログにエラーメッセージが出力されます。</p>	<p>ダウンロード用データの容量とログ検索用データの容量に対して、警告メッセージを出力するしきい値を[警告しきい値(%)]に値を指定します。％単位で指定してください。警告メッセージは運用ログに出力されます。</p>

リポジトリにインポートするファイルの総容量、保管ログの容量、ノードログ（ダウンロード用データ、ログ検索用データ）の容量の見積り方法については、「3.2.1 ディスク資源の見積り」を参照してください。

- ノードグループを選択してください。
ノードグループを選択することで、ユーザーグループとノードグループの関連付けを行います。

注意

- ユーザーグループに関連付けられるノードグループは1つだけです。
- ユーザーグループに所属する各ユーザーは、そのユーザーグループに関連付けられたノードグループに所属するノードだけを操作対象にできます。ユーザーグループに関連付けられていないノードグループのノードにはアクセスできません。
- ユーザーグループ作成後は、すぐに「3.7.2 ユーザーグループに対する仮想ディスク割当て」手順を行ってください。

ユーザーグループの編集



以下の方法で、ユーザーグループの情報を編集します。

1. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[各種設定]-[基本設定]-[ユーザーグループ]を選択します。
2. 以下のどちらかを行います。

- 編集したいユーザーグループにチェックを付け、[アクション]ボタンから[編集]を選択します。
- 編集したいユーザーグループ名をクリックし、表示された情報画面で[アクション]ボタンから[編集]を選択します。

編集できる情報は、以下のとおりです。

- ユーザーグループ名
- 認証方法
- 説明
- ディレクトリサイズ

編集内容は、「ユーザーグループの追加」の「ディレクトリサイズ」を参照してください。

- ノードグループを選択してください
ノードグループを選択することで、ユーザーグループとノードグループの関連付けを行います。

注意

-
-
- Administratorグループのグループ名は、変更できません。
 - ~~Administratorグループの認証方法には、「ISM」のみ指定できます。~~
 - ユーザーグループに関連付けられるノードグループは1つだけです。
ノードグループに関連付けられた状態のユーザーグループに、新たに別のノードグループとの関連付けを行った場合、関連付けられていたノードグループとの関連付けは解除されます。
-
-

修正番号 : 40

2.3.1.3 Microsoft Active Directory または LDAP との連携

設定手順

1. Microsoft Active DirectoryまたはLDAP（以降、「ディレクトリサーバ」と表記）と連携するユーザーを、ディレクトリサーバに登録します。
2. Administratorグループに属し、Administratorロールを持つユーザーでISMにログインします。
3. ディレクトリサーバ情報が設定されていない場合、ISMのLDAPサーバの設定で、以下の情報を設定します。
設定内容については、ディレクトリサーバの管理者に、手順1で登録した設定内容を問い合わせてください。

項目	設定内容
LDAPサーバ名	ディレクトリサーバ名を指定します。以下のどれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none">● URLまたはIPアドレス● ldap://url または ldap://IPアドレス● ldaps://url または ldaps://IPアドレス
ポート番号	ディレクトリサーバのポート番号を指定します。
ベースDN	アカウント検索用のベースDNを指定します。ディレクトリサーバの登録内容に依存します。 例) <ul style="list-style-type: none">● LDAPの場合 : ou=Users,ou=system● Microsoft Active Directoryの場合 : DC=company,DC=com
検索属性	アカウント検索用のアカウント属性を指定します。以下のどちらかの固定文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none">● LDAPの場合 : uid● Microsoft Active Directoryの場合 : sAMAccountName
バインドDN	ディレクトリサーバ上で、検索できるアカウントを指定します。ディレクトリサーバの登録内容に依存します。 例) <ul style="list-style-type: none">● LDAPの場合 : uid=ldap_search,ou=system● Microsoft Active Directoryの場合 : CN=ldap_search,OU=user_group,DC=company,DC=com anonymousはサポートしていません。
パスワード	バインドDNで指定したアカウントのパスワードを指定します。

4. 認証方法にMicrosoft Active DirectoryまたはLDAPを設定したユーザーグループを用意します。
5. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[各種設定]-[基本情報]を選択し、[ユーザー]を選択して、手順1で登録したユーザーを追加します。

登録する情報は以下のとおりです。

項目	設定内容
ユーザー名	手順1で登録したユーザー名を指定します。
パスワード	手順 1 のパスワードとは異なり、連携を解除した場合のパスワードを指定します。 なお、ここで指定したパスワードが、FTPでログイン時に使用するパスワードとなります。
ユーザーロール	ISMでのユーザーロールを指定します。
説明	自由な値を指定します。
言語	追加するユーザーで使用する言語を指定します。
日付フォーマット	追加するユーザーで使用する日付フォーマットを指定します。
タイムゾーン	追加するユーザーで使用するタイムゾーンを指定します。

項目	設定内容
ユーザーグループ名	手順4で用意したユーザーグループを指定します。

6. 手順5で登録したユーザーがログインできることを確認します。
ログインできない場合、手順3に戻ってください。

注意

administrator ユーザーは、Microsoft Active Directory または LDAP と連携できません。

修正番号：41

2.3.2 リポジトリ管理機能

リポジトリは、ISM が利用する各種リソースを保管する場所です。各種リソースは、ユーザーグループに関連しています。主に以下の用途で利用します。

- ファームウェアアップデート用のデータを保管
「[ファームウェア管理機能](#)」、「[プロファイル管理機能](#)」で利用されます。
- OSインストール用のOSインストール媒体を保管
「[プロファイル管理機能](#)」で利用されます。
- OSインストールに使用するServerView Suite DVDを保管
「[プロファイル管理機能](#)」で利用されます。

ポイント

リポジトリのディスク領域には、~~ISM-VA~~ に仮想ディスクを割り当てます。仮想ディスクの割当て方法については、~~「3.2.1.2 リポジトリの必要容量の見積り」および「3.6 仮想ディスクの割当て」を参照してください。~~

注意

リポジトリのディスク領域が不足している場合、リポジトリ管理機能の各種データの保存に失敗します。「3.2.1.2 リポジトリの必要容量の見積り」および「3.7 仮想ディスクの割当て」、「2.3.1.2 ユーザーグループの管理」を参照してリポジトリに対して十分なディスク領域を割り当ててください。

修正番号：42

2.3.2 リポジトリ管理機能

ファームウェアデータの保存

操作例を示します。

1. 準備したファームウェアデータを、FTPを使ってISM-VAへ転送します。ISOイメージまたはZIP圧縮されたファームウェアデータを展開したフォルダーを管理サーバへ転送します。
転送方法の詳細は、「2.1.2 FTPアクセス」を参照してください。
2. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[各種設定]-[リポジトリ]を選択します。
3. 以下のどちらかを行います。
 - ファームウェアデータをDVDからリポジトリに保存する場合は、[リポジトリ [インポートデータリスト](#)]タブの[アクション]ボタンから[DVDインポート]を選択します。
 - ファームウェアデータを富士通のWebサイトからリポジトリに保存する場合は、[ファームウェア [インポートデータリスト](#)]タブの[アクション]ボタンから[ファームウェアインポート]を選択します。
4. 画面表示に従い、操作を実行します。

リポジトリからのファームウェアデータの削除

・ファームウェアデータをDVDからリポジトリに保存していた場合

1. [カラム表示]欄で[リポジトリ [インポートデータリスト](#)]タブを選択します。
2. 削除を行う対象にチェックを付け、[アクション]ボタンから[削除]を選択します。
3. 画面表示に従い、操作を実行します。

・ファームウェアデータを富士通のWebサイトからリポジトリに保存していた場合

1. [カラム表示]欄で[ファームウェア [ファームウェアデータ](#)]タブを選択します。
2. 削除を行う対象にチェックを付け、[アクション]ボタンから[削除]を選択します。
3. 画面表示に従い、操作を実行します。

ファームウェアデータのインポート



管理対象ノードによって使用するファームウェア [イメージデータ](#) が異なります。下表のデータを準備してください。データがDVD形式の場合は、ISOイメージファイルを準備してください。

ファームウェアイメージデータ入手先

下記のWebサイトから対象モデルのファームウェアデータをダウンロードしてください。

対象ファームウェア	ファームウェア タイプ (種類)	入手先
PRIMERGY本体 iRMC	iRMC	http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/downloads/
PRIMERGY本体 BIOS	BIOS	
PRIMERGY搭載カード 類	FC	http://support.ts.fujitsu.com/globalflash/FibreChannelController/
	CNA	http://support.ts.fujitsu.com/globalflash/LanController/
ネットワークスイッチ 基本ソフトウェア	LAN Switch (SR-Xモデル)	http://www.fujitsu.com/jp/products/network/download/sr-x/firm/
	LAN Switch (VDXモデル)	http://eservice.fujitsu.com/supportdesk/ [注1]
ストレージ コントローラー	ETERNUS DX/AF	http://eservice.fujitsu.com/supportdesk/ [注1]
		http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/storage/download/ [注2]

[注1] ご利用にはSupportDesk契約が必要です。

[注2] ご利用には「富士通ID (登録無料)」が必要です。

ServerView Suite Update DVDイメージ入手先

以下のPRIMERGYダウンロード検索画面で、「製品名」欄でご利用の製品名を選択し、「添付ソフト／ドライバ名称 (部分一致可)」欄に「Update DVD」と入力して検索してください。

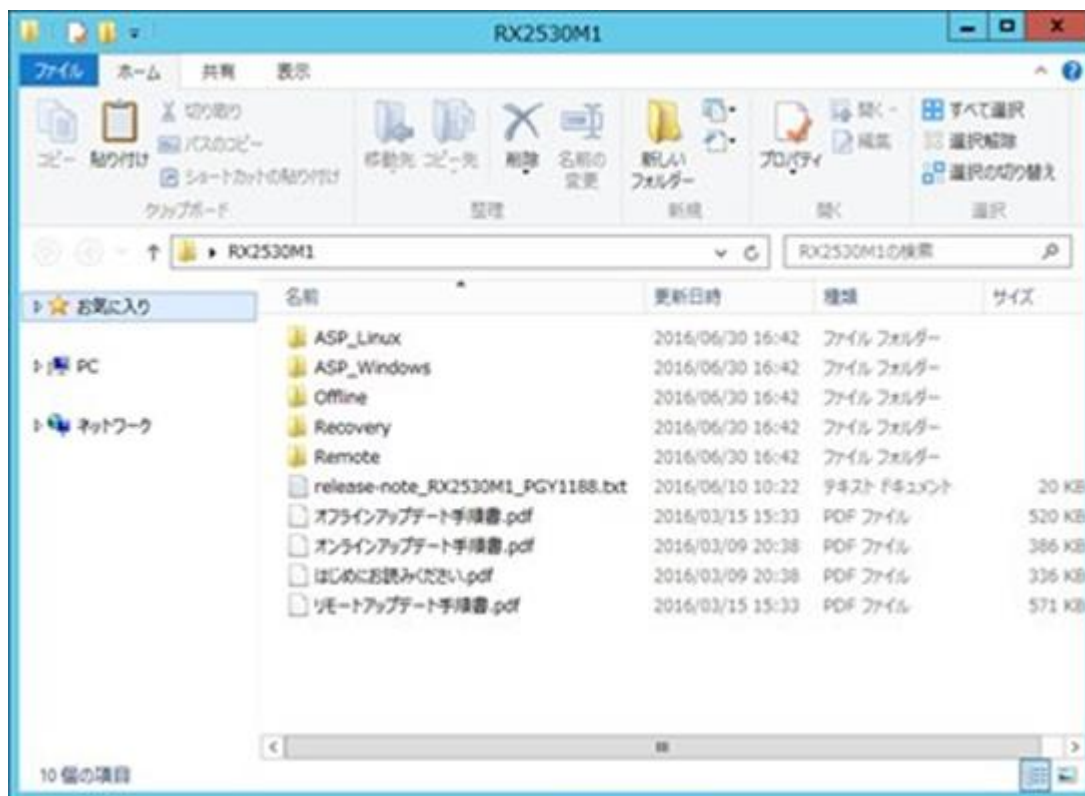
<http://azby.fmworld.net/app/customer/driversearch/ia/drviaindex>

注意

ISM2.0では、Update DVD内に含まれるファームウェアデータでファームウェアアップデートに使用できるものは、ファームウェアタイプがFC、CNAのものだけです。

Administratorグループに所属するadministratorユーザーでファームウェアデータをインポートする場合の操作例を示します。

1. ファームウェアイメージデータ入手先から、ファームウェアイメージデータを入手します。
2. ISOイメージファイルを利用しない場合は、任意のフォルダーにダウンロードしたファイルを格納します。
ダウンロードしたファイルが圧縮ファイルの場合は、フォルダー内で展開してください。



3. FTPを使ってISM-VAへ転送します。

- －FTPコマンドまたはFTPクライアントソフトウェア（FFFTP、WinSCPなど）を使って転送してください。その際、文字コードがUTF-8で変換されるように設定してください。Windows Explorerを使用すると文字コードが正しく扱われないため、使用しないでください。
- －FTPクライアントソフトウェアからISM-VAへログイン後、ルートディレクトリから「<ユーザーグループ名>/ftp」ディレクトリへ移動し、そのディレクトリに転送を行います。
- －ISOイメージファイルを利用しない場合は、必ずフォルダー構造を変更せずに転送してください。

4. ファームウェアデータをインポートします。

- a. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[各種設定]-[リポジトリ]を選択します。
- b. 以下のどちらかを行います。
 - －ISOイメージファイルをリポジトリにインポートする場合は、[リポジトリ]-[インポートデータリスト]の[アクション]ボタンから[DVDインポート]を選択します。
画面表示に従い、ファイルの配置場所、メディアの種類を選択して、[適用]を選択します。
 - －ISOイメージファイルを利用せずにリポジトリにインポートする場合は、
[ファームウェア]-[インポートデータリスト]の[アクション]ボタンから[ファームウェアインポート]を選択します。
画面表示に従い、ファイルの配置場所、種類、モデル、バージョンを入力して、[適用]を選択します。
入力するバージョンは、下記の表に従って入力してください。

種類	モデル	バージョン
iRMC	RX100 S8、CX2550 M1など	iRMCとSDRのバージョン[注1]
BIOS	RX100 S8、CX2550 M1など	BIOSのバージョン[注1]
FC	LPe1250、LPe12002	BIOSとFWのバージョン[注2]
	LPe1600、LPe16002、LPe1250、LPe12002以外のLPeXXX	ファームウェアのバージョン[注2]
	QLE2560、QLE2562、QLE2600、QLE2602、QLEXXX	BIOSのバージョン[注2]
CNA	Oce10102など	ファームウェアのバージョン[注1]

種類	モデル	バージョン
LAN Switch	SR-Xモデル	基本ソフトウェアのバージョン[注1]
	VDXモデル	ファームウェアのバージョン[注1]
ETERNUS DX/AF	ETERNUS DX/AFモデル	ファームウェアのバージョン[注1]

[注1]バージョンについては、リリースノートを参照してください。

[注2]バージョンについては、リリースノートまたはファイル名を参照してください。

リポジトリのインポートには時間がかかることがあります。インポートの開始後、作業がISMのタスクとして登録されます。作業の状況は「タスク」画面で確認してください。

ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[イベント/タスク]-[タスク]を選択すると、「タスク」画面にタスクの一覧が表示されます。

ポイント

- ISMのFTPサーバに配置したファイルはインポートが完了したあとは不要です。FTPのコマンドを使用して削除してください。
- FTPクライアントソフトウェアを使ってファイル転送を行う際、文字コードがUTF-8で変換されるように設定してください。文字コードの変換が正常に行われないと、ISM-VA上でファイルが文字化けを起こすことがあります、正しくインポートが実行できない場合があります。インポートが正しく行われず、インポートしたドキュメントが表示されないなどの場合は、インポート済みのファームウェアデータおよび、ISM-VA上へFTP転送したファイルを削除し、文字コード変換の設定を見直したうえで、再度インポートを行ってください。

修正番号 : 43

2.3.3 Emulex OneCommand Manager CLI、Qlogic QConvergeConsole CLI の導入

注意

- Linux上の富士通PCIカードのファームウェアアップデートをするためには、対象サーバのOS上にEmulex OneCommand Manager CLI、または、QLogic QConvergeConsole CLIがインストールされ、対象のPCIカード情報が取得できる状態である必要があります。インストール、操作方法は、Emulex One Command Manager CLIのマニュアル、QLogic QConvergeConsole CLIのマニュアルを参照してください。~~Emulex OneCommand Manager CLIのインストールが必要になる型番は、以下のとおりです。~~

~~PG-FC203, PGBFC203, PG-FC203L, PGBFC203L, PG-FC204, PGBFC204, PG-FC204L, PGBFC204L,
PY-FC201, PYBFC201, PY-FC201L, PYBFC201L, PY-FC202, PYBFC202, PY-FC202L, PYBFC202L,
PY-FC221, PYBFC221, PYBFC221L, PY-FC222, PYBFC222, PYBFC222L,
PY-CN302, PYBCN302, PYBCN302L, PY-CN202, PYBCN202, PY-CN202L, PYBCN202L,
PY-LA3A2, PYBLA3A2, PYBLA3A2L, PY-LA3B2, PYBLA3B2, PYBLA3B2L~~

~~QLogic QConvergeConsole CLIのインストールが必要になる型番は、以下のとおりです。~~

~~PG-FC205, PGBFC205, PG-FC205L, PGBFC205L, PG-FC206, PGBFC206, PG-FC206L, PGBFC206L,
PY-FC211, PYBFC211, PY-FC211L, PYBFC211L, PY-FC212, PYBFC212, PY-FC212L, PYBFC212L,
PY-FC311, PYBFC311, PYBFC311L, PY-FC312, PYBFC312, PYBFC312L~~

[Emulex OneCommand Manager CLI、QLogic QConvergeConsole CLIのインストールが必要になるPCIカードは弊社の本製品Webサイトを参照してください。](#)

<http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/environment/>

- Linux上のPCIカードのファームウェアアップデートをするためには、対象サーバ上のLinuxでlspciコマンドが実行できる必要があります。

修正番号：44

2.3.5.1 ISM-VA 管理機能のコマンド一覧

保守機能

機能	コマンド
保守ログ採取	ismadm system snap
システム情報の表示	ismadm system show
修正適用	ismadm system patch-add
プラグイン適用	ismadm system plugin-add
ホスト名変更	ismadm system modify
障害調査ログ切替え	ismadm system set-debug-flag
SNMP コミュニティ名設定	ismadm snmp

修正番号：45

2.3.5.1 ISM-VA 管理機能のコマンド一覧

MIBファイル設定

機能	コマンド
MIB ファイル登録	<code>ismadm mib import</code>
MIB ファイル表示	<code>ismadm mib show</code>
MIB ファイル削除	<code>ismadm mib delete</code>

修正番号：46

2.3.6 仮想化管理ソフトウェア管理機能

仮想化管理ソフトウェアとの連携機能を利用する場合は、ISM に仮想化管理ソフトウェアを登録します。

仮想化管理ソフトウェアの登録



新しく仮想化管理ソフトウェアを登録する場合の操作方法を示します。

- ISM の GUI でグローバルナビゲーションメニューから[各種設定]-[基本設定]-[仮想化管理ソフトウェア]を選択します。
- [アクション]ボタンから[登録]を選択します。
- 登録に必要な情報を入力します。
 - 仮想化管理ソフトウェア名
ISM 全体で、一意な名称を設定してください。
 - IP アドレス
仮想化管理ソフトウェアの[IP アドレス]を設定してください。
Microsoft Failover Cluster の場合にはクラスタ仮想 IP を登録してください。
 - タイプ
登録する仮想化管理ソフトの種類を選択してください。
Microsoft Failover Cluster の場合には Windows Server のバージョンも指定してください。
 - アカウント情報
CMS の[アカウント名]、[パスワード]を設定してください。
CMS がドメインに参加している場合は、[ドメイン名]も設定してください。
 - URL
仮想化管理ソフトウェアに Web 管理画面にアクセスするための URL を設定してください。
[タイプ]に Web 管理機能を提供する仮想化管理ソフトウェアを指定した場合は、Web 管理画面にアクセスするための URL を設定してください。
 - ユーザーグループ
管理するユーザーグループ名を選択してください。
- [登録]ボタンをクリックします。仮想化管理ソフトウェアリスト画面に登録した仮想化管理ソフトウェアが表示されます。

注意

[タイプ]にMicrosoft Failover Clusterを指定した場合は、[ドメイン名]を必ず設定してください。

仮想化管理ソフトウェアからの情報取得



ISM では、24 時間周期で登録した仮想化管理ソフトウェアから以下の情報が取得されます。

- 仮想マシン情報

取得された仮想マシン情報は、ISM に登録されているノードの OS 情報と紐付けて管理されます。取得された各ノードの仮想マシン情報は、ノード詳細画面の[仮想マシン]タブで確認できます。

最後に仮想化管理ソフトウェアから情報取得が行われた時刻が[最終情報取得日時]に表示されます。一度も情報取得が行われていない場合は、表示されません。

手動で仮想化管理ソフトウェアから情報取得を行う場合、以下の手順を実行してください。

- ISM の GUI でグローバルナビゲーションから[各種設定]-[基本設定]-[仮想化管理ソフトウェア]を選択します。
- [CMS 情報取得] ボタンを押し、[実行]します。

情報取得が完了すると、イベントログにメッセージ ID 「10021503」 のログが出力されます。

注意

Microsoft Failover Clusterをご使用の環境で、仮想マシンをHyper-Vマネージャーから削除した場合には、その仮想マシンをフェールオーバークラスタマネージャの役割からも削除してください。

仮想化管理ソフトウェアの編集



ISMに登録されている仮想化管理ソフトウェア情報を編集する場合の操作方法を示します。

1. ISMのGUIでグローバルナビゲーションから[各種設定]-[基本設定]-[仮想化管理ソフトウェア]を選択し、表示される[仮想化管理ソフトウェアリスト]画面で、対象の仮想管理ソフトウェアを選択します。
2. [アクション]ボタンから[編集]を選択します。
3. 情報を編集します。
4. [登録]を実行し、情報の内容を反映します。

仮想化管理ソフトウェアの削除



ISMに登録されている仮想化管理ソフトウェアを削除する場合の操作方法を示します。

1. ISMのGUIでグローバルナビゲーションから[各種設定]-[基本設定]-[仮想化管理ソフトウェア]を選択し、表示される[仮想化管理ソフトウェアリスト]画面で、対象の仮想管理ソフトウェアを選択します。
2. [アクション]ボタンから[削除]を選択します。
3. [削除]を実行し、仮想化管理ソフトウェアを削除します。

修正番号：47

2.4.3 ユーザーグループ削除時

ユーザーグループを削除する場合は、事前に以下の操作を完了させてください。

- 適用済みプロファイルは適用を解除してください。
- ユーザーグループに含まれるプロファイル、プロファイルグループ、ポリシー、ポリシーグループは削除してください。
- インポートしたOSメディア、SVS DVD、~~フームウェアデータ~~はリポジトリから削除してください。
- ログ収集スケジュールは削除してください。
- 保存したログは削除してください。

修正番号：48

2.4.4 ユーザーグループ名の変更時

ユーザーグループ名を変更する場合は、事前に以下のタスクが実行中で存在していないことを確認してください。

- ファームウェアデータのインポート操作
- ファームウェアのアップデート操作

修正番号：49

3.1 ISM 導入の流れ

(1) 導入設計

ISM を導入するにあたって事前に準備しておくべき作業は以下のとおりです。

- ディスク資源の見積り
- リポジトリの設定
- ネットワークの構成設計
- ノード名/~~プロファイル名~~の設定
- ユーザーの設定

作業内容については、「3.2 ISM の導入設計」を参照してください。

修正番号 : 50

3.1 ISM 導入の流れ

(6) 仮想ディスクの割当て

ISM-VAのディスク容量を拡張するため、仮想ディスクを割り当てます。

~~ISM-VA のディスク容量を拡張する作業については、「3.7 仮想ディスクの割当て」を参照してください、~~ISM-VA 全体と Administrator ユーザーグループに対して仮想ディスクを割当ててください。

修正番号 : 51

3.1 ISM導入の流れ

注意

ISM-VA 導入後は、すぐに「3.7.2 ユーザーグループに対する仮想ディスク割当て」手順で Administrator グループ用の仮想ディスク割当てを行ってください。

修正番号 : 52

3.2.1.2 リポジトリの必要容量の見積り

ポイント

- ユーザーグループとノードグループを関連付けることで、ノードグループごとに分離してISMを運用できます。この場合、ユーザーグループごとにリポジトリを準備します。ユーザーグループ数の分だけ、リポジトリに[ServerView Suite DVD以外](#)の必要なディスク容量を見積もる必要があります。
 - ServerView Suite DVDは、システム領域に格納されます。使用するServerView Suite DVDの数に応じて、システム領域のLVMボリュームに必要なディスク容量を見積もる必要があります。
-

修正番号 : 53

3.2.3 ネットワークの設計

ISMがサーバを管理するには、以下の2種類の管理LANを使用します。

- iRMC Management LANに接続するネットワーク
主にサーバの制御やBIOS・iRMCの設定などに使用します。
- オンボードLANまたはLANカードに接続するネットワーク
主にOSのインストールやOSをインストールしたあとの接続などに使用します。

修正番号 : 54

3.2.3 ネットワークの設計

注意

ISM-VA は、デフォルトで「192.168.1.101」の IP アドレスが有効になった状態で起動します。ネットワーク内のほかの装置との競合に注意してください。

IP アドレスが競合する場合は、以下のような手順で IP アドレスを変更することにより、競合を解消することができます。

1. 本番環境以外のハイパーバイザーに ISM-VA をインストール
 2. ISM-VA の IP アドレスを変更
 3. 「4.3.1 ISM-VA のバックアップ」手順に従いバックアップ
 4. バックアップした ISM-VA を、「4.3.2 ISM-VA のリストア」手順に従い本番環境のハイパーバイザーにリストア
-
-

修正番号 : 55

3.2.4 ノード名の設定

ノードを登録する際に、必要になるノード名およびプロファイル名のルールを決定します。

ノードを登録するときは、1 台ごとに固有のノード名を設定します。

ノード名には最大 64 文字の英数字またはハイフン (-)、アンダースコア (_) が使用できます。[文字列が設定できます。](#)
[ただし以下の文字は使用できません。](#)

[スラッシュ \(/\)、バックスラッシュ \(\\)、コロン \(:\)、アスタリスク \(*\)、クエスチョンマーク \(?\)](#)

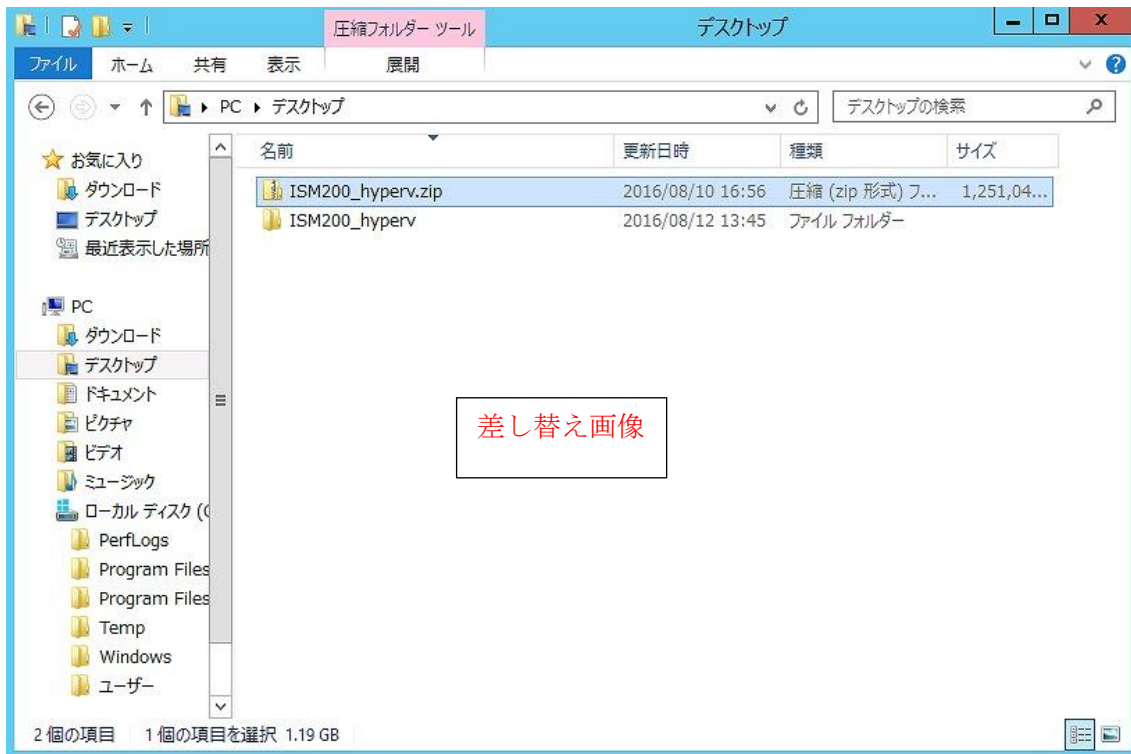
[ダブルクォーテーション \("\)、山括弧 \(<>\)、パイプライン \(|\)](#)

修正番号 : 56

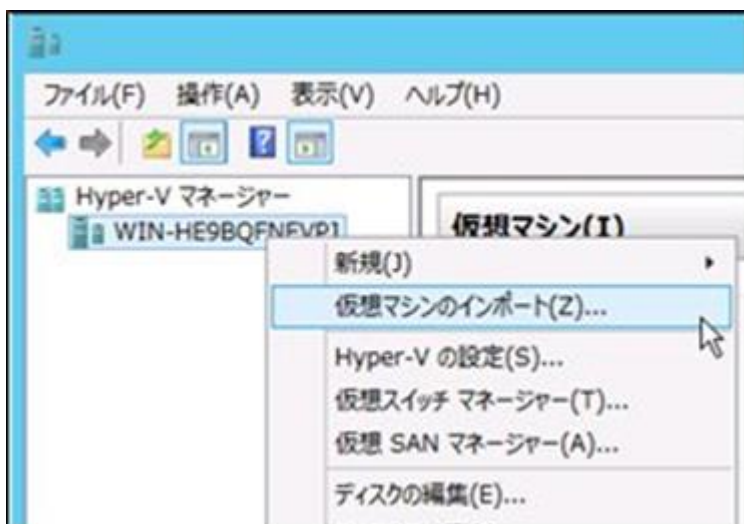
3.3.1 Microsoft Windows Server Hyper-V へのインストール

DVDメディアに含まれるzipファイルを使用してインストールします。インストールの途中で指定するインストール先やネットワークアダプターの選択の詳細は、Hyper-Vのマニュアルを参照してください。

1. DVDメディアに含まれるzipファイルを、Hyper-VホストであるWindowsサーバの一時展開場所に展開します。

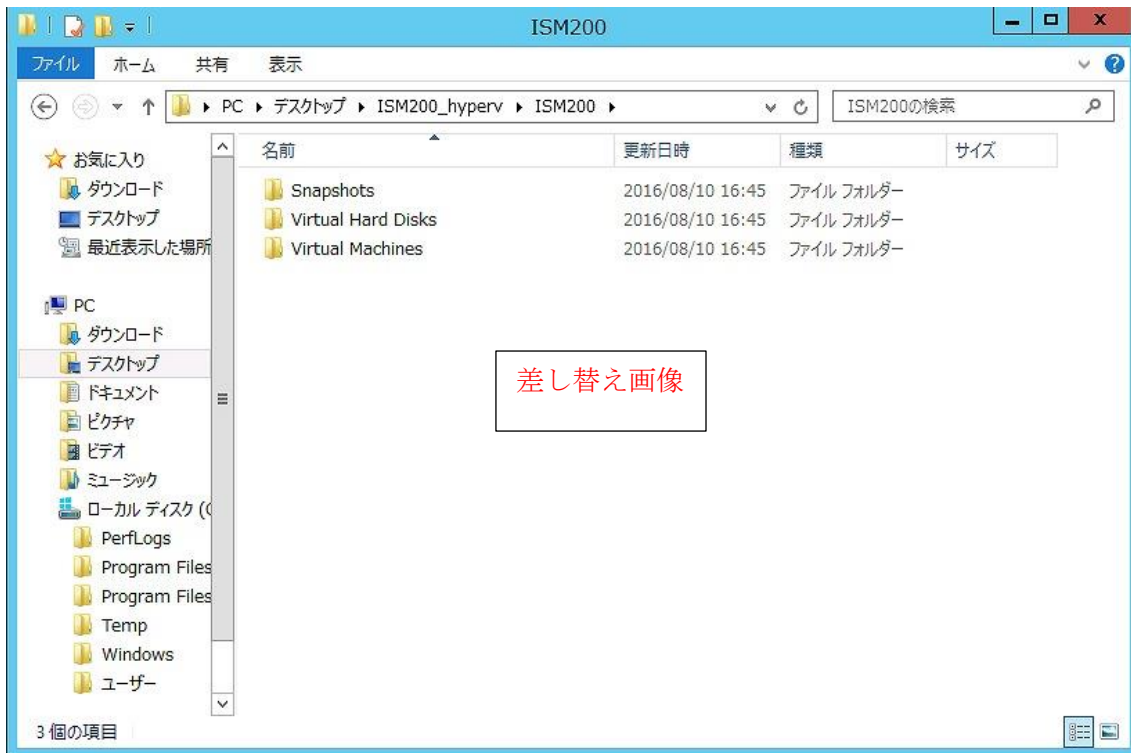


2. Hyper-Vマネージャーを起動し、Hyper-VホストであるWindowsサーバを右クリックして[仮想マシンのインポート]を選択します。



3. 「フォルダーの選択」画面で、手順1で展開したディレクトリを選択します。

選択するディレクトリは、「Snapshots」、「Virtual Hard Disks」、「Virtual Machines」というディレクトリの親ディレクトリです。



修正番号 : 57

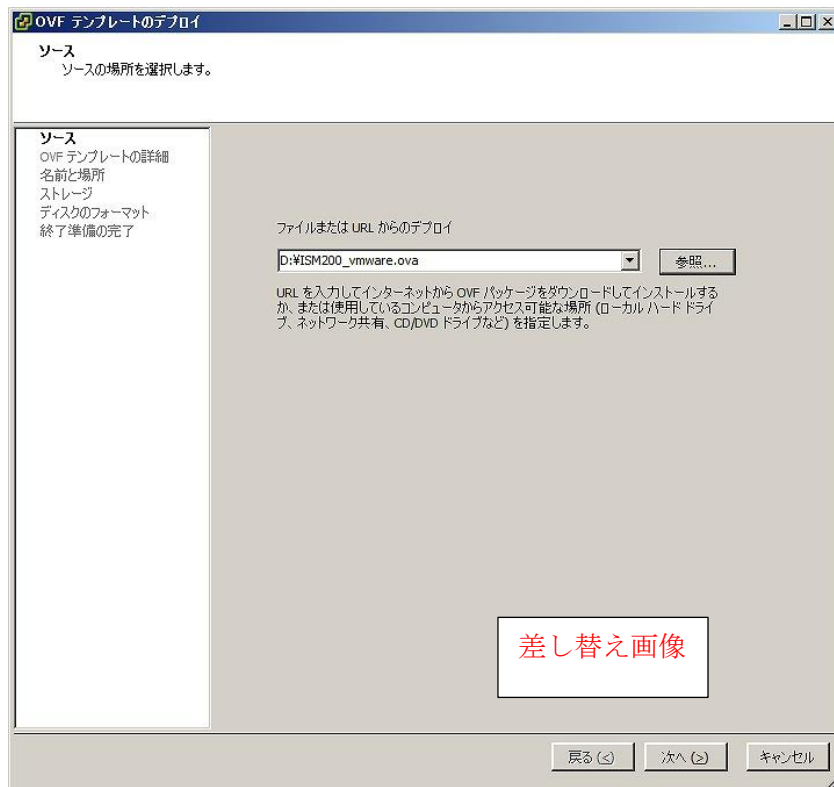
3.3.2 VMware vSphere Hypervisor へのインストール

DVDメディアに含まれるovaファイルを使用してインストールします。

1. vSphere Clientを起動し、[ファイル]メニューから[OVFテンプレートのデプロイ]を選択します。



2. ソースの選択画面で、DVDメディアに含まれるovaファイルを選択し、[次へ]をクリックします。



修正番号 : 58

3.3.3 KVM へのインストール

DVD メディアに含まれる tar.gz ファイルを使用してインストールします。

1. KVMホストの任意のディレクトリにtar.gzファイルを転送し展開します。

```
# tar xzvf ISMV200si421ISM200_kvm.tar.gz
ISMV200si421ISM200_kvm/
ISMV200si421ISM200_kvm/ISMV200si421ISM200_kvm.qcow2
ISMV200si421ISM200_kvm/ISMV200si421ISM200.xml
```

2. 展開されたディレクトリに含まれるファイルをそれぞれ所定の場所にコピーします。

- a. qcow2ファイルを/var/lib/libvirt/imagesにコピーします。

```
# cp ISMV200si421ISM200_kvm.qcow2 /var/lib/libvirt/images
```

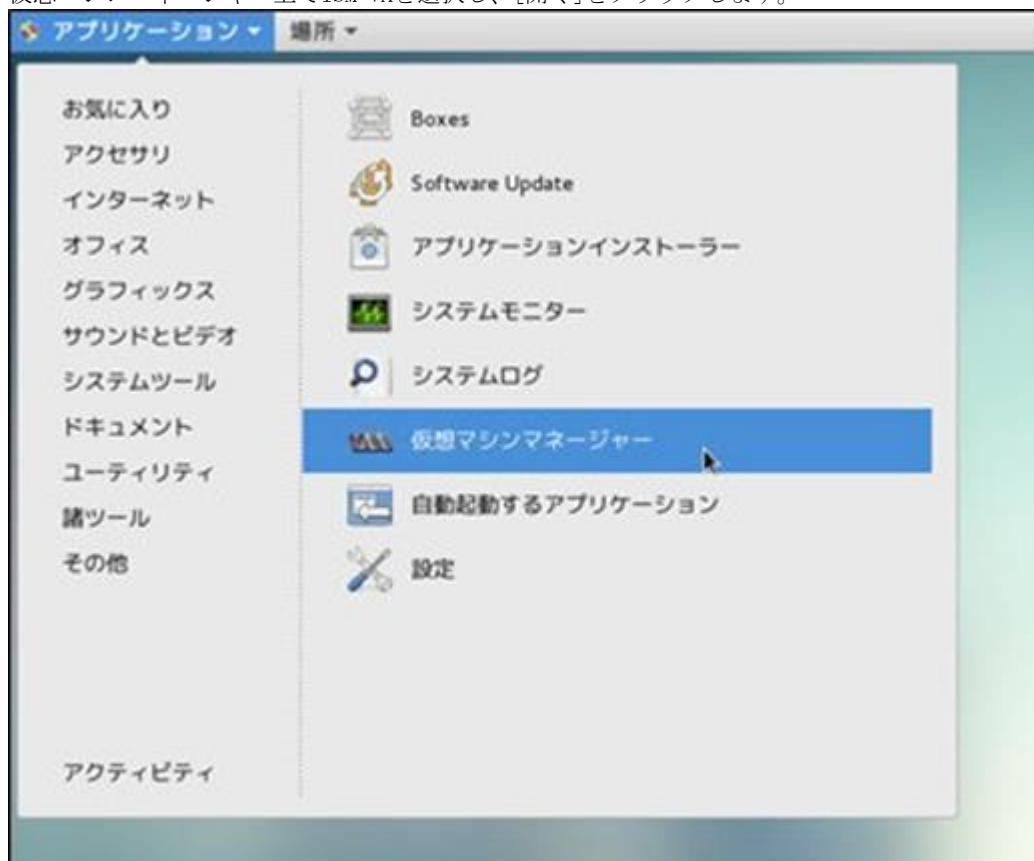
- b. xmlファイルを/etc/libvirt/qemuにコピーします。

```
# cp ISMV200si421ISM200.xml /etc/libvirt/qemu
```

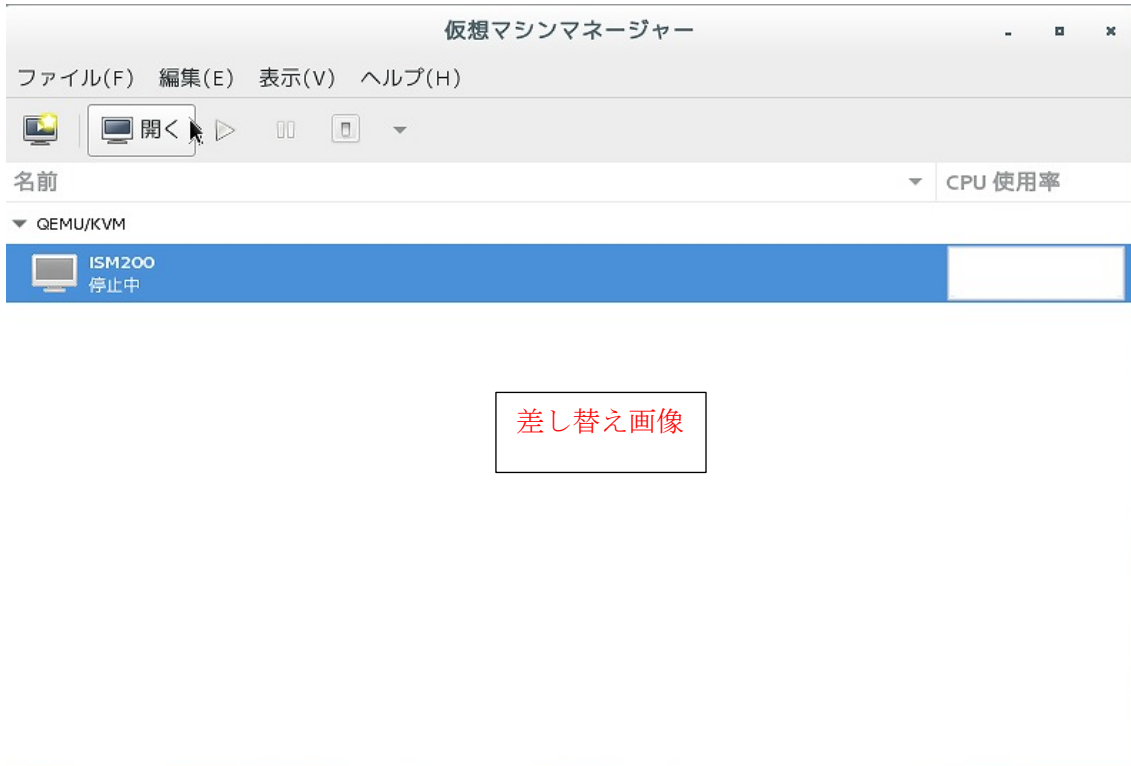
3. xmlファイルを指定してISM-VAを登録します。

```
# virsh define /etc/libvirt/qemu/ISMV200si421ISM200.xml
```

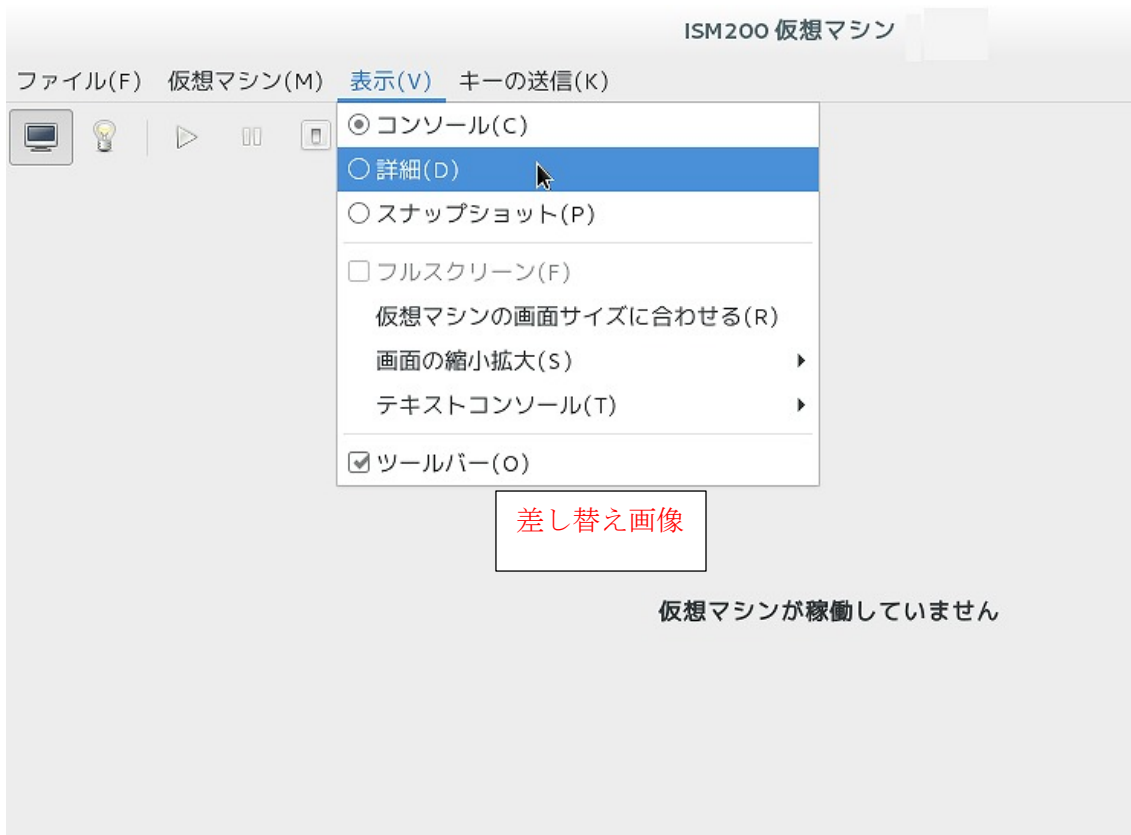
4. 仮想マシンマネージャー上でISM-VAを選択し、[開く]をクリックします。



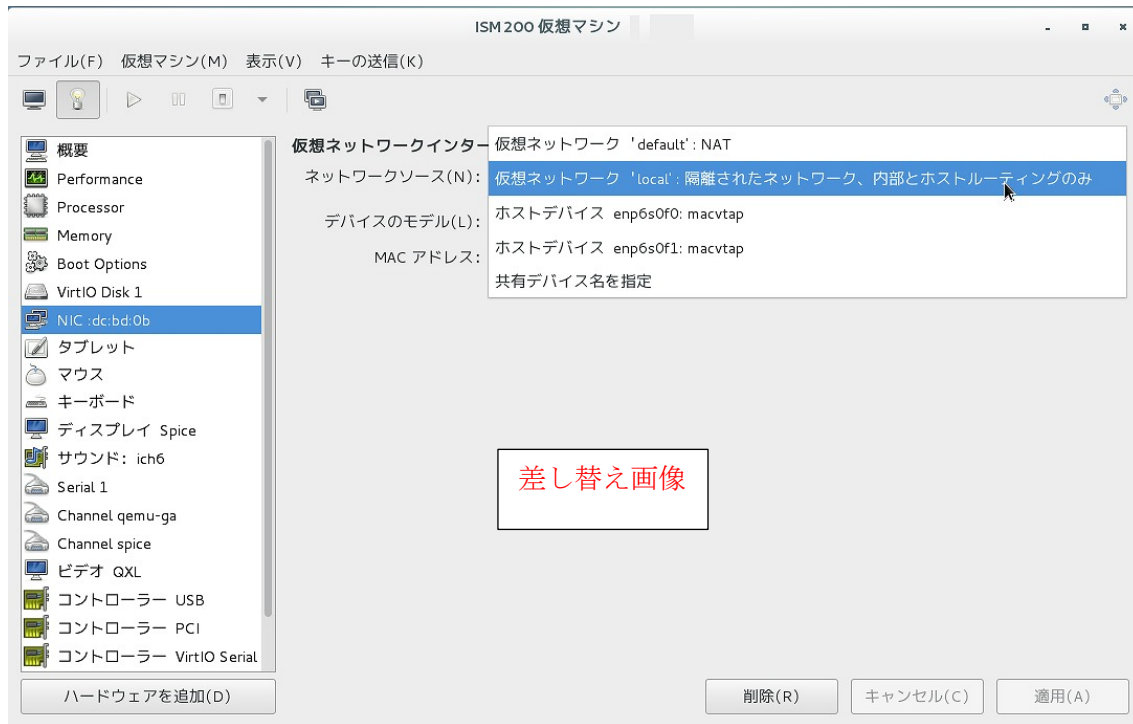
5. 仮想マシンマネージャー上でISM-VAを選択し、[開く]をクリックします。



6. ISM-VA仮想マシン画面の[表示]メニューから[詳細]を選択します。



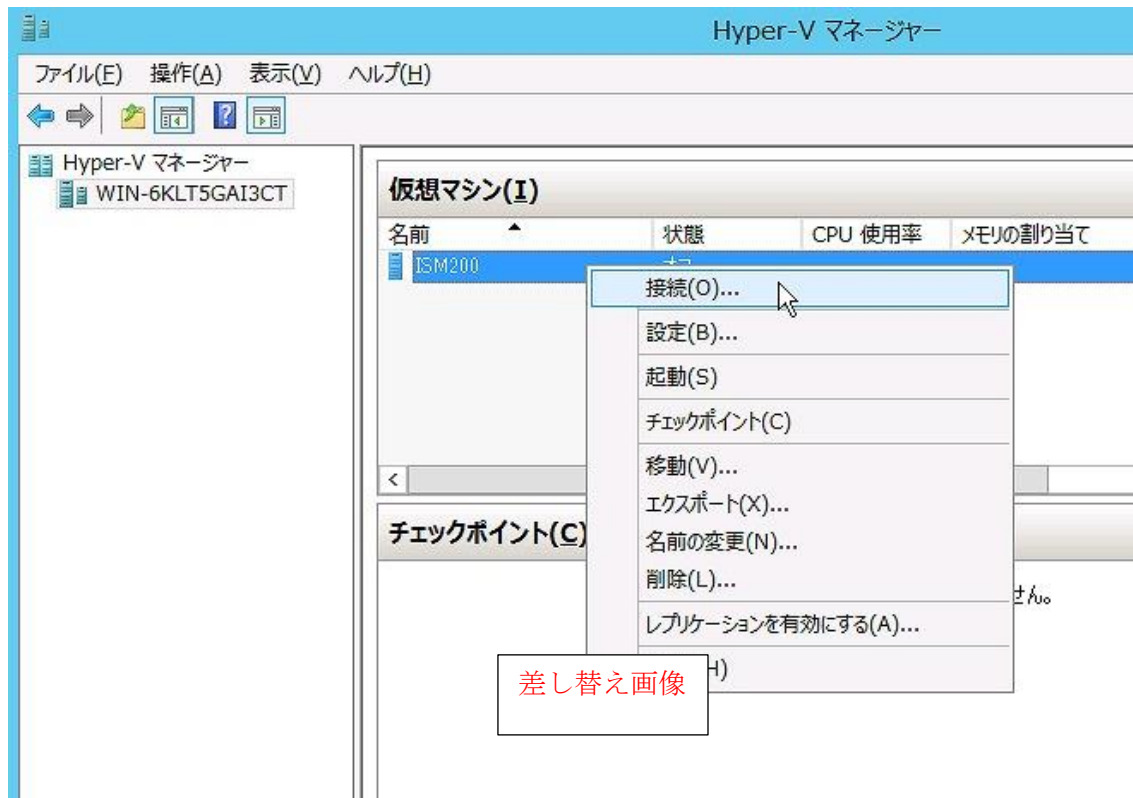
7. ISM-VA仮想マシンの詳細画面で[NIC]を選択し、ISM-VAを接続する仮想ネットワークまたはホストデバイスを選択して、[適用]をクリックします。



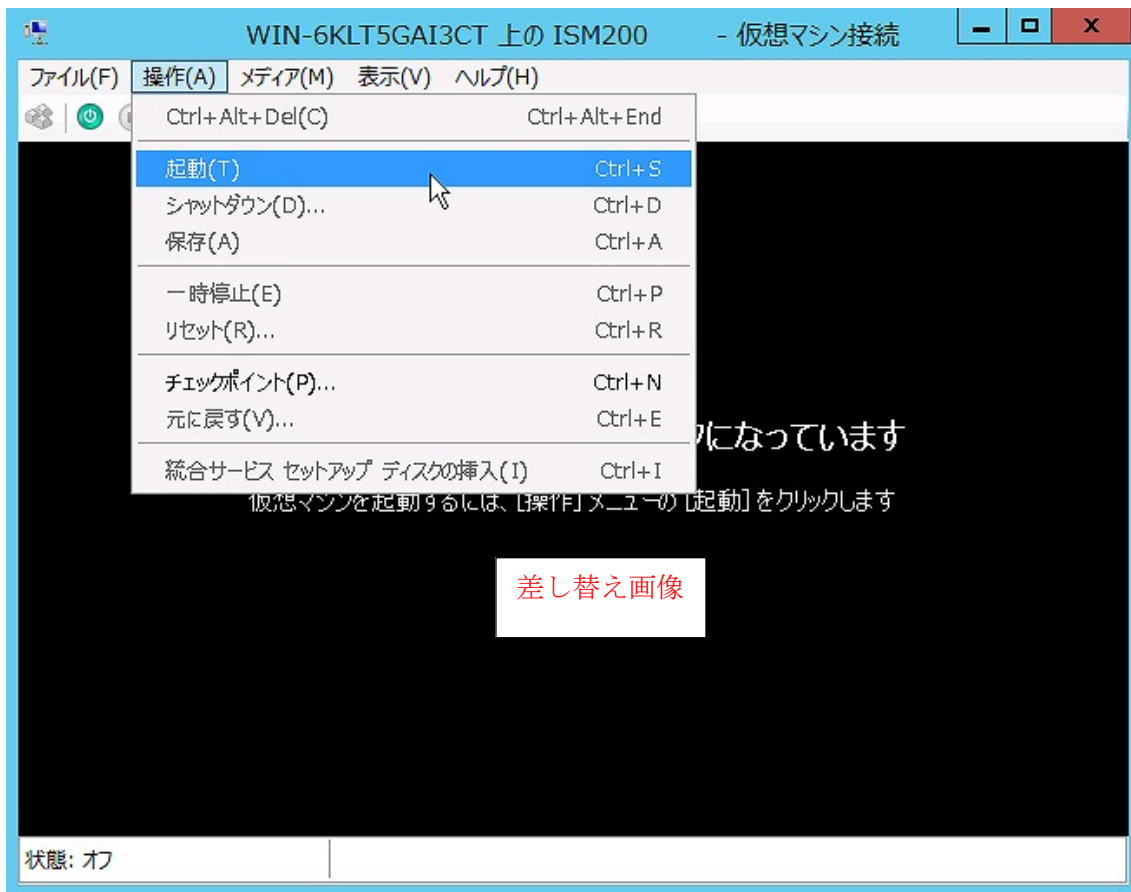
修正番号 : 59

3.4.1.1 Microsoft Windows Server Hyper-V で動作する ISM-VA の場合（初回）

1. Hyper-Vマネージャーで、インストールしたISM-VAを右クリックし、[接続]を選択します。



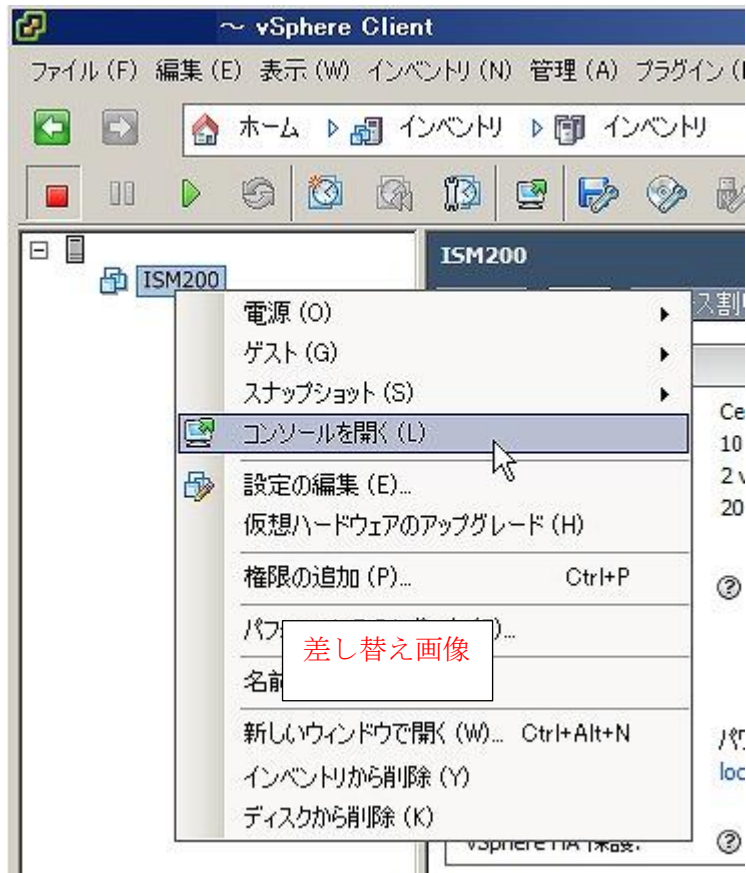
2. 「仮想マシン接続」画面の[操作]メニューから[起動]を選択し、ISM-VAを起動します。



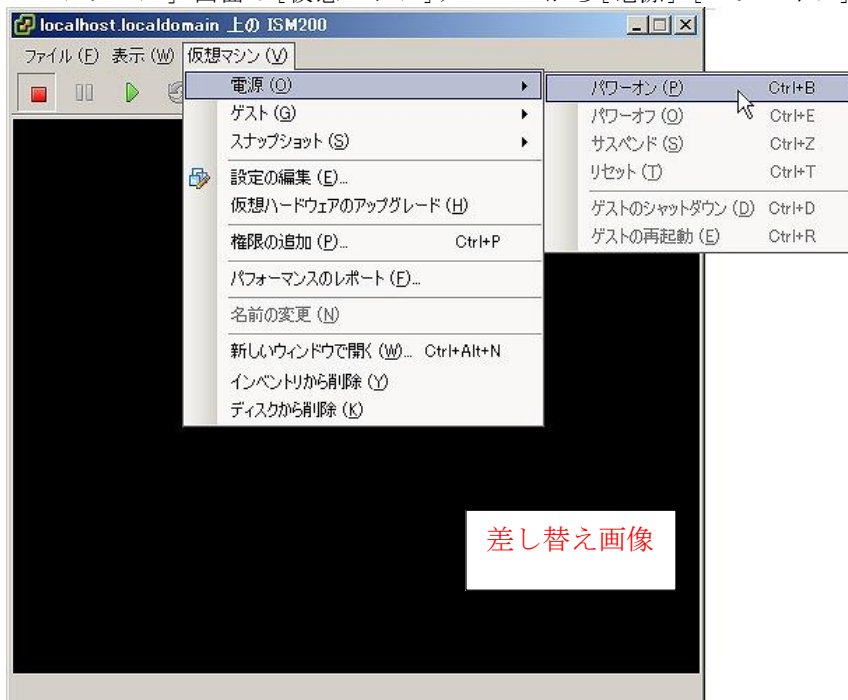
修正番号 : 60

3.4.1.2 VMware vSphere Hypervisor で動作する ISM-VA の場合 (初回)

1. vSphere Clientで、インストールしたISM-VAを右クリックし、[コンソールを開く]を選択します。



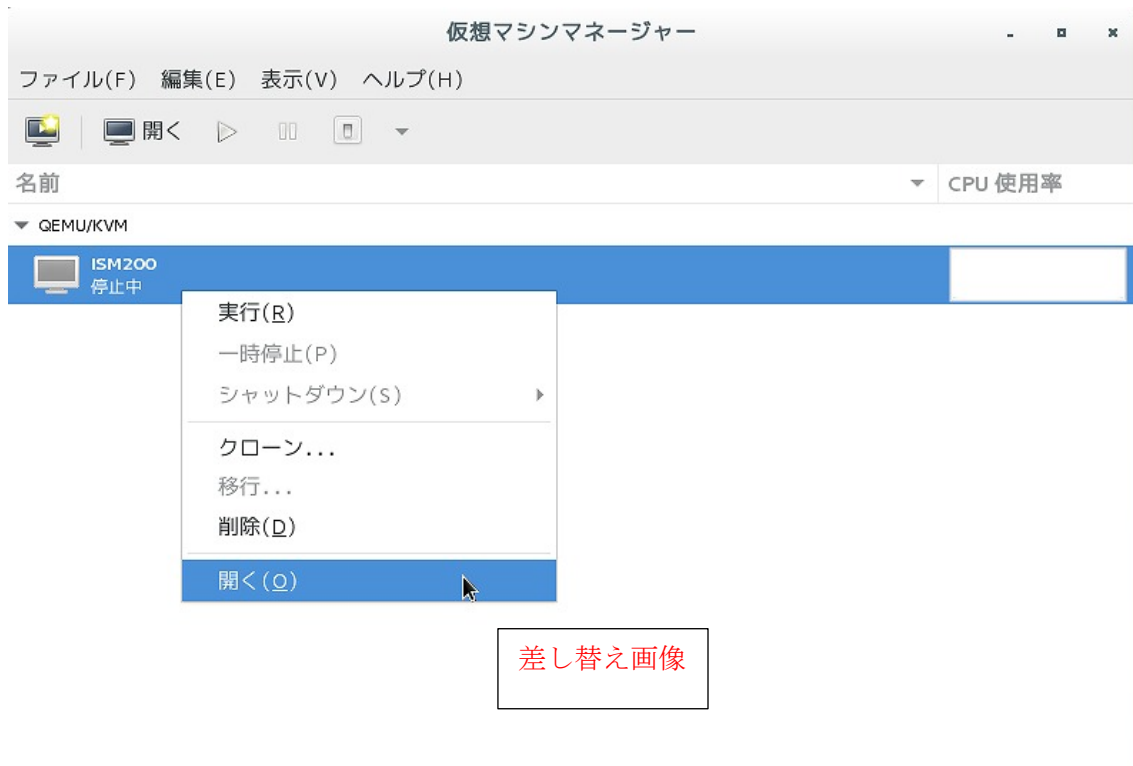
2. 「コンソール」画面の[仮想マシン]メニューから[電源]-[パワーオン]を選択し、ISM-VAを起動します。



修正番号 : 61

3.4.1.3 KVM で動作する ISM-VA の場合 (初回)

1. 仮想マシンマネージャーで、インストールしたISM-VAを右クリックし、[開く]を選択します。



2. ISM-VA仮想マシン画面の[仮想マシン]メニューから[実行]を選択し、ISM-VAを起動します。



修正番号 : 62

3.4.2 ISM 初期設定

4. コンソールで、日付・時間の設定をします。
現在の設定の確認方法は以下のとおりです。

```
# ismadm time show
  Local time: 木 2016-06-09 16:57:40 JST
  Universal time: 木 2016-06-09 07:57:40 UTC
  RTC time: 木 2016-06-09 16:57:40
  Time zone: Asia/Tokyo (JST, +0900)
  NTP enabled: no
  NTP synchronized: no
  RTC in local TZ: no
  DST active: n/a

NTP Servers:
506 Cannot talk to daemon
```

修正番号 : 63

3.4.2 ISM 初期設定

5. コンソールで、ドメイン環境の設定をします。

ドメイン環境を使用しない場合には本設定は不要です。

- ドメイン設定情報を追加する。

```
# ismadm kerberos add -d <Domain Name> -r <Realm> -n <Controller Name>
```

実行例

```
# ismadm kerberos add -d sample.local -r SAMPLE.LOCAL -n adsvr.sample.local
```

- ドメイン設定情報を表示する。

```
# ismadm kerberos show
```

- ドメイン設定情報を1つ前の状態に戻す

```
# ismadm kerberos restore
```

2つ以上前の状態に戻すことはできません。

- ドメイン設定情報を初期化する

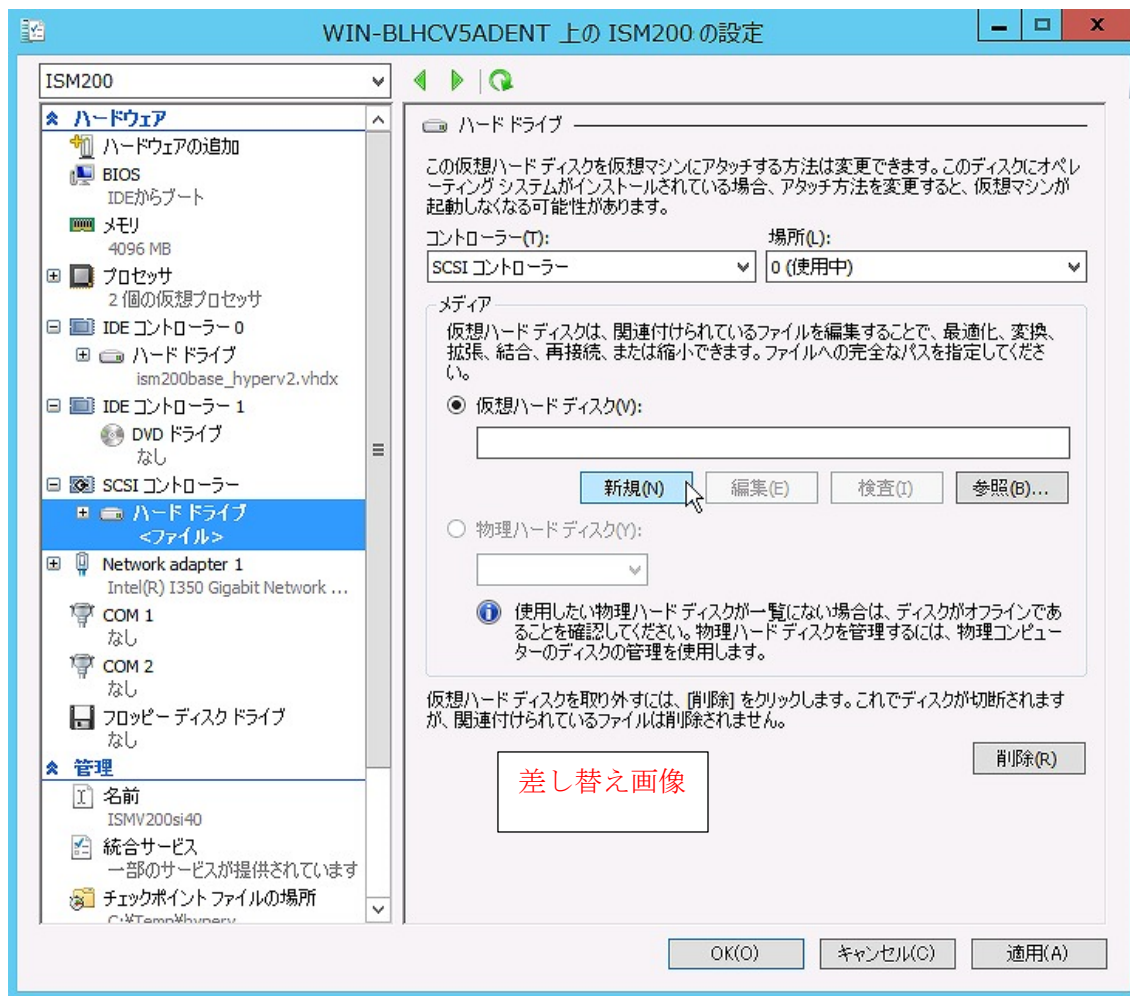
```
# ismadm kerberos init
```

修正番号：64

3.7.1 ISM-VA 全体に対する仮想ディスク割当て

1. ISM-VA停止後、ハイパーバイザーの設定画面で仮想ディスクを作成し、ISM-VA（仮想マシン）に接続します。

Microsoft Windows Server Hyper-Vの場合



仮想ディスクは、SCSIコントローラーの配下に作成してください。

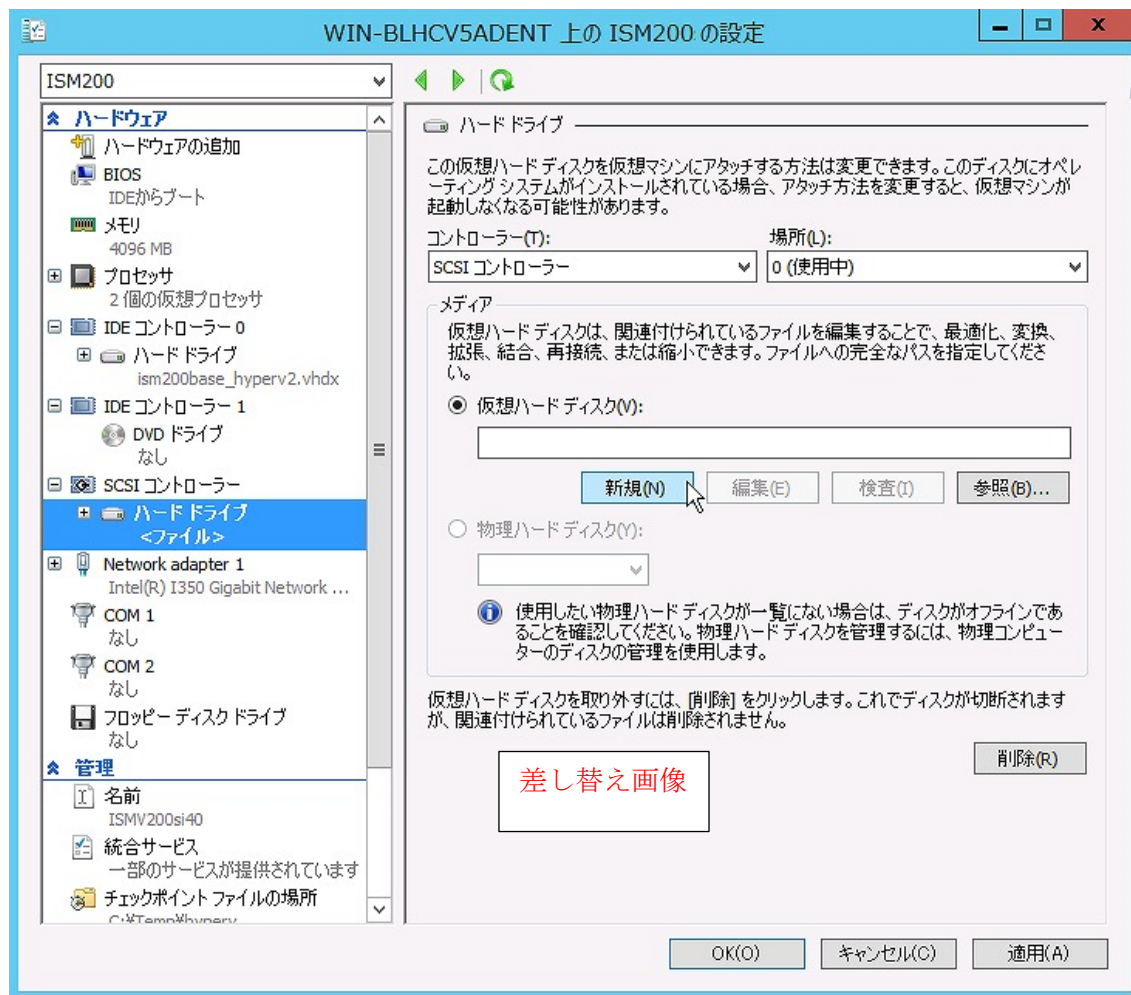
修正番号：65

3.7.2 ユーザーグループに対する仮想ディスク割当て

Administratorユーザーグループを例として、仮想ディスク割当ての手順を示します。

1. ISM-VA停止後、ハイパーバイザーの設定画面で仮想ディスクを作成し、ISM-VA（仮想マシン）に接続します。

Microsoft Windows Server Hyper-Vの場合

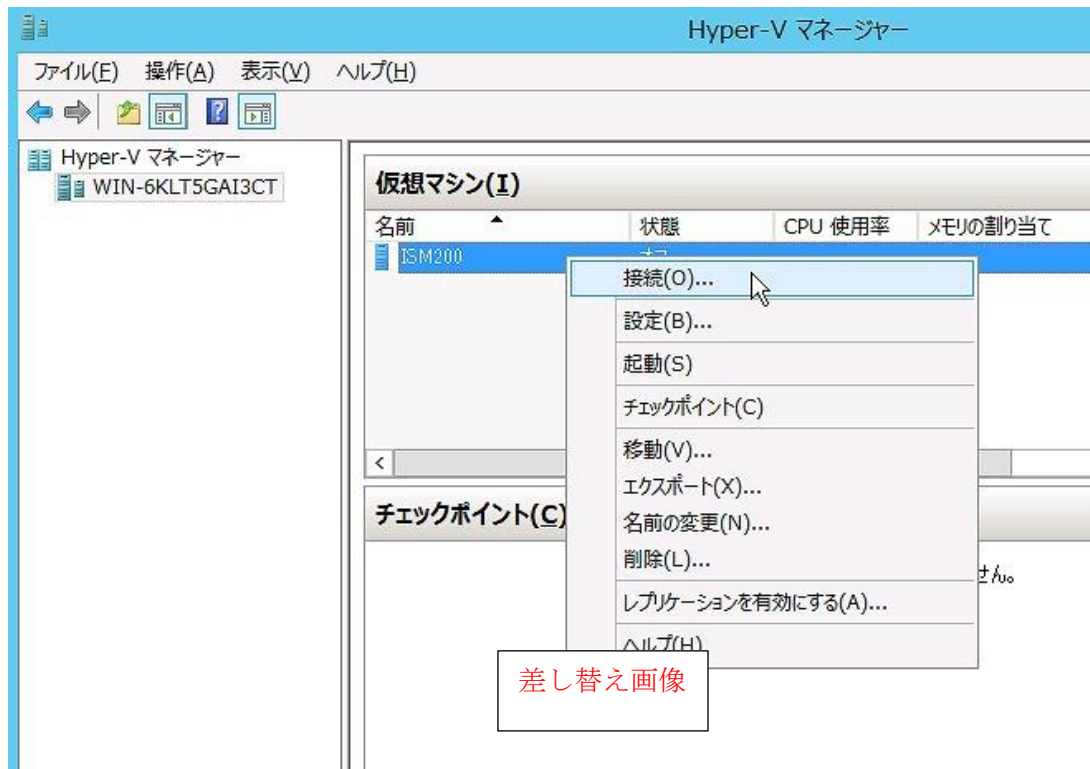


仮想ディスクは、SCSIコントローラーの配下に作成してください。

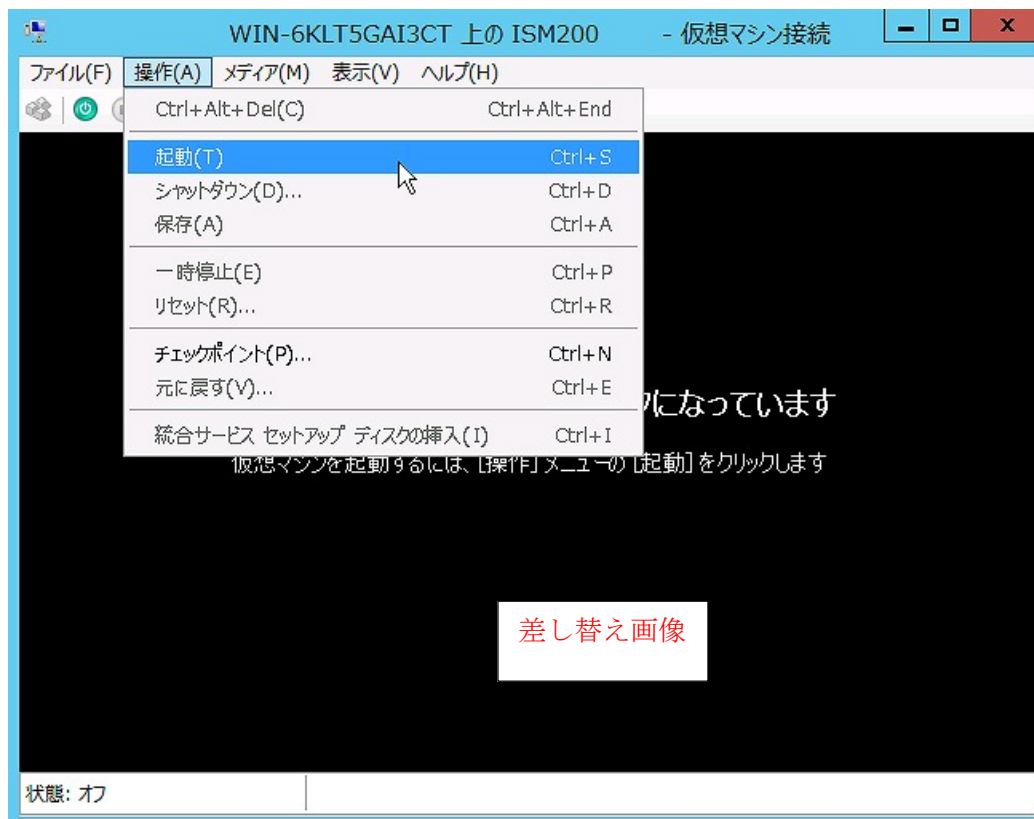
修正番号 : 66

4.1.1.1 Microsoft Windows Server Hyper-V で動作する ISM-VA の場合 (2 回目以降)

1. Hyper-V マネージャーで、インストールしたISM-VAを右クリックし、[接続]を選択します。



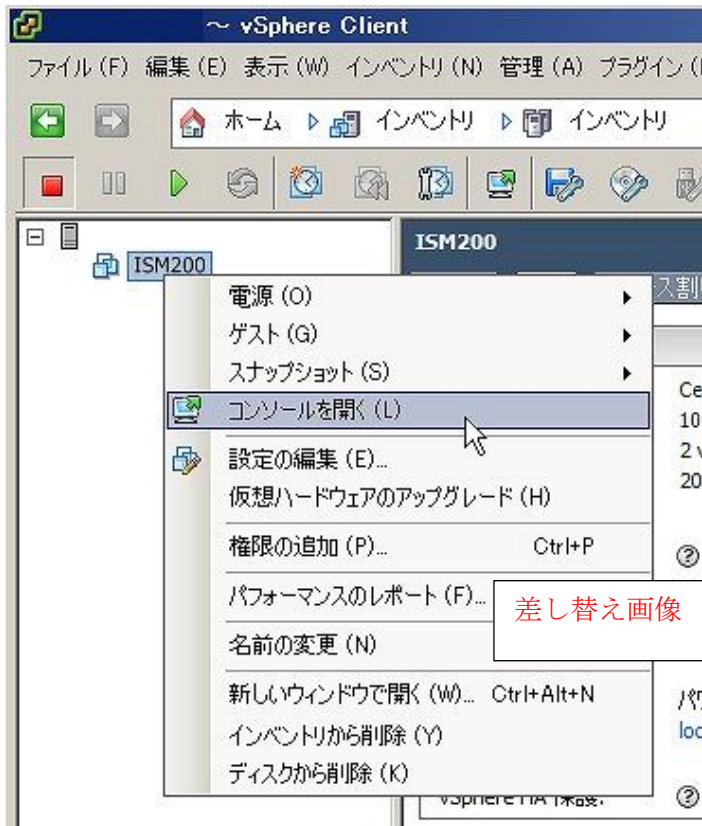
2. 「仮想マシン接続」画面の[操作]メニューから[起動]を選択し、ISM-VAを起動します。



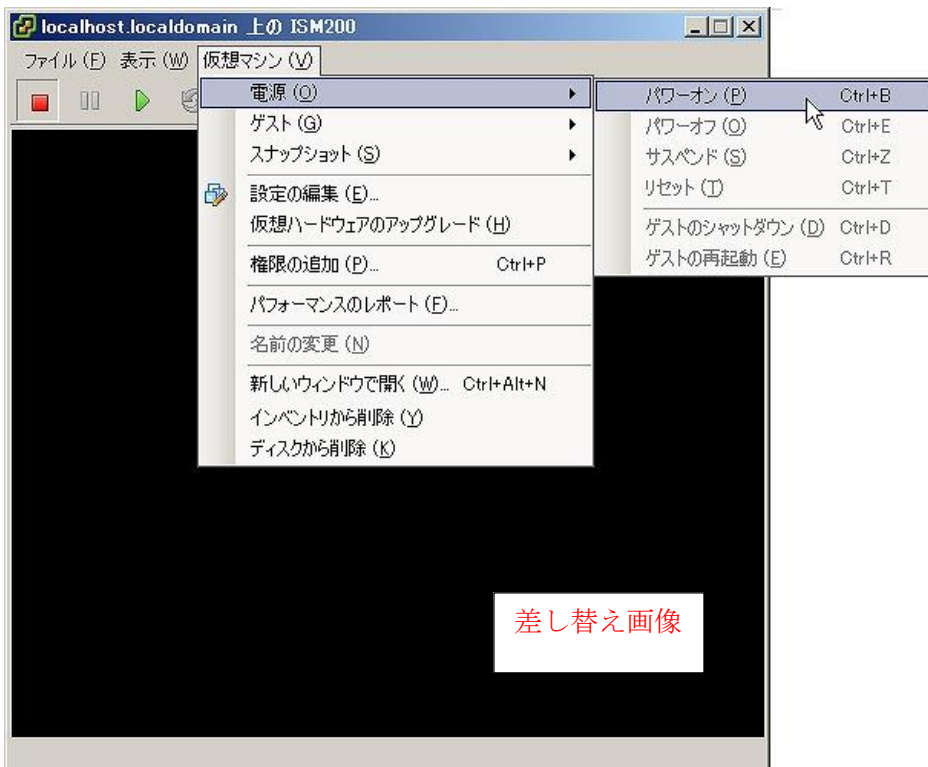
修正番号 : 67

4.1.1.2 VMware vSphere Hypervisor で動作する ISM-VA の場合 (2 回目以降)

1. vSphere Clientで、インストールしたISM-VAを右クリックし、[コンソールを開く]を選択します。



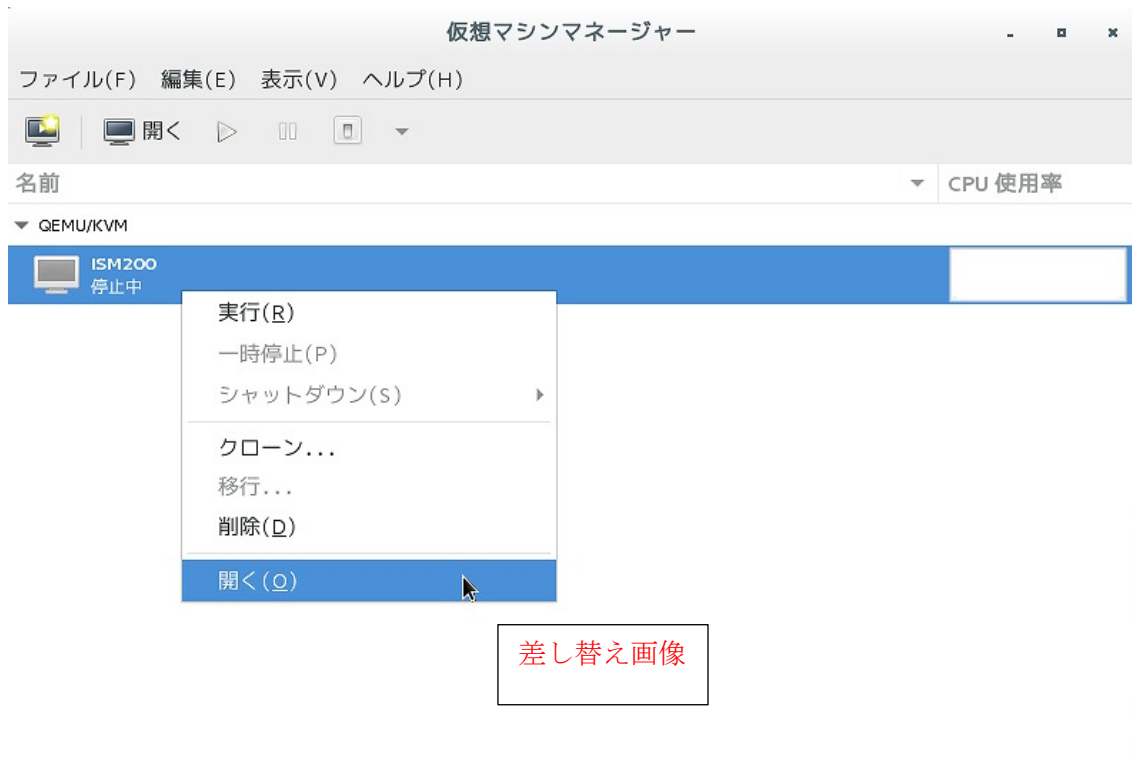
2. 「コンソール」画面の[仮想マシン]メニューから[電源]-[パワーオン]を選択し、ISM-VAを起動します。



修正番号 : 68

4.1.1.3 KVM で動作する ISM-VA の場合 (2 回目以降)

1. 仮想マシンマネージャーで、インストールしたISM-VAを右クリックし、[開く]を選択します。



2. 「ISM-VA仮想マシン」画面の[仮想マシン]メニューから[実行]を選択し、ISM-VAを起動します。



修正番号：69

4.6.1 SSL サーバ証明書配置

認証機関などで発行された SSL サーバ証明書を ISM-VA へ設定します。

1. FTPでSSLサーバ証明書をISM-VAへ転送します。

転送先：/Administrator/ftp

FTPでの転送方法は、「2.1.2 FTPアクセス」を参照してください。

2. コンソールからadministratorでISM-VAにログインします。

3. SSLサーバ証明書を配置します。

FTP転送した「key」ファイルと「cert」ファイルを指定し、コマンドを実行してください。

```
# ismadm sslcert set -key /Administrator/ftp/server.key -cert /Administrator/ftp/server.crt
```

4. ISM-VAを再起動します。

```
# ismadm power restart
```

ポイント

ローカルネットワーク内で使用する独自のホスト名に対応した独自 SSL サーバ証明書は、openssl コマンドがインストールされた Linux サーバ上で、以下のコマンドで作成することができます。

```
# openssl genrsa -rand /proc/uptime 2048 > server.key
```

```
# openssl req -new -key server.key -x509 -sha256 -days 365 -set_serial $RANDOM -extensions v3_req -out server.crt
```

- ・証明書のファイル名（server.key/server.crt）は任意のファイル名を指定。
 - ・days オプションは証明書の有効日数を指定
 - ・ホスト名は、openssl req コマンド実行後の「Common Name」入力時に指定。
-

修正番号 : 70

4.8 ネットワーク設定

ネットワークの設定/表示を行います。

1. コンソールからadministratorでISM-VAにログインします。
2. ネットワーク設定コマンドを実行します。

- ネットワークデバイス表示

```
# ismadm network device
```

- ネットワーク設定変更

```
# ismadm network modify <LANデバイス名> ipv4.method manual ipv4.addresses <IPアドレス>/<マスクビット>  
ipv4.gateway <ゲートウェイIPアドレス>
```

注意

ネットワーク設定変更後は、ISM-VAの再起動が必要です。

実行例)

```
# ismadm network modify eth0 ipv4.method manual ipv4.addresses 192.168.1.101/24 ipv4.gateway 192.168.1.1
```

- DNSサーバ追加

```
# ismadm network modify <LANデバイス名> +ipv4.dns <DNSサーバ>
```

実行例)

```
# ismadm network modify eth0 +ipv4.dns 192.168.1.2
```

- DNSサーバ削除

```
# ismadm network modify <LANデバイス名> -ipv4.dns <DNSサーバ>
```

実行例)

```
# ismadm network modify eth0 -ipv4.dns 192.168.1.2
```

- ネットワーク設定表示

```
# ismadm network show <LANデバイス名>
```

実行例)

```
# ismadm network show eth0
```

修正番号 : 71

4.11 システム情報の表示

コンソールから ISM-VA の内部システム情報を表示できます。

1. コンソールから administrator で ISM-VA にログインします。
2. システム情報の表示コマンドを実行します。

```
# ismadm system show
ISM Version      : 2.0.0 (S20160901-01)
GUI Port Number  : 25566
Hostname         : localhost
Log Level        : small
```

修正番号 : 72

4.17 SNMP コミュニティ名設定

SNMP コミュニティ名を変更することができます。

1. コンソールからadministratorでISM-VAにログインします。
2. SNMPコミュニティ名設定コマンドを実行します。

- SNMPコミュニティ名の変更

```
# ismadm snmp set -name {Community Name}
```

- SNMPコミュニティ名の表示

```
# ismadm snmp show
```

修正番号 : 73

4.18 ISM-VA 内部の DHCP サーバ

ISM-VA内部のDHCPサービスを起動することで、ISM-VAをDHCPサーバとして使用できます。

DHCPサーバは、プロファイル管理機能でOSインストールを行う場合に必須であり、その際は、外部のDHCPサーバを使用することも、以下の手順で設定したISM-VAをDHCPサーバとして使用することも、どちらでも可能です。

(その場合、「4.18.4 DHCPサーバの切り替え」で示されている手順により、どちらのDHCPサーバを使用するかを指定します。)

外部のDHCPサーバのみを使用する場合は、以下の設定は不要です。

4.18.1 ISM-VA 内部の DHCP サーバの設定

ISM-VA内部のDHCPサーバの設定をします。

設定後、DHCP サービスを停止、起動することにより設定が反映されます。

DHCP サービスの停止、起動については、「4.18.2 ISM-VA 内の DHCP サービスの操作」を参照してください

DHCP サーバの設定には、2つの方法があります。運用に併せていずれかの方法で設定してください。

- ismadm dhcpsrv コマンドのパラメータ指定による設定
ISM-VA の Profile 適用に必要な DHCP サーバの設定を行います。
- conf ファイルによる設定
ISM-VA の Profile 適用で使用する設定に限らず、一般的な DHCP サーバの設定を行います。

(1) ismadm dhcpsrv コマンドのパラメータ指定による設定

```
# ismadm dhcpsrv set-simple -subnet <サブネット>  
                             -netmask <サブネットマスク>  
                             -start <割り当て開始アドレス>  
                             -end <割り当て終了アドレス>  
                             -broadcast <ブロードキャストアドレス>  
                             [-dns <DNSサーバのIPアドレス>]  
                             [-gw <ゲートウェイのIPアドレス>]
```

コマンドは一行で入力してください。

以下のパラメータは指定が必須です。指定を省略できません。

```
-subnet  
-netmask  
-start  
-end  
-broadcast
```

実行例)


```
# ismadm dhcpd set-simple -subnet 192.168.1.0 -netmask 255.255.255.0 -start 192.168.1.150 -end 192.168.1.160 -broadcast 192.168.1.255 -dns 192.168.1.200 -gw 192.168.1.250
```

----- New Configuration -----

```
ddns-update-style none;  
default-lease-time 86400;  
max-lease-time 259200;
```

```
shared-network LOCAL-NET {  
  subnet 192.168.1.0 netmask 255.255.255.0 {  
    range 192.168.1.150 192.168.1.160;  
    option subnet-mask 255.255.255.0;  
    option broadcast-address 192.168.1.255;  
    option vendor-class-identifier "PXEClient";  
    option domain-name-servers 192.168.1.200;  
    option routers 192.168.1.250;  
  }  
}
```

Update DHCP configuration ? (Current settings are discarded)
[y/n]:

コマンド終了後に、設定した値を確認するメッセージが表示されるので、「y」を入力して設定を確定させてください。

(2) conf ファイルによる設定

記述済みの conf ファイルを ISM-VA の ftp 機能でアップロードし、コマンドで取り込みます。
FTPでの転送方法は、「2.1.2 FTPアクセス」を参照してください。

```
# ismadm dhcpd set -file <confファイル>
```

実行例)

```
# ismadm dhcpd set -file /Administrator/ftp/dhcpd.conf.new
```

注意

DHCP サーバの設定変更を行った場合は、DHCP サービスを停止、起動を行ってください。
サービスの停止、起動の方法は、「4.18.2 ISM-VA 内部の DHCP サービスの操作」を参照してください

4.18.2 ISM-VA 内部の DHCP サービスの操作

ISM-VA 内部の DHCP サービスの状態の表示、起動、停止を行います。

● DHCP サービスの状態を確認

```
# ismadm service status dhcpd
```

コマンド出力

```
Active : active(running) : DHCP サービス起動状態  
Active : inactive(dead) : DHCP サービス未起動状態
```

```
/usr/lib/systemd/system/dhcpd.service; enable; : ISM-VA ブート時起動設定  
/usr/lib/systemd/system/dhcpd.service; disabled; : ISM-VA ブート時未起動設定
```

● DHCP サービスの手動起動

```
# ismadm service start dhcpd
```

注意

- ISM-VA 内部の DHCP サービスを起動する前に、DHCP サーバの設定を行ってください。
DHCP サーバの設定方法は、「4.18.1 ISM-VA 内部の DHCP サーバの設定」を参照してください。
- DHCP サーバが起動状態設定で「(dead)」状態になっている場合は、「4.18.3 ISM-VA 内部の DHCP サーバ情報の確認 ・ DHCP サーバメッセージ表示」でエラーが出ていないかどうか確認してください。

- DHCP サービスの手動停止

```
# ismadm service stop dhcpd
```

- ISM-VA 起動時に DHCP サービスを起動するように設定

```
# ismadm service enable dhcpd
```

- ISM-VA 起動時に DHCP サービスを起動しないように設定

```
# ismadm service disable dhcpd
```

4. 18.3 ISM-VA 内部の DHCP サーバ情報の確認

ISM-VA 内部の DHCP サーバの情報を表示します。

現在設定されている DHCP サーバの内容の表示、DHCP サーバのメッセージの表示、現在の設定内容 (conf ファイル) を ftp アクセス可能な場所へエクスポート、サンプル conf ファイルを ftp アクセス可能な場所へエクスポートすることができます。

- 現在設定されている DHCP サーバの内容を表示

```
# ismadm dhcpdsvr show-conf
```

- DHCP サーバのメッセージ表示

```
# ismadm dhcpdsvr show-msg [-line]
```

オプション無しで実行した場合、20 行表示します。

オプション [-line] を指定した場合、表示行数を指定できます。

実行例)

```
# ismadm dhcpdsvr show-msg -line 50
```

- 現在の設定内容 (conf ファイル) を ftp アクセス可能な場所へエクスポート

```
# ismadm dhcpdsvr export-conf -dir /Administrator/ftp
```

- 設定内容 (conf ファイル) のサンプルを ftp アクセス可能な場所へエクスポート

```
# ismadm dhcpdsvr export-sample -dir /Administrator/ftp
```

4. 18.4 DHCP サーバの切り替え

Profile 機能で DHCP サーバを使用する場合に、ISM-VA 内部の DHCP サーバを使用するか、外部の DHCP サーバを使用するかを切り替えることができます。

- 現在の設定の表示

```
# ismadm dhcpdsvr show-mode
```

コマンド出力

```
DHCP mode: local    : Profile 機能は ISM 内部の DHCP サーバを使用します。
```

```
DHCP mode: remote   : Profile 機能は外部の DHCP サーバを使用します。
```

- 設定の切り替え

- ・ ISM-VA 内部の DHCP サーバを使用して Profile 適用を行うように設定

```
# ismadm dhcpdsvr set-mode local
```

- ・ 外部の DHCP サーバを使用して Profile 適用を行うように設定

```
# ismadm dhcpdsvr set-mode remote
```

修正番号：74

4.19 MIB ファイル設定

任意のトラップ受信を可能にする MIB ファイルを、ISM-VA 内に取り込むことができます。

4.19.1 MIB ファイル登録

1. FTPでMIBファイルを転送します。

転送先：/Administrator/ftp/mibs

FTPでの転送方法は、「2.1.2 FTPアクセス」を参照してください。

2. コンソールからadministratorでISM-VAにログインします。
3. MIBファイル登録コマンドを実行します。

```
# ismadm mib import
```

4.19.2 MIB ファイル表示

ISM-VA に登録された MIB ファイルを表示できます。

```
# ismadm mib show
```

4.19.3 MIB ファイル削除

ISM-VA に登録された MIB ファイルを削除できます。

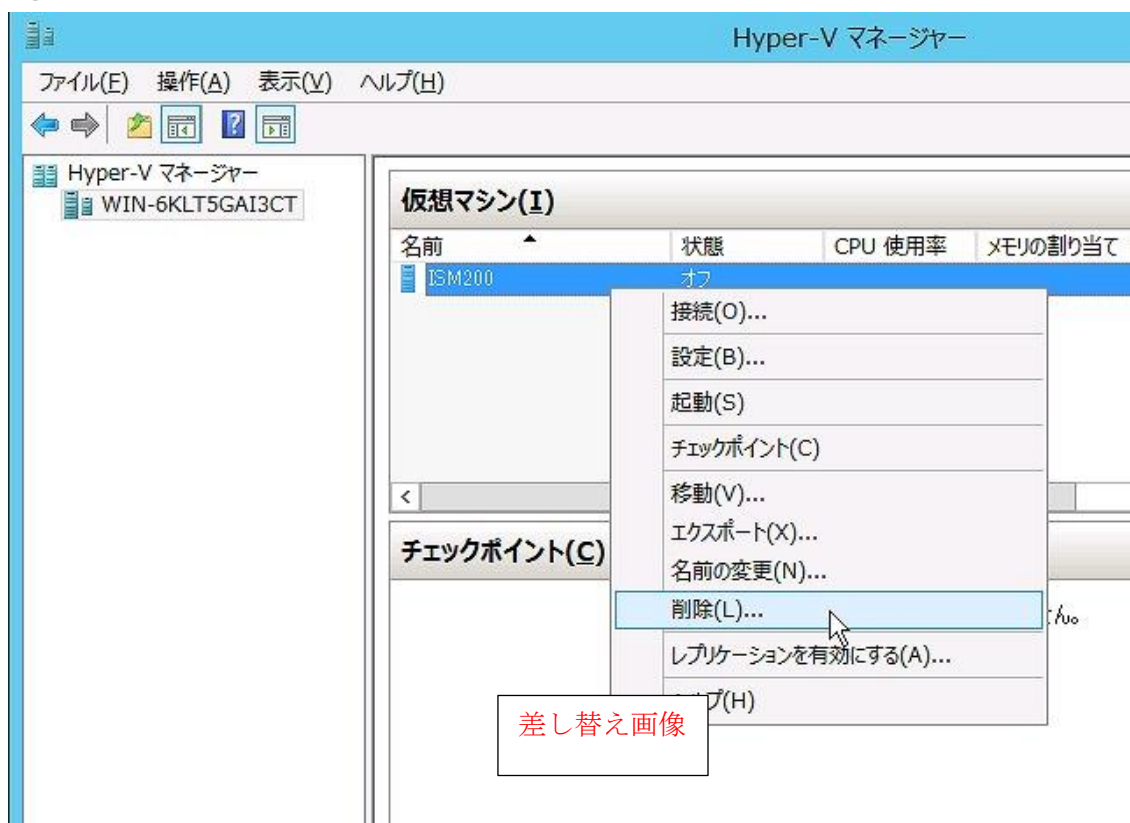
```
# ismadm mib delete -file <MIBファイル名>
```

修正番号：75

付録A ISM-VAのアンインストール

Microsoft Windows Server Hyper-Vからのアンインストール

1. ISM-VAを停止します。
詳しくは、「4.1.2 ISM-VAの終了」を参照してください。
2. Hyper-Vマネージャーを起動し、インストールしたISM-VAを右クリックして[設定]を選択します。
ISM-VAに割り当てられている仮想ハードディスクの格納場所とファイル名が表示されるので、メモしてください。
3. Hyper-Vマネージャー上で、インストールしたISM-VAを右クリックして[削除]を選択します。



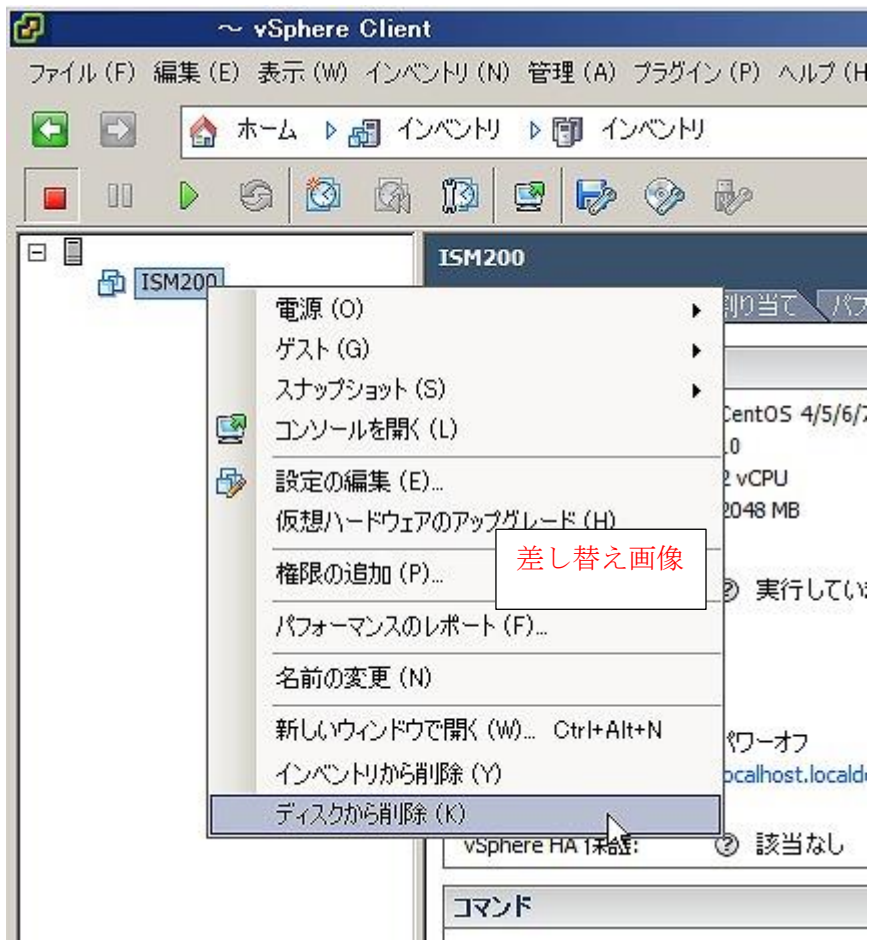
4. 手順2で記録した仮想ハードディスクを、エクスプローラーで削除します。

修正番号：76

付録A ISM-VAのアンインストール

VMware vSphere Hypervisorからのアンインストール

1. ISM-VAを停止します。
詳しくは、「4.1.2 ISM-VAの終了」を参照してください。
2. vSphere Clientを起動し、インストールしたISM-VAを右クリックして[ディスクから削除]を選択します。

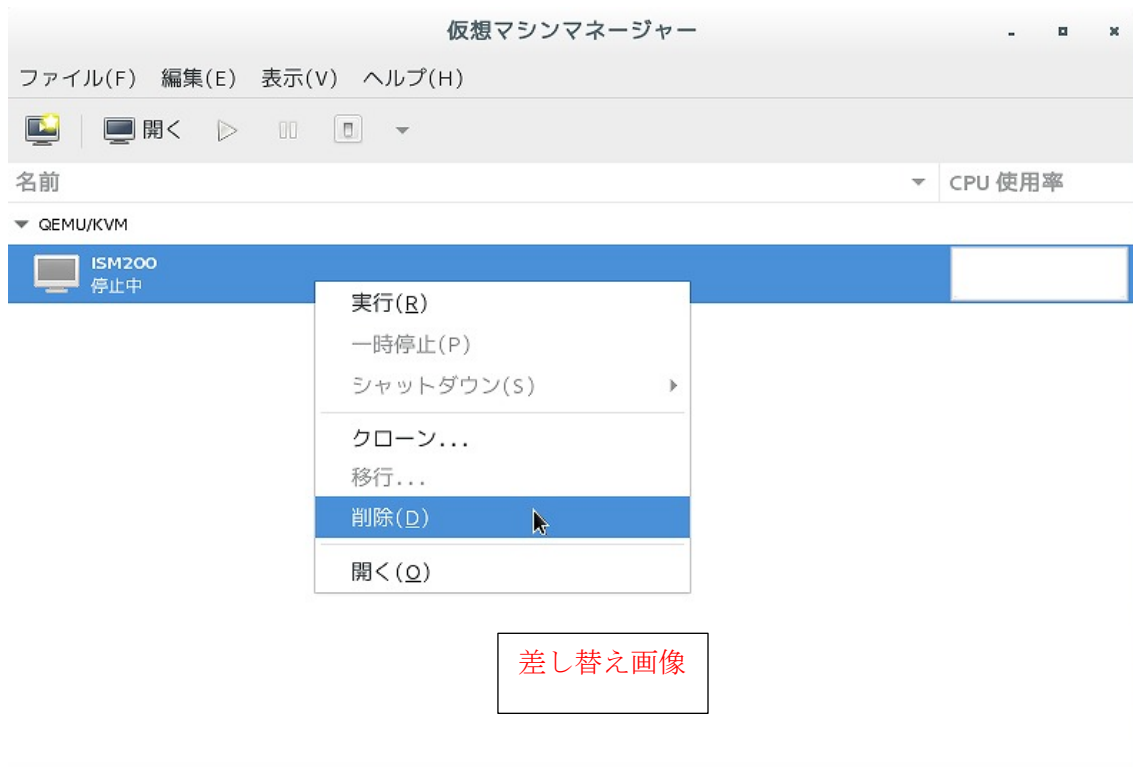


修正番号：77

付録A ISM-VAのアンインストール

KVMからのアンインストール

1. ISM-VAを停止します。
詳しくは、「4.1.2 ISM-VAの終了」を参照してください。
2. 仮想マシンマネージャーを起動し、インストールしたISM-VAを右クリックして[削除]を選択します。



修正番号：78

付録B トラブルシューティング

現象：ismadmコマンドを火曜 午前2:20頃に実行するとエラーとなる。

- ・対象コマンド

```
ismadm service disable
ismadm service enable
ismadm service restart
ismadm service show
ismadm service start
ismadm service status
ismadm service stop
ismadm time add-ntpserver
ismadm time del-ntpserver
```

- ・表示されるエラーメッセージ

以下のいずれかのエラーが表示される。

```
Failed to list unit files: Message did not receive a reply (timeout by message bus)
```

```
Failed to list unit files: Connection reset by peer
```

原因・対処

火曜 午前2:20にISM-VAのカーネルコマンドが再起動されます。カーネルコマンドの再起動中に対象のismadmコマンドを実行するとエラーとなる場合があります。

エラーが発生した場合は、ismadmコマンドを再実行してください。

修正番号：79

現象：以下の機能において、ファイルのインポート操作の実施時に、ファイル選択画面で「サーバとの通信に失敗しました。」のエラーが表示される。

- [各種設定]-[プロファイル]-[アクション]-[インポート]-[選択]ボタン
- [各種設定]-[リポジトリ]-[ファームウェア]-~~[リポジトリ]~~[インポートデータリスト](#)-[アクション]-[DVDインポート]-[選択]ボタン
- [各種設定]-[リポジトリ]-[ファームウェア]-~~[ファームウェア]~~[インポートデータリスト](#)-[アクション]-[ファームウェアインポート]-[選択]ボタン
- [各種設定]-[リポジトリ]-[OS / SVS]-[アクション]-[DVDインポート]-[選択]ボタン

原因・対処

- 使用者が所属しているユーザーグループのFTPフォルダー配下のファイルについて、ファイル名にUTF-8でない文字コードが含まれていないか確認してください。
- ISMとクライアントの通信状態を確認してください。

修正番号：80

ファームウェア管理機能

現象： ETERNUS DX/AFモデルのファームウェアアップデートに失敗する。

原因・対処

「Update モード実施可能」な条件を満たしていない可能性があります。
ファームウェアデータと共に提供されている、留意事項のpdfファイルの「ファームウェアアップデート実行可否版数マトリクス」を参照して、ご利用の環境が「Update モード実施可能」な条件を満たしているか確認してください。

修正番号：81

プロファイル管理機能

現象：プロファイル機能でOSインストールがエラーになる。

原因・対処

- インストール対象のOSインストールメディアがインポートされていません。インストールするOSのインストールメディアをインポートしてからプロファイル適用を実行してください。
- インストール対象ノードとOS種別に対応したServerView Suite DVDがインポートされていません。インストール対象ノードとOS種別をサポートしたServerView Suite DVDをインポートしてからプロファイル適用を実行してください。プロファイル内で使用するServerView Suite DVD版数の指定がない場合は、インポートされた最新のDVDが使用されます。旧機種、旧OSの場合には、使用するDVD版数をプロファイル内で設定してください。
- PXE bootを動作させるための環境設定に問題がある可能性があります。以下を確認してください。
 - DHCPサーバが適切なIPアドレスをリースできるか
 - ノードのBIOS設定でPXE機能が無効になっていないか
 - ノードのオンボードLANまたはLANカードとISM-VAが接続されているか、など

修正番号：82

ネットワーク管理機能

現象：ネットワークマップに仮想スイッチ、仮想マシンの接続関係が表示されない、または表示内容に誤りがある。

原因・対処

仮想スイッチ、仮想マシンの接続関係を表示するためには管理対象ノードを管理している仮想化管理ソフトウェアをISMに登録し、管理対象ノードのOS情報を登録しておく必要があります。仮想化管理ソフトウェア情報が正しく登録されているか、管理対象ノードのOS情報が正しく登録されているかを確認してください。

修正番号：83

ログ管理機能

現象：ノードのログが収集されない、ノードのログの収集に失敗する。

原因・対処

- ノードを新規に登録した時点では、ログ収集は行われない状態になっています。[ログ設定]でログ収集スケジュールを設定してください。
- 「ノード詳細」画面の[ログ設定]タブ内で、ステータスが「対象外」となっていて、ログ収集用のアクションボタンが表示されない場合は、ノードがログ収集対象外の機器か、ノード登録直後で機器情報が未取得の状態です。ログ収集対象ノードの場合は、数分待ったあとに画面を更新してください。
- ログ収集時に指定するログ種類の[対象]を確認してください。スケジュール設定の場合は、[スケジュール実行有効化]にチェックが付いていることを確認してください。
- GUI画面から[ログ収集実行]を実行するとログが収集できるが、スケジュール設定してもログが収集できていない場合は、スケジュール実行のタイミングでノードの電源がオフになっているなどが考えられます。スケジュールの内容を確認してください。
- ~~ノードログのファイルサイズが10GBを超えると、ログの収集は実行されません。[イベント/タスク]-[イベント]を確認し、ログ収集のタイミングで「保管ログ保存領域の設定容量を超過しました。」または「ノードログ保存領域の設定容量を超過しました。」が記録されている場合は、~~
ログファイルの総容量がユーザーグループ設定に設定された上限（サイズ制限）設定値を超えると、新たなログは保管されません。[イベント/タスク]-[イベント]を確認し、ログ収集のタイミングで「保管ログ保存領域の設定容量を超過しました。」、「ノードログ（ダウンロード用データ）保存領域の設定容量を超過しました。」または「ノードログ（ログ検索用データ）保存領域の設定容量を超過しました。」が記録されている場合は、収集済みのログを一部削除してファイル容量を減らしてください。

修正番号：84

現象：ノードのログ収集の設定ができない。

原因・対処

ノードのステータスが「対象外」となっている場合は、ノードがログ収集のサポート対象であるか確認してください。サポート対象で「対象外」となっている場合は、ISM がノード情報を取得できていないことがあるので、ノードとのネットワーク接続やノードプロパティの設定を確認したあと、[ノード情報取得]を実行してください。

修正番号：85

現象：ノードのログ収集で、「オペレーティングシステム」、「ServerView Suite」が指定できない。

原因・対処

- 対象ノードのOS情報が登録されていないか、ISMがノードのOS情報を未取得の場合は指定できません。OS情報を登録後に[ノード情報取得]を実行してください。
- OSの種類によっては、「ServerView Suite」は取得対象外のため指定できません。

付録C プロファイル設定項目

1.1 PRIMERGYサーバ用プロファイルのBIOS/iRMC設定項目

プロファイル中のBIOS/iRMCタブで設定可能な項目を記載します。サーバ種類に応じて一部設定できない項目や設定内容が異なる項目があります。対象サーバがサポートしている範囲で設定を行ってください。

プロファイル内の設定項目は、個別に有効／無効を選択できます。無効にした場合、プロファイルを適用しても、無効に設定した項目は変更されません。

各項目の詳細は、対象サーバのマニュアルを参照してください。

BIOSタブ

項目名		説明	設定値
CPU Configuration			
	Execute Disable Bit (Enabled / Disabled)	CPUのExecute Disable Bit動作を指定します。本機能は、HWマニュアルによっては、「XD (eXecute Disable) ビット」、または「NX (No eXecute) ビット」として説明されている場合があります。	Enabled＝機能を使用可能にする Disabled＝機能を無効にする
	Hyper-Threading (Enabled / Disabled)	CPUのHyper Threading Technology動作を指定します。 本機能を持たないCPUを搭載している場合、本設定は無視されます。	Enabled＝機能を使用可能にする Disabled＝機能を無効にする
	Intel Virtualization Technology (Enabled / Disabled)	CPUの仮想化支援機能の動作を指定します。	Enabled＝機能を有効にする Disabled＝機能を無効にする
	Intel (R) VT-d (Enabled / Disabled)	CPU の Virtualization Technology for Directed I/O機能動作を指定します。	Enabled＝機能を有効にする Disabled＝機能を無効にする
	Power Technology (Energy Efficient / Customize / Disabled)	CPUの電源管理動作を設定します。	Energy Efficient＝省電力に最適化された動作をする Custom＝追加設定項目により詳細動作を設定する Disabled＝電源管理機能を無効にする
	Enhanced SpeedStep (Enabled / Disabled)	Power TechnologyがCustomの場合のみ設定可能な項目です。 CPU の EIST (Enhanced Intel SpeedStep Technology) 動作を指定します。	Enabled＝機能を有効にする Disabled＝機能を無効にする
	Turbo Mode (Enabled / Disabled)	Enhanced SpeedStepがEnabledの場合のみ設定可能な項目です。 CPUのTurbo Boost Technology動作を指定します。 本機能を持たないCPUを搭載している場合、本設定にかかわらず無効 (Disabled) と設定されます。	Enabled＝機能を有効にする Disabled＝機能を無効にする

項目名		説明	設定値
Memory Configuration			
	DDR Performance (Low-Voltage optimized / Energy optimized / Performance optimize)	メモリモジュールは異なる速度(周波数)で動作します。高速になるほどパフォーマンスが向上し、低速になるほど省電力になります。使用可能なメモリ速度は、取り付けられているメモリモジュールの構成に応じて異なります。	Low-Voltage optimized=低電圧で可能な最も高速な設定 Energy optimized=省電力で可能な最も低速な設定 Performance optimized=最高のパフォーマンスを得るために可能な最も高速な設定
	Numa (Enabled / Disabled)	NUMA(Non-Uniform Memory Access)機能の利用有無を指定します。 マルチプロセッサ構成ではない場合、本設定は無視されます。	Enabled=NUMA機能を有効にする Disabled=NUMA機能を無効にする
Onboard Device Configuration			
	Onboard SAS/SATA (SCU) (Enabled / Disabled)	オンボードSAS/SATAストレージコントローラユニット (SCU) の動作を指定します。	Enabled=SCUを有効にする Disabled=SCUを無効にする
	SAS/SATA OpROM (Enabled / Disabled)	Onboard SAS/SATA (SCU) がEnabledの場合のみ設定可能な項目です。 SAS/SATA コントローラの Option ROM動作を指定します。	Enabled=Option ROMを有効にする Disabled=Option ROMを無効にする
	SAS/SATA Driver (LSI MegaRAID / Intel RSTe)	SAS/SATA OpROMがEnabledの場合のみ設定可能な項目です。 SAS/SATA コントローラの Option ROMの種類を指定します。	LSI MegaRAID = Embedded MegaRAID用Option ROMを使用する Intel RSTe=Intel RSTe用Option ROMを使用する
Option ROM Configuration			
	Launch Slot X OpROM (Enabled / Disabled)	各PCIスロットに搭載されたオプションカードの拡張ROM実行を指定します。 プロファイルでは多くのスロットに対して指定できますが、実機上に存在しないスロットに対しては設定しないでください。	Enabled=拡張ROMを実行する Disabled=拡張ROMを実行しない
CSM Configuration			
	Launch CSM (Enabled / Disabled)	CSM (Compatibility Support Module) を実行するかどうかを指定します。 CSM がロードされている場合のみ、レガシーオペレーティングシステムを起動できます。	Enabled=CSMを実行する Disabled=CSMを実行しない
	Boot Option Filter (UEFI and Legacy / UEFI only / Legacy only)	どちらのドライブからブートできるかを指定します。	UEFI and Legacy=UEFI OS ドライブおよび Legacy OS ドライブからブート可能 UEFI only=UEFI OS ドライブからのみブート可能 Legacy only=Legacy OS ドライブからのみブート可能
	Launch Pxe OpRomPolicy (UEFI only / Legacy only / Do not launch)	起動する PXE Option ROM を指定します。 PXE ブートの場合は、使用可能な通常の (Legacy) PXE ブートおよび UEFI PXE ブートがあります。	UEFI only=UEFI Option ROM のみ起動する Legacy only=Legacy Option ROM のみ起動する Do not launch=Option ROM を起動しない

項目名		説明	設定値
	Launch Storage OpRomPolicy (UEFI only / Legacy only / Do not launch)	”起動する Storage Option ROM を指定します。	UEFI only=UEFI Storage Option ROM のみ起動する Legacy only=Legacy Storage Option ROM のみ起動する Do not launch=Storage Option ROM を起動しない
	Other PCI Device Rom Priority (UEFI OpROM / Legacy OpROM)	ネットワーク、マストレージデバイス、ビデオ以外の、デバイスで起動する Option ROM を指定します。	UEFI OpROM=UEFI Option ROM のみ起動する Legacy OpROM = Legacy Option ROM のみ起動する
Network Stack			
	Network Stack (Enabled / Disabled)	UEFI Network Stack を UEFI でネットワークアクセスに使用できるかどうかを設定します。	Disabled=UEFI ネットワークスタックの使用を許可しない Enabled=UEFI ネットワークスタックの使用を許可する
	IPv4 PXE Support (Enabled / Disabled)	Ipv4 による PXE UEFI Boot を UEFI モードで使用できるかどうかを指定します。	Disabled=Ipv4 による PXE UEFI Boot の使用を許可しない Enabled=Ipv4 による PXE UEFI Boot の使用を許可する
	IPv6 PXE Support (Enabled / Disabled)	Ipv6 による PXE UEFI Boot を UEFI モードで使用できるかどうかを指定します。	Disabled=Ipv6 による PXE UEFI Boot の使用を許可しない Enabled=Ipv6 による PXE UEFI Boot の使用を許可する

iRMCタブ

項目名		説明	設定値
iRMC GUI			
	デフォルト言語 (英語 / ドイツ語 / 日本語)	言語の初期設定を行います。 次回 iRMC Web インターフェースを呼び出す際に有効になります。	英語=デフォルト言語を英語にする ドイツ語=デフォルト言語をドイツ語にする 日本語=デフォルト言語を日本語にする
電源制御			
	POSTエラー時の動作 (起動継続 / 起動停止)	サーバ起動時にエラーが発生した場合の対応動作を設定します。	起動継続=エラーが発生しても、起動処理を続ける 起動停止=エラーが発生すると、キー入力があるまで起動を停止する
	電源復旧時動作設定 (電源断前の状態に戻す / 電源投入しない / 電源投入する)	AC電源入力が切断されたあと、電源復旧した際の電源動作を設定します。	電源断前の状態に戻す=電源切断発生時の状態を保持する (切断時にサーバが電源ON中だった場合は電源投入する。電源OFF中だった場合は電源投入しない) 電源投入しない=常に電源OFFになる 電源投入する=常に電源ONになる
	電力制御 (OSによるコントロール / 省)	サーバの省電力動作や静音動作に関する設定を行います。	OSによるコントロール=OSの制御に従う

項目名		説明	設定値
電力動作)		注意 <hr/> <hr/> BIOS設定で、Enhanced SpeedStepを無効に設定した場合、本制御も無効となります。 <hr/> <hr/>	省電力動作＝消費電力を抑えることを優先した動作となる （スケジュール）＝プロファイル管理では設定できない （電力制限）＝プロファイル管理では設定できない
ファンテスト			
ファン確認時刻		ファンテストを実行する場合に有効になります。	ファンテストの開始時刻を入力する
ファンテスト無効化		定期的なファンの診断を行うかどうかを設定します	（チェックあり）＝ファンテストを行わない （チェックなし）＝毎日指定した時刻にテストを行う
ソフトウェアウォッチドッグ			
ソフトウェアウォッチドッグ		ソフトウェアウォッチドッグにて、OS動作中に定期的な通信チェックをするかどうかを指定します。 注意 <hr/> <hr/> 設定はサーバ再起動後に有効となります。 <hr/> <hr/>	（チェックあり）＝通信監視を行う （チェックなし）＝通信監視を行わない
動作		通信が行えない場合の動作を指定します。 注意 <hr/> <hr/> 設定はサーバ再起動後に有効となります。 <hr/> <hr/>	ブルダウンから以下を選択する 継続稼働＝特に何も行いません リセット＝サーバの再起動を行う パワーサイクル＝一度サーバを電源OFFしたあと、電源ONを行う
タイムアウト時間		通信できないと判断する時間を指定します。 注意 <hr/> <hr/> 設定はサーバ再起動後に有効となります。 <hr/> <hr/>	1～100分までの数値を指定する
Bootウォッチドッグ			
Bootウォッチドッグ		Bootウォッチドッグにて、POST終了後	（チェックあり）＝時間監視を行う

項目名		説明	設定値
		<p>からOS起動までの時間を監視するかどうかを指定します。</p> <p>注意</p> <hr/> <p>設定はサーバ再起動後に有効となります。</p> <hr/>	(チェックなし) = 時間監視を行わない
	動作	<p>指定した時間内にOSが起動しない場合の動作を指定します。</p> <p>注意</p> <hr/> <p>設定はサーバ再起動後に有効となります。</p> <hr/>	<p>ブルダウンから以下を選択する</p> <p>継続稼働 = 特に何も行いません リセット = サーバの再起動を行います パワーサイクル = 一度サーバを電源OFFしたあと、電源ONを行います</p>
	タイムアウト時間	<p>OSが起動しないと判断する時間を指定します。</p> <p>注意</p> <hr/> <p>設定はサーバ再起動後に有効となります。</p> <hr/>	1～100分までの数値を指定します
	時刻		
	タイムモード (システムRTC / NTPサーバ)	iRMC の時刻設定を管理対象サーバから取得する、もしくはNTPサーバから取得するかを指定します。	<p>System RTC = 管理対象サーバのシステムクロックからiRMCの時刻を取得する</p> <p>NTP Server = ネットワークタイムプロトコル (NTP) を使用して独自の時刻を参照時刻ソースとして動作する NTP サーバとiRMCの時刻を同期する</p>
	RTCモード (ローカルタイム / UTC)	iRMC の時刻を UTC (協定世界時) 形式で表示する、もしくはローカルタイム形式で表示するかを選択できます。	<p>ローカルタイム = iRMCの時刻をローカルタイム形式で表示する</p> <p>UTC = iRMC の時刻を UTC (協定世界時) 形式で表示する</p>
	NTPサーバ 0	プライマリ NTP サーバの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。	IPアドレスまたはDNS文字列を入力する
	NTPサーバ 1	セカンダリ NTP サーバの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。	IPアドレスまたはDNS文字列を入力する
	タイムゾーン	PRIMERGY サーバのある場所に対応するタイムゾーンを設定できます。	ブルダウンから選択する
ポート番号とネットワークサービス設定			

項目名	説明	設定値
Telnet 有効	Telnet接続を有効にするかを指定します。	(チェックあり) =Telnet接続を有効にする (チェックなし) =Telnet接続を無効にする
Telnet ポート (初期値: 3172)	iRMC の Telnet ポート番号を指定します。	ポート番号を入力する。 初期値は3172
SSH 有効	ssh接続を有効にするかを指定します。	(チェックあり) = ssh接続を有効にする (チェックなし) = ssh接続を無効にする
SSH ポート (初期値: 22)	ssh の Telnet ポート番号を指定します。	ポート番号を入力する。 初期値は22
SNMP 一般設定		
SNMP 有効	SNMPを有効にするかを指定します。 注意 <hr/> <hr/> iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。 <hr/> <hr/>	有効=SNMPを有効にする 無効=SNMPを無効にする
SNMPポート(初期値: 161)	SNMP サービスが待機しているポートを指定します。 注意 <hr/> <hr/> iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。 <hr/> <hr/>	ポート番号を入力する。 初期値は UDP 161
SNMPサービスプロトコル (全 て (SNMPv1/v2c/v3) / SNMPv3のみ)	SNMPサービスプロトコルを指定します。 注意 <hr/> <hr/> iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	全て (SNMPv1/v2c/v3) =全プロトコルサポート (SNMPv1/v2c/v3) SNMPv3のみ=SNMPv3のみサポート

項目名		説明	設定値
SNMPv1/v2cコミュニティ名		<p>SNMP v1/v2c の場合のコミュニティ文字列を指定します。</p> <p>注意</p> <hr/> <p>iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。</p> <hr/>	
SNMPv3 ユーザー設定			
SNMPv3 有効 (有効 / 無効)		<p>ユーザーに対して SNMPv3 サポートを有効にするか指定します。</p> <p>注意</p> <hr/> <p>SNMPv3ユーザーを作成/変更するには、ネットワーク設定 -> SNMPにてSNMPを有効にする必要があります。</p> <p>SNMPv3を使用するには最低8文字のパスワードを設定する必要があります！</p> <p>iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。</p> <hr/>	<p>有効＝SNMPv3サポートを有効にする</p> <p>無効＝SNMPv3サポートを無効にする</p>
SNMPv3 アクセス権		<p>ユーザーのアクセス権限を指定します。</p> <p>注意</p> <hr/> <p>SNMPv3ユーザーを作成/変更するには、ネットワーク設定 -> SNMPにてSNMPを有効にする必要があります。</p> <p>SNMPv3を使用するには最低8文字のパスワードを設定する必要があります！</p>	常に読み取りのみとなる

項目名	説明	設定値
	<p>iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。</p> <hr/> <hr/>	
認証 (SHA / MD5 / 無効)	<p>SNMPv3 が認証に使用する認証プロトコルを選択します。</p> <p>注意</p> <hr/> <hr/> <p>SNMPv3ユーザーを作成/変更するには、ネットワーク設定 -> SNMPにてSNMPを有効にする必要があります。</p> <p>SNMPv3を使用するには最低8文字のパスワードを設定する必要があります！</p> <p>iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。</p> <hr/> <hr/>	<p>SHA=SHAを使用する</p> <p>MD5=MD5を使用する</p> <p>無効=認証を無効にする</p>
暗号化 (DES / AES / 無効)	<p>SNMPv3 が SNMPv3 トラフィックの暗号化に使用する暗号化プロトコルを指定します。</p> <p>注意</p> <hr/> <hr/> <p>SNMPv3ユーザーを作成/変更するには、ネットワーク設定 -> SNMPにてSNMPを有効にする必要があります。</p> <p>SNMPv3を使用するには最低8文字のパスワードを設定する必要があります！</p> <p>iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。</p> <hr/> <hr/>	<p>DES=DESを使用する</p> <p>AES=AESを使用する</p> <p>無効=暗号化を無効にする</p>

項目名		説明	設定値
SNMPトラップ送信先			
	SNMPトラップコミュニティ	SNMPトラップコミュニティを指定します。	SNMPトラップコミュニティ文字列を入力する
	SNMPユーザー	SNMPv3 トラップ送信先に定義済みのSNMPv3 ユーザーを指定します。 注意 iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	SNMPユーザー文字列を入力する
	送信先SNMPサーバ 1-7	「トラップ送信先」として設定するコミュニティに属するサーバのDNS 名または IP アドレスを指定します。	SNMPサーバのIPアドレス、またはDNS文字列を入力する
	プロトコル	トラップの受信に使用する SNMP プロトコルバージョンを指定します。 注意 iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	プルダウンから以下を選択する SNMPv1、SNMPv2c、SNMPv3

1.2 PRIMERGYサーバ用プロファイルのOS設定項目

プロファイル中のOS/OS個別情報タブで設定可能な項目を記載します。省略可の記載がある項目はプロファイル上で設定をしなくてもOSのインストールは可能です。省略した場合は設定されないか、OSのデフォルトの設定が適用されます。

1.2.1 Windows Server 2008 R2 SP1/Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2用/ Windows Server 2016用プロファイル

OSタブ

項目名		説明	設定値
インストール指定			
	インストールのタイプ	OSをコアインストール、フルインストールのどちらでインストールするかを指定します。	画面から選択する。
	インストールメディア	インストールに使用するメディアの種類を選択します。	プルダウンから選択する。 Microsoft社メディアを選択した場合は、さらにプロダクトキーの入力が必要。
	ServerView Suite DVD (最新版数でインストール/版数指定する)	インストールに使用するServerView Suite DVD の版数を指定します。	最新版数でインストール＝リポジトリに登録されている中で、最もバージョンの新しいServerView Suiteを使用する 版数を指定する＝指定した版数のServerView Suiteを使用する
管理LAN ネットワークポート設定			
	ネットワークポート指定	管理LANに使用するネットワークのポートを指定します。	(チェックあり)＝管理LANのネットワークポートを指定する
	指定方法	管理LANのネットワークポートの指定方法を選択します。	プルダウンから選択する。
	ネットワークカード	指定方法にて、「ポート番号」を指定した場合に設定します。 使用するネットワークカードの種類を選択します。	画面から選択する。 PCIカードを選択した場合には、PCIスロット番号を入力する。
	ポート番号	指定方法にて、「ポート番号」を指定した場合に入力します。	使用するポート番号を入力する。
	MACアドレス	指定方法にて、「MACアドレス」を指定した場合に入力します。	使用するネットワークのMACアドレスを入力する。
RAIDとディスクの構成			
	アレイコントローラを使用する	サーバ内蔵のアレイコントローラをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時)＝アレイコントローラを使用する(*8)
	既存アレイ構成を使用する	すでにアレイコントローラ上に作成済みのボリュームを使用します。	(選択時)＝既存のアレイ構成を使用する
	アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュームを作成して使用します。	(選択時)＝アレイを新規に構築する 加えて、アレイコントローラの種類、RAIDレベル、RAIDに組み込むディスクの台数をプルダウンから選択する。
	アレイコントローラを使用しない	アレイコントローラ以外のドライブをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時)＝アレイコントローラ以外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を画面から選択する。
ボリューム1			
	ボリュームラベル	ボリューム名を指定します。	ボリューム名文字列を入力する。 (*6)

項目名		説明	設定値
	ファイルシステム	ファイルシステムの種類を選択します。	常にNTFSとなる。
	パーティションサイズ（自動／指定）	パーティションのサイズを指定します。	自動＝自動的に適切なサイズでパーティションを作成する 指定＝入力したサイズでパーティションを作成する
	クイックフォーマット	パーティションのフォーマット時にクイックフォーマットを利用するかどうかを指定します。	する＝クイックフォーマットを行う しない＝通常のフォーマットを行う（作業時間は長くなる）
	利用形態	パーティションの用途を指定します。	常にBoot、OSとなる。
基本設定			
	タイムゾーン	タイムゾーンを指定します。	プルダウンから選択する。
	地域と言語	地域と言語を指定します。	プルダウンから選択する。
	キーボード	キーボードの言語や種類を指定します。	プルダウンから選択する。
システム設定			
	画面解像度 [px]	OSインストール直後の画面解像度を指定します。	プルダウンから選択する。（*1） 例：600×480、800×600、1024×768、1280×1024
	リフレッシュレート [Hz]	OSインストール直後のディスプレイのリフレッシュレートを指定します。	プルダウンから選択する。（*1）
	画面の色数 [bit]	OSインストール直後の画面の表示色数をビット数で指定します。	プルダウンから選択する。（*1）
役割と機能の追加			
	SNMPサービスのインストール	SNMPサービスをインストールするかどうかを指定します。	（チェックあり）＝SNMPサービスをインストールする
	SNMPトラップ設定	SNMPトラップ送信時のコミュニティ名とトラップ送信先を指定します。	追加ボタンをクリックして任意の数の設定を行う。 【省略可】
	SNMPセキュリティサービス	受け付けるSNMPコミュニティ名とその権利を指定します。	追加ボタンをクリックして任意の数の設定を行う。 【省略可】
	認証トラップの送信	未知のホストまたはコミュニティからのSNMP要求があった場合に認証トラップを送信するかどうかを指定する。	（チェックあり）＝認証トラップを送信する （チェックなし）＝認証トラップを送信しない
	SNMPパケットの受付 （デフォルトのホストからSNMPパケットを受け付ける（LocalHost）/ これらのホストからSNMPパケットを受け付ける）	LocalhostからのSNMPパケットを受け付けるかどうかを指定します。	（デフォルトのホストからSNMPパケットを受け付ける（LocalHost））＝LocalhostからのSNMPパケットを受け付ける （これらのホストからSNMPパケットを受け付ける）＝次に指定したホスト名からのSNMPパケットを受け付ける。加えて、ホスト名を記載する
	SNMP設定エージェント	連絡先と物理的な位置を入力する。	日本語を含む文字列が使用可能。 【省略可】
	サービス	SNMPホストに関する情報を5つのオプションから指定します。	任意のサービスをチェックする。
	リモートデスクトップ	リモートデスクトップの利用可否を指定します。	（チェックあり）＝リモートデスクトップを有効にする （チェックなし）＝リモートデスク

項目名		説明	設定値
			トップを無効にする
	リモートアシスタンス（インストールのタイプがフルの場合のみ）	リモートアシスタンスの利用可否を指定します。	許可する範囲を画面で指定する。 必要に応じて招待の有効時間も指定する。
	ファイアーウォール設定	対象サーバをSCVMMへ登録する際に必要となるファイアーウォールの例外を作成します。 以下のアプリケーションからのアクセスが有効になります。 ・ Windows Management Instrumentation(WMI) ・ ファイルとプリンターの共有	（チェックあり）＝ファイアーウォール例外を作成する （チェックなし）＝ファイアーウォール例外を作成しない
追加アプリケーション			
	Java Runtime Environment	Java Runtime Environmentをインストールするかどうかを指定します。 ServerView RAID Managerをインストールする場合には必ず指定してください。	（チェックあり）＝アプリケーションをインストールする（*9）
	ServerViewエージェント	ServerViewエージェントをインストールするかどうかを指定します。 SNMPサービスをインストールする場合に指定できます。	（チェックあり）＝アプリケーションをインストールする（*2）
	ServerViewアップデートエージェント	ServerViewアップデートエージェントをインストールするかどうかを指定します。 ServerViewエージェントをインストールする場合に指定できます。	（チェックあり）＝アプリケーションをインストールする（*2）
	DSNAP	DSNAPをインストールするかどうかを指定します。	（チェックあり）＝アプリケーションをインストールする（*7）
	ソフトウェアサポートガイド	ソフトウェアサポートガイドをインストールするかどうかを指定します。	（チェックあり）＝アプリケーションをインストールする（*7）
	ServerView RAID Manager	ServerView RAID Managerをインストールするかどうかを指定します。	（チェックあり）＝アプリケーションをインストールする
インストール後のスクリプト実行			
	インストール後のスクリプト実行	インストール後にスクリプトを実行するかを指定します。	（チェックあり）＝インストール後にスクリプトを実行する
	OSに転送するディレクトリ	インストール後、OSに転送するディレクトリを指定します。	インストール後、OSに転送するディレクトリを指定する
	実行するスクリプト	実行するスクリプトを指定します。（*3）	実行するスクリプトを指定する

*1：OSでサポートしていない値を設定した場合、デフォルト設定でインストールされます。

*2：「地域と言語」設定で日本語を選択している場合は、アプリケーションが日本語でインストールされます。その他の場合は英語でインストールされます。

*3：Windowsの“cmd /c”コマンドにより、指定したスクリプトを実行します。

*6：Windows Server 2016の場合、ボリューム名は半角の英数字・記号で設定してください。

*7：「地域と言語」設定で日本語を選択している場合のみインストール可能です。

*8：アレイコントローラを使用する場合、BIOSの「Onboard Device Configuration」設定と矛盾が無いように設定してください。

*9：「インストールのタイプ」設定でフルインストールを選択している場合のみインストール可能です。

OS個別情報タブ

項目名		説明	設定値
インストールメディアタイプ		インストールに使用するメディアの種類を選択します。	常にOSタブで指定したインストールメディアとなる。
ユーザー名		ユーザーの名前を入力します。	ユーザー名の文字列を入力する。
組織		ユーザーが属する組織を入力します。	組織の文字列を入力する。
コンピュータ名		ネットワーク上で識別するためのコンピュータ名を入力します。	コンピュータ名文字列を入力する。
Administratorパスワード		パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する。
ワークグループ/ドメイン			
	ワークグループ/ドメイン	ワークグループまたはドメインのどちらに参加するかを選択します。	ワークグループ=ワークグループに参加する ドメイン=ドメインに参加する(*4)
	ワークグループ/ドメイン名	ワークグループまたはドメインの名前を指定します。	文字列を入力する。 (*5)
	ドメインユーザー名	ドメインの場合、ドメインユーザー名を入力します。	文字列を入力する。
	ドメインパスワード	ドメインの場合、パスワードを入力します。	文字列を入力する。
ネットワーク			
	DHCP	管理LANのIPアドレスに関して固定IPアドレスを指定するか、DHCPを使用するかを選択します。	(チェックあり)=DHCPを利用する (チェックなし)=固定IPを指定する
	IPアドレス	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレスを指定します。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。
	サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマスクを指定します。	サブネットマスクをIPv4形式で入力する。
	デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、ゲートウェイを指定します。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形式で入力する。
	DNSサーバ	DHCPを利用しない場合、DNSサーバのIPアドレスを指定します。	DNSサーバのIPアドレスをIPv4形式で入力する。
	DNSドメイン名	DHCPを利用しない場合、ドメイン名を指定します。	ドメイン名文字列を入力する。

*4：ドメインサーバに接続できない場合、ワークグループに設定されます。

*5：ワークグループ名は、15文字以下で設定してください。全角は2文字、半角は1文字としてカウントします。

1.2.2 VMware ESXi 5.5/VMware ESXi 6.0用プロファイル

OSタブ

項目名		説明	設定値
インストール設定			
	インストールメディア	インストールに使用するメディアの種類を選択します。	プルダウンから選択する。
	ServerView Suite DVD (最新版数でインストール/版数を指定する)	インストールに使用するServerView Suite DVD の版数を指定します。	最新版数でインストール=リポジトリに登録されている中で、最もバージョンの新しいServerView Suiteを使用する

項目名		説明	設定値
			版数を指定する＝指定した版数の ServerView Suiteを使用する
管理LAN ネットワークポート設定			
	ネットワークポート指定	管理LANに使用するネットワークのポートを指定します。	(チェックあり)＝管理LANのネットワークポートを指定する
	指定方法	管理LANのネットワークポートの指定方法を選択します。	プルダウンから選択する。
	ネットワークカード	指定方法にて、「ポート番号」を指定した場合に設定します。 使用するネットワークカードの種類を選択します。	画面から選択する。 PCIカードを選択した場合には、PCIスロット番号を入力する。
	ポート番号	指定方法にて、「ポート番号」を指定した場合に入力します。	使用するポート番号を入力する。
	MACアドレス	指定方法にて、「MACアドレス」を指定した場合に入力します。	使用するネットワークのMACアドレスを入力する。
RAIDとディスクの構成			
	アレイコントローラを使用する	サーバ内蔵のアレイコントローラをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時)＝アレイコントローラを使用する(*2)(*3)
	既存アレイ構成を使用する	すでにアレイコントローラ上に作成済みのボリュームを使用します。	(選択時)＝既存のアレイ構成を使用する
	アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュームを作成して使用します。	(選択時)＝アレイを新規に構築する 加えて、アレイコントローラの種類、RAIDレベル、RAIDに組み込むディスクの台数をプルダウンから選択する。
	アレイコントローラを使用しない	アレイコントローラ以外のドライブをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時)＝アレイコントローラ以外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を画面から選択する。
基本設定			
	キーボード	キーボードの言語や種類を指定します。	プルダウンから選択する。
ネットワーク			
	セットアップ	VM標準ネットワークでセットアップするかを指定します。	(チェックあり)＝標準ネットワークを作成する
	使用するVLAN ID	VLAN IDを入力します。VLANを使用しない場合は「0」を入力します。	VLAN IDを入力する。
仮想化管理ソフトへの登録			
	仮想化管理ソフトへの登録	ESXiのインストールが完了したあと、続けてvCenterへ自動的に登録するかどうかを指定します。 自動登録を行う場合、[OS個別情報]タブで設定するIPアドレスは固定IPアドレスを設定してください。また、[OS]タブではVLAN IDに「0」を指定してください。	(チェックあり)＝登録する (チェックなし)＝登録しない
	登録先仮想化管理ソフト名	登録先のvCenterを指定します。	事前に[各種設定]－[基本設定]－[仮想管理ソフトウェア]画面に登録した登録先から選択。
	ホスト登録先のフォルダー	登録先のフォルダー名またはクラス	登録先のフォルダー名またはクラス

項目名		説明	設定値
	名またはクラスタ名	名を指定します。	タ名を指定する。
インストール後のスクリプト実行			
	インストール後のスクリプト実行	インストール後にスクリプトを実行するかを指定します。	(チェックあり) =インストール後にスクリプトを実行する
	スクリプト格納ディレクトリ	インストール後に実行するスクリプトが格納されているディレクトリを指定します。	インストール後に実行するスクリプトが格納されているディレクトリを指定する
	実行するスクリプト	インストール後に実行するスクリプトを指定します。(*1)	インストール後に実行するスクリプトを指定する。

*1：ファイル中にブレーンテキスト形式でスクリプトを記述してください。

自動インストール(kickStart)中の%post処理として実行されます。%firstbootの記述を行なうと%firstboot処理として実行されます。

*2：アレイコントローラを使用する場合、BIOSの「Onboard Device Configuration」設定と矛盾が無いように設定してください。

*3：VMware ESXiでは、「オンボードSATAアレイコントローラ」は使用できません。

OS個別情報タブ

項目名		説明	設定値
ライセンス合意		Vmware社のライセンスに合意するか選択します。 必ずチェックを付け、合意したことを示してください。	(チェックあり) =ライセンスに合意する (チェックなし) =ライセンスに合意しない
インストールメディアタイプ		インストールに使用するメディアの種類を選択します。	常にOSタブで指定したインストールメディアとなる。
Rootパスワード		パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する
ネットワーク			
	DHCP	管理LANのIPアドレスに関して固定IPアドレスを指定するか、DHCPを使用するかを選択します。	(チェックあり) =DHCPを利用する (チェックなし) =固定IPを指定する
	IPアドレス	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレスを指定します。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。
	サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマスクを指定します。	サブネットマスクをIPv4形式で入力する
	デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、ゲートウェイを指定します。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形式で入力する。
	DNSサーバ	DHCPを利用しない場合、DNSサーバをIPアドレスで指定します。	DNSサーバのIPアドレスをIPv4形式で入力する。
	コンピュータ名をDNSサーバから取得	DNSから取得したコンピュータ名(ホスト名)を利用するかどうかを指定します。 DHCPを無効にした場合、チェックあり/なしを選択することができます。	(チェックあり) =DNSから取得する (チェックなし) =任意のホスト名を指定する
	コンピュータ名	DNSからコンピュータ名(ホスト名)を取得しない場合に任意のコンピュータ名(ホスト名)を指定します。	ホスト名を入力する。

1.2.3 Red Hat Enterprise Linux用プロファイル

OSタブ

項目名		説明	設定値
インストール設定			
	インストールメディア	インストールに使用するメディアの種類を選択します。	プルダウンから選択する。
	ServerView Suite DVD (最新版数でインストール/版数を指定する)	インストールに使用するServerView Suite DVD の版数を指定します。	最新版数でインストール=リポジトリに登録されている中で、最もバージョンの新しいServerView Suiteを使用する 版数を指定する=指定した版数のServerView Suiteを使用する
管理LAN ネットワークポート設定			
	ネットワークポート指定	管理LANに使用するネットワークのポートを指定します。	(チェックあり)=管理LANのネットワークポートを指定する
	指定方法	管理LANのネットワークポートの指定方法を選択します。	プルダウンから選択する。
	ネットワークカード	指定方法にて、「ポート番号」を指定した場合に設定します。 使用するネットワークカードの種類を選択します。	画面から選択する。 PCIカードを選択した場合には、PCIスロット番号を入力する。
	ポート番号	指定方法にて、「ポート番号」を指定した場合に入力します。	使用するポート番号を入力する。
	MACアドレス	指定方法にて、「MACアドレス」を指定した場合に入力します。	使用するネットワークのMACアドレスを入力する。
基本設定			
	地域と言語	言語を指定します。	プルダウンから選択する。
	キーボード	キーボード種類を指定します。	プルダウンから選択する。
	タイムゾーン	タイムゾーンを指定します。	プルダウンから選択する。
	システムクロックでUTCを使用	システムクロックとして使用する時刻の種類を指定します。	(チェックあり)=UTCを使用 (チェックなし)=ローカルタイムを使用
RAIDとディスクの構成			
	アレイドコントローラを使用する	サーバ内蔵のアレイドコントローラをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時)=アレイドコントローラを使用する(*12)
	既存アレイド構成を使用する	すでにアレイドコントローラ上に作成済みのボリュームを使用します。	(選択時)=既存のアレイド構成を使用する
	アレイドを新規に構築する	新しくアレイドを構築し、その中にボリュームを作成して使用します。	(選択時)=アレイドを新規に構築する 加えて、アレイドコントローラの種類、RAIDレベル、RAIDに組み込むディスクの台数を画面から選択する。
	アレイドコントローラを使用しない	アレイドコントローラ以外のドライブをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時)=アレイドコントローラ以外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を画面から選択する。
パーティション		下記の項目を[プロファイル] 画面に表示された/boot、/varなどの各マウントポイントに対して指定します。	

(各マウントポイント左のチェックボックス)	マウントポイントに対して独立したパーティションを作成するかどうかを指定します。	(チェックあり) =パーティションを作成する (チェックなし) =パーティションを作成しない
ファイルシステムタイプ	ファイルシステムの種類を指定します。	プルダウンから選択する 例 : ext2, ext3, ext4
サイズ	パーティションの容量を指定します。	数値を10進数で入力する。
最大許容量まで使用	余ったディスク容量を指定したパーティションに割り当てるかどうかを指定します。 Linuxインストール後に空き領域に別途パーティションを作成する場合は、本指定は行いません。	(チェックあり) =指定のパーティションに余った容量を割り当てて容量を拡大 (チェックなし) =指定した容量でパーティションを作成
パッケージ選択		
パッケージ選択の初期値	インストールするパッケージとして画面に表示されるパッケージグループと個別パッケージの初期選択を変更します。	最小=必要最小限のパッケージ 全て=全てのパッケージ デフォルト=推奨パッケージ (*7)
パッケージグループ	インストールするパッケージグループを指定します。	(チェックあり) =インストールする (チェックなし) =インストールしない
個別パッケージ	インストールするパッケージ名を個別に指定します。	パッケージ名を文字列で入力する。 1行あたり1パッケージで複数行の記述が可能。
ブートローダーオプション		
ブートローダをインストール	ブートローダをインストールするかどうかを設定します。	(チェックあり) =ブートローダをインストールする 本項目は常にチェック状態となる。
ブートローダのインストール場所	ブートローダのインストール先を指定します。	MBR=マスタブートレコードにインストールする 本項目は常に「MBR」に設定される。
カーネルパラメータ	カーネルパラメータを指定します。	カーネルパラメータとして指定する文字列を入力する。 【省略可】
Security-Enhanced Linux		
SE Linux	SE Linuxの使用有無を指定します。	プルダウンで以下から選択する。 Enforcing, Disabled, Permissive
認証		
シャドウパスワードの使用	シャドウパスワードを使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) =使用する (チェックなし) =使用しない (*3)
MD5の使用	パスワード暗号化にMD5を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) =使用する (チェックなし) =使用しない
nscdの有効	Name Switch Cacheを使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) =使用する (チェックなし) =使用しない
アプリケーション	OSインストール後に自動的にインストールするアプリケーションを指定します。	
アプリケーション選択	インストールするアプリケーションを指定します。	(チェックあり) =アプリケーションをインストールする

	(各種アプリケーション)	アプリケーションの種類はディストリビューションによって異なります (*4)。	
インストール後のスクリプト実行			
	インストール後のスクリプト実行	インストール後にスクリプトを実行するかを指定します。	(チェックあり) =インストール後にスクリプトを実行する
	OSに転送するディレクトリ	インストール後、OSに転送するディレクトリを指定します。	インストール後、OSに転送するディレクトリを指定する
	実行するスクリプト	実行するスクリプトを指定します。(*8) (*9)	実行するスクリプトを指定する。

*3: 「シャドウパスワード」は、プロファイル設定にかかわらず常に有効になります。

*4: 下表のアプリケーションはServerView Suite DVD V11.16.04、V12.16.10を使用した場合です。将来的にServerView Suite DVDの改版によって変更される場合があります。

アプリケーション	RHEL 6.8(x86) /RHEL 6.7(x86) /RHEL 6.6(x86)	RHEL 6.8(Intel64) /RHEL 6.7(Intel64) /RHEL 6.6(Intel64)	RHEL 7.2 /RHEL 7.1
ServerView Agentless Service	×	○	○
ServerView SNMP Agents	○	○	○
ServerView CIM Providers	×	○	○
ServerView Update Agent (online flash)	○	○	○
ServerView Operations Manager (*10)	○	○	○
ServerView RAID Manager	○	○	○
AIS Connect (*11)	○	○	×
Java Runtime Environment	○	○	○

○=ISMで指定可能、×=ISMで指定不可

*7: ServerView Suite DVD (V11.16.04)を使用した場合、インストールされないパッケージグループがあります。その場合、手動でインストールしてください。

*8: スクリプトから他のスクリプトを実行する場合、実行権限を付与し、呼び出してください。

*9: shコマンドにより、指定したスクリプトを実行します。

*10: インストール時には、SELinuxをDisabledに設定してください。

*11: ServerView Suite DVD V12.16.10では設定できません。

*12: アレイコントローラを使用する場合、BIOSの「Onboard Device Configuration」設定と矛盾が無いように設定してください。

OS個別情報タブ

項目名	説明	設定値
インストールメディアタイプ	インストールに使用するメディアの種類を選択します。	常にOSタブで指定したインストールメディアとなる。
Rootパスワード	パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する
ネットワーク		
コンピュータ名をDNSサーバから取得	DNSから取得したコンピュータ名(ホスト名)を利用するかどうかを指定します。	(チェックあり) =DNSから取得する (チェックなし) =任意のホスト名を指定する
コンピュータ名	DNSからコンピュータ名(ホスト名)を取得しない場合に、任意のホスト名を指定します。	ホスト名を入力する。
DHCP	管理LANのIPアドレスに対して固定IPアドレスを指定するか、DHCPを使用するか	(チェックあり) =DHCPを利用する (チェックなし) =固定IPを指定する

項目名		説明	設定値
		を選択します。	る
	IPアドレス	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレスを指定します。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。
	サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマスクを指定します。	サブネットマスクをIPv4形式で入力する
	デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、デフォルトゲートウェイを指定します。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形式で入力する
	DNSサーバ	DHCPを利用しない場合、DNSサーバをIPアドレスで指定します。	DNSサーバのIPアドレスをIPv4形式で指定する

1.2.4 SUSE Linux Enterprise Server 用プロフィール

OSタブ

項目名		説明	設定値
インストール設定			
	インストールメディア	インストールに使用するメディアの種類を選択します。	プルダウンから選択する。
	ServerView Suite DVD (最新版数でインストール/版数 を指定する)	インストールに使用するServerView Suite DVD の版数を指定します。	最新版数でインストール＝リポジトリに登録されている中で、最もバージョンの新しいServerView Suiteを使用する 版数を指定する＝指定した版数のServerView Suiteを使用する
管理LAN ネットワークポート設定			
	ネットワークポート指定	管理LANに使用するネットワークのポートを指定します。	(チェックあり)＝管理LANのネットワークポートを指定する
	指定方法	管理LANのネットワークポートの指定方法を選択します。	プルダウンから選択する。
	ネットワークカード	指定方法にて、「ポート番号」を指定した場合に設定します。 使用するネットワークカードの種類を選択します。	画面から選択する。 PCIカードを選択した場合には、PCIスロット番号を入力する。
	ポート番号	指定方法にて、「ポート番号」を指定した場合に入力します。	使用するポート番号を入力する。
	MACアドレス	指定方法にて、「MACアドレス」を指定した場合に入力します。	使用するネットワークのMACアドレスを入力する。
基本設定			
	地域と言語	言語を指定します。	英語のみ選択可能
	キーボード	キーボード種類を指定します。	プルダウンから選択する。
	タイムゾーン	タイムゾーンを指定します。	プルダウンから選択する。
	システムクロックでUTCを使用	システムクロックとして使用する時刻の種類を指定します。	(チェックあり)＝UTCを使用 (チェックなし)＝ローカルタイムを使用
RAIDとディスクの構成			
	アレイコントローラを使用する	サーバ内蔵のアレイコントローラをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時)＝アレイコントローラを使用する(*8)
	既存アレイ構成を使用する	すでにアレイコントローラ上に作成済	(選択時)＝既存のアレイ構成を使

		みのボリュームを使用します。	用する
	アレいを新規に構築する	新しくアレいを構築し、その中にボリュームを作成して使用します。	(選択時) =アレいを新規に構築する 加えて、アレイコントローラの種類、RAIDレベル、RAIDに組み込むディスクの台数を画面から選択する。
	アレイコントローラを使用しない	アレイコントローラ以外のドライブをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時) =アレイコントローラ以外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を画面から選択する。
パーティション		下記の項目を[プロファイル] 画面に表示された/boot、/varなどの各マウントポイントに対して指定します。	
	(各マウントポイント左のチェックボックス)	マウントポイントに対して独立したパーティションを作成するかどうかを指定します。	(チェックあり) =パーティションを作成する (チェックなし) =パーティションを作成しない
	ファイルシステムタイプ	ファイルシステムの種類を指定します。	プルダウンから選択する 例 : ext2, ext3, ext4 (*1)
	サイズ	パーティションの容量を指定します。	数値を10進数で入力する。
	最大許容量まで使用	余ったディスク容量を指定したパーティションに割り当てるかどうかを指定します。 Linuxインストール後に空き領域に別途パーティションを作成する場合は、本指定は行いません。	(チェックあり) =指定のパーティションに余った容量を割り当てて容量を拡大 (チェックなし) =指定した容量でパーティションを作成
パッケージ選択			
	パッケージ選択の初期値	インストールするパッケージとして画面に表示されるパッケージグループと個別パッケージの初期選択を変更します。	最小=必要最小限のパッケージ 全て=全てのパッケージ デフォルト=推奨パッケージ
	パッケージグループ (*2)	インストールするパッケージグループを指定します。	(チェックあり) =インストールする (チェックなし) =インストールしない
	個別パッケージ	インストールするパッケージ名を個別に指定します。	パッケージ名を文字列で入力する。 1行あたり1パッケージで複数行の記述が可能。
ブートローダーオプション			
	ブートローダをインストール	ブートローダをインストールするかどうかを設定します。	(チェックあり) =ブートローダをインストールする 本項目は常にチェック状態となる。
	ブートローダのインストール場所	ブートローダのインストール先を指定します。	MBR=マスタブートレコードにインストールする 本項目は常に「MBR」に設定される。
	カーネルパラメータ	カーネルパラメータを指定します。	カーネルパラメータとして指定する文字列を入力する。 【省略可】
Security-Enhanced Linux			
	SE Linux	SE Linuxの使用有無を指定します。	本項は常に「Disabled」に設定される

認証			
	シャドウパスワードの使用	シャドウパスワードを使用するかどうかを指定します。	本項は常に「チェックあり（使用する）」に設定される
	MD5の使用	パスワード暗号化にMD5を使用するかどうかを指定します。	本項は常に「チェックなし（使用しない）」に設定される
	nsdの有効	Name Switch Cacheを使用するかどうかを指定します。	本項は常に「チェックあり（使用する）」に設定される
アプリケーション		OSインストール後に自動的にインストールするアプリケーションを指定します。	
	アプリケーション選択 (各種アプリケーション)	インストールするアプリケーションを指定します。 アプリケーションの種類はディストリビューションによって異なります(*4)。	(チェックあり) =アプリケーションをインストールする
インストール後のスクリプト実行 (*3)			
	インストール後のスクリプト実行	インストール後にスクリプトを実行するかを指定します。	(チェックあり) =インストール後にスクリプトを実行する
	OSに転送するディレクトリ	インストール後、OSに転送するディレクトリを指定します。	インストール後、OSに転送するディレクトリを指定する
	実行するスクリプト	実行するスクリプトを指定します。(*5) (*6)	実行するスクリプトを指定する。

*1: SLES 11 SP4では、ext4はReadのみ対応しています。SLES 12では、ext4がRead/Write両方可能ですが、SLESとして正式サポートの対象ではありません。

*2: SLES 12では、パッケージグループに「X Windows System」が指定されていない場合も、コンソールで起動しません。〈CTRL〉〈ALT〉〈F1〉を押すと、コンソールからログインできます。

*3: SLES 12では、インストール後のスクリプト実行に対応していません。

*4: 下表のアプリケーションは ServerView Suite DVD V11.16.04 を使用した場合です。将来的に ServerView Suite DVD の改版によって変更される場合があります。

アプリケーション(RHELの場合)	SLES 11 SP4(x86)	SLES 11 SP4(intel64)	SLES 12 /SLES 12 SP1
ServerView Agentless Service	×	○	○
ServerView SNMP Agents	○	○	○
ServerView CIM Providers	×	×	×
ServerView Update Agent (online flash)	○	○	○
ServerView Operations Manager	×	×	×
ServerView RAID Manager	○	○	○
AIS Connect (*7)	×	×	×
Java Runtime Environment	○	○	○

○=ISMで指定可能、×=ISMで指定不可

*5: スクリプトから他のスクリプトを実行する場合、実行権限を付与し、呼び出してください。

*6: shコマンドにより、指定したスクリプトを実行します。

*7: ServerView Suite DVD V12.16.10では設定できません。

*8: アレイコントローラを使用する場合、BIOSの「Onboard Device Configuration」設定と矛盾が無いように設定してください。

OS個別情報タブ

項目名	説明	設定値
インストールメディアタイプ	インストールに使用するメディアの種類を選択します。	常にOSタブで指定したインストールメディアとなる。
Rootパスワード	パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する
ネットワーク		
コンピュータ名をDNSサーバから取得	DNSから取得したコンピュータ名(ホスト名)を利用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = DNSから取得する (チェックなし) = 任意のホスト名を指定する
コンピュータ名	DNSからコンピュータ名(ホスト名)を取得しない場合に、任意のホスト名を指定します。	ホスト名を入力する。
DHCP	管理LANのIPアドレスに対して固定IPアドレスを指定するか、DHCPを使用するかを選択します。	(チェックあり) = DHCPを利用する (チェックなし) = 固定IPを指定する
IPアドレス	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレスを指定します。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。
サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマスクを指定します。	サブネットマスクをIPv4形式で入力する
デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、デフォルトゲートウェイを指定します。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形式で入力する
DNSサーバ	DHCPを利用しない場合、DNSサーバをIPアドレスで指定します。	DNSサーバのIPアドレスをIPv4形式で指定する

1.3 ストレージ用プロファイルの設定項目

ETERNUS DX/AFシリーズ用のプロファイル中で設定する項目を記載します。対象とするストレージ種類に応じて選択可能な項目が異なる場合があります。

各項目の詳細は、対象ストレージのマニュアルを参照してください。

RAID&ディスク構成タブ

項目名	説明	設定値
RAID構成		
RAIDグループ名	RAIDグループ名を指定します。 注意 装置に設定済みのRAIDグループ名は指定できません。	RAIDグループ名文字列を入力する 1～16文字が入力可能
RAIDレベル	構築するディスクアレイのRAIDレベルを指定します。	プルダウンから以下を選択する RAID1、RAID5、RAID6、RAID1+0
ディスク本数	ディスクアレイに組み込むディスク本数を指定します。	ディスク数を指定する 選択したRAIDレベルに応じて選択可能な台数は異なる

項目名		説明	設定値
	ディスクインチ	ディスクドライブの種類（ドライブ外形サイズ）を指定します。	プルダウンから以下を選択する 2.5 Inch、3.5 Inch
	ディスク種別	ディスクアレイに組み込むディスクドライブの種類（インターフェース種類）を指定します。	プルダウンから以下を選択する ETERNUSのモデル、選択したディスクインチに応じて選択可能な種別は異なる SAS、NL-SAS、SED、SSD
	ディスク容量	ディスクアレイに組み込むディスクドライブの種類（ディスク容量）を指定します。	プルダウンから以下を選択する 選択したディスクインチ、ディスク種別に応じて選択可能な容量は異なる 300GB、450GB、1TBほか
ボリューム			
	ボリューム名	RAIDグループに作成するボリューム名を指定します。 注意 装置に設定済みのボリューム名は指定できません。	RAIDグループに作成するボリューム名文字列を指定する 1～16文字が入力可能
	ボリュームサイズ	RAIDグループに作成するボリュームサイズを指定します。	テキストボックスにボリュームサイズを指定し、プルダウンから以下を選択する 最後のボリュームサイズに対しては“max”を指定するとRAIDグループの残り全容量が割り当てられる ETERNUS DX60 S2では“max”は指定できない MB、GB、TB
グローバルホットスペア			
	ディスクインチ	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類（ドライブ外形サイズ）を指定します。	プルダウンから以下を選択する 2.5 Inch、3.5 Inch
	ディスク種別	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類（インターフェース種類）を指定します。	プルダウンから以下を選択する ETERNUSのモデル、選択したディスクインチに応じて選択可能な種別は異なる SAS、NL-SAS、SED、SSD
	ディスク容量	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類（ディスク容量）を指定します。	プルダウンから以下を選択する 選択したディスクインチ、ディスク種別に応じて選択可能な容量は異なる 300GB、450GB、1TBほか
ホストアフィニティ			
	LUNグループ		
	LUNグループ名	LUNグループ名を指定します。	LUNグループ名文字列を指定する

項目名		説明	設定値
		注意 <div></div> <div></div> <div></div> 装置に設定済みのLUNグループ名は指定できません。 <div></div> <div></div>	
	ボリューム		
	ボリューム名	LUNグループに属するボリューム名を指定します。	LUNグループに属するボリューム名文字列を入力する プロファイルで作成するボリュームか、既に装置に作成されているボリュームを指定する
	ポートグループ		
	ポートグループ名	ポートグループ名を指定します。 注意 <div></div> <div></div> <div></div> 装置に設定済みのポートグループ名は指定できません。 <div></div> <div></div>	ポートグループ名文字列を指定する 1～16文字が入力可能
	ポート		
	ポート番号	ポートグループに属するポート番号を指定します。	ポートグループに属するポート番号を三桁の数字で指定する
	ホストグループ		
	ホストグループ名	ホストグループ名を指定します。 注意 <div></div> <div></div> <div></div> 装置に設定済みのホストグループ名は指定できません。 <div></div> <div></div>	ホストグループ名文字列を指定する 1～16文字が入力可能
	ホストタイプ	ホストグループのタイプを指定します。	プルダウンから以下を選択する iSCSI、FC
	ホスト		
	ホスト名	ホストグループに属するホスト名を指定します。 注意 <div></div> <div></div> <div></div> 装置に設定済みのホスト名は指定できません。 <div></div> <div></div>	ホストグループに属するホスト名文字列を指定する 1～16文字が入力可能

項目名				説明	設定値
		ホストiSCSI	ホスト名を定義するiSCSI名を指定します。 ホストグループのホストタイプがiSCSI名の時に入力可能です。	iSCSI名文字列を入力する 先頭に"iqn."または"eui."を入力する	
		ホストWWN	ホスト名を定義するホストWWNを指定します。 ホストグループのホストタイプがFCの時に入力可能です。	ホストWWN文字列を入力する 16文字の16進数が入力可能	
詳細設定					
	Pre実行コマンド		プロファイルの適用動作（RAID/ホットスペア/ホストアフィニティ設定）の実行前にETERNUSに対して実施したい制御コマンドを記述します。 特別な要求がない場合はチェックボックスを無効にしておきます。	記述内容については対象装置の『CLIユーザーガイド』を参照すること	
	Post実行コマンド		プロファイルの適用動作（RAID/ホットスペア/ホストアフィニティ設定）の完了後にETERNUSに対して実施したい制御コマンドを記述します。 特別な要求がない場合はチェックボックスを無効にしておきます。	記述内容については対象装置の『CLIユーザーガイド』を参照すること	

ポイント

- アレイ構成に使用するディスクドライブの搭載スロット位置は指定できません。
- ホットスペア構築に使用するディスクドライブの搭載スロット位置は指定できません。

1.4 スイッチ用プロファイルの設定項目

スイッチ用のプロファイル中で設定する項目を記載します。
各項目の詳細は、対象スイッチのマニュアルを参照してください。

1.4.1 SRX用プロファイル

SNMPタブ

項目名		説明	設定値
SNMPサービス			
	SNMPサービス設定	SNMPサービス設定を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
	SNMPエージェントとトラップ (ON/OFF)	SNMPエージェントとトラップの有効、無効を指定します。	ON = 機能を有効にする OFF = 機能を無効にする
	SNMPエージェント設定	SNMPエージェント設定を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
	エージェントアドレス	エージェントアドレスを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = エージェントアドレスを有効にする

項目名		説明	設定値
			加えて、エージェントアドレスをIPv4形式で入力する
	SNMPエンジンID	SNMPエンジンIDを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = SNMPエンジンIDを有効にする 加えて、SNMPエンジンIDを入力する。
SNMPホスト (SNMPv1 or v2c)			
	番号	SNMPホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する
	アドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定します。	SNMPホストのIPアドレスをIPv4形式で指定する
	コミュニティ名	SNMPホストのコミュニティ名を指定します。	SNMPホストのコミュニティ名文字列を入力する
	トラップ	SNMPトラップの送信有無を指定します。	プルダウンから以下を選択する Off、v1、v2c
	書き込み	SNMPマネージャーからの書き込みを許可するかを指定します。	(チェックあり) = 許可する (チェックなし) = 許可しない
SNMPユーザー (SNMPv3)			
	番号	SNMPユーザー定義番号を指定します。	プルダウンから選択する
	ユーザー名	SNMPユーザー名を指定します。	SNMPユーザー名文字列を入力する
	アドレス設定	SNMPのホストアドレスを有効にするかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	ホスト番号	SNMPホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する
	ホストアドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定します。	SNMPホストのIPアドレス文字列を入力する
	トラップ設定	SNMPトラップ設定を有効にするかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	ホスト番号	SNMPホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する
	ホストアドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定します。	SNMPホストのIPアドレス文字列を入力する
	認証設定	SNMP認証プロトコルを有効にするかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	認証プロトコル	SNMP認証プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する none、md5、sha
	認証パスワード	SNMP認証パスワードを指定します。	SNMP認証パスワード文字列を入力する。
	暗号化設定	SNMP暗号化設定を有効にするかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	暗号化プロトコル	SNMP暗号プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 none、des
	暗号化パスワード	SNMP暗号パスワードを指定します。	SNMP暗号パスワード文字列を入力する
	読み取り	SNMP MIB読み取りを有効にするかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する none : 読み取りを許可しない all : 読み取りを許可する
	書き込み	SNMP MIB書き込みを有効にするかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指

項目名		説明	設定値
			定する none：書き込みを許可しない all：書き込みを許可する
	通知	SNMP MIBトラップ通知を有効にするかを指定します。	(チェックあり)＝有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none：読み出しを許可しない all：読み出しを許可する

認証タブ

項目名		説明	設定値
アカウント			
	管理者のパスワードの変更	管理者パスワードの変更をするか指定します。	(チェックあり)＝管理者パスワードを変更する
	パスワード	新たな管理者パスワードを指定します。	パスワード文字列を入力する

NTPタブ

項目名		説明	設定値
時刻の自動調整			
	時刻の自動調整	時刻の自動調整を有効にするか指定します。	(チェックあり)＝有効にする
	サーバ設定	時刻提供サーバの設定を有効にするか指定します。	(チェックあり)＝有効にする (チェックなし)＝無効にする
	プロトコル (Time/SNTP)	使用するプロトコルを指定します。	Time＝TCPを使用する SNTP＝UDPを使用する
	アドレス	時刻提供サーバのIPアドレスを指定します。	時刻提供サーバのIPアドレス文字列を入力します。
	間隔設定	自動時刻設定する間隔を有効にするか指定します。	(チェックあり)＝有効にする (チェックなし)＝無効にする
	間隔時間 (起動時/期間指定)	自動時刻設定の間隔を指定します。	起動時＝起動時に行う 期間指定＝任意の期間に行う。加えて、画面に期間を入力する
	タイムゾーン設定	タイムゾーン設定を有効にするか指定します。	(チェックあり)＝有効にする (チェックなし)＝無効にする
	グリニッジ標準時刻からの時間差	装置が使用するタイムゾーンを指定します。	プルダウンから選択する

STPタブ

項目名		説明	設定値
STP (スパンニングツリープロトコル) 設定			
	STP	STP設定を有効にするか指定します。	(チェックあり)＝有効にする 加えて、プルダウンから選択する

1.4.2 VDX用プロファイル

SNMPタブ

項目名		説明	設定値
SNMPサービス			
SNMPサービス設定		SNMPサービス設定を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
	SNMPエージェントとトラップ (ON/OFF)	SNMPエージェントとトラップの有効、無効を指定します。	ON=機能を有効にする OFF=機能を無効にする
グループ (コミュニティとユーザー用)			
	グループ名	グループ名を指定します。	グループ名文字列を入力する
	SNMPバージョン	SNMPバージョンを指定します。	プルダウンから以下を選択する v1、v2c、v3
	v3セキュリティレベル	SNMPv3用セキュリティレベルを指定します。	プルダウンから以下を選択する auth、noauth、priv
	読み取り	SNMP MIB読み取りを有効にするかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none : 読み取りを許可しない all : 読み取りを許可する
	書き込み	SNMP MIB書き込みを有効にするかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none : 書き込みを許可しない all : 書き込みを許可する
	通知	SNMP MIBトラップ通知を有効にするかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none : 読み出しを許可しない all : 読み出しを許可する
コミュニティ (ホスト用)			
	コミュニティ名	SNMPコミュニティ名を指定します。	コミュニティ名文字列を入力する
	グループ	コミュニティが所属するグループを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンからグループを選択する
	書き込み	SNMPコミュニティの書き込みを有効にするかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を選択する Enabled、Disabled
ホスト			
	アドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定します。	ホストのIPアドレスをIPv4またはIPv6のアドレス表記に従った文字列を入力する
	コミュニティ名	SNMPコミュニティ名を指定します。	プルダウンから選択する
	重大度レベル	SNMPトラップレベルを指定します。	プルダウンから選択する

項目名		説明	設定値
	トラップバージョン	SNMPトラップバージョンを指定します。	プルダウンから以下を選択する v1、v2c
	UDPポート	SNMPトラップ送信ポートを指定します。	SNMPトラップ送信ポート文字列を入力する 「0」～「65535」が指定可能
ユーザー（v3ホスト用）			
	ユーザー名	SNMPユーザー名を指定します。	ユーザー名1～64文字の文字列を入力する
	グループ	SNMPグループ名を指定します。	グループ名1～64文字の文字列を入力する
	認証設定	SNMP認証設定を有効にするか指定します。	（チェックあり）＝有効にする
	認証プロトコル	SNMP認証プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する MD5、SHA、NoAuth
	認証パスワード	SNMP認証パスワードを入力します。	認証パスワード1～32文字の文字列を入力する
	暗号化設定	SNMP暗号化設定を有効にするか指定します。	（チェックあり）＝有効にする
	暗号化プロトコル	SNMP暗号化プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する DES、AES128、NoPriv
	暗号化パスワード	SNMP暗号パスワードを指定します。	暗号化パスワード1～32文字の文字列を入力する
v3ホスト			
	アドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定します。	ホストのIPアドレスをIPv4またはIPv6のアドレス表記に従った文字列を入力する
	ユーザー名	SNMPユーザー名を指定します。	ユーザー名1～16文字の文字列を入力する
	重大度レベル	SNMPトラップレベルを指定します。	プルダウンから選択する
	通知タイプ	SNMP通知タイプを指定します	プルダウンから選択する
	エンジンID	SNMPエンジンIDを指定します。	エンジンID「0:0:0:0:0:0:0:0」～「FF:FF:FF:FF:FF:FF:FF:FF」を文字列で指定する 文字パターンは、MACアドレスと同様
	UDPポート	SNMPトラップ送信ポートを指定します。	SNMPトラップ送信ポート文字列を入力する 「0」～「65535」が指定可能

認証タブ

項目名		説明	設定値
アカウント			
	管理者のパスワードの変更	管理者パスワードの変更をするか指定します。	（チェックあり）＝管理者パスワードを変更する
	パスワード	新たな管理者パスワードを指定します。	パスワード8～32文字の文字列を入力する

NTPタブ

項目名		説明	設定値
時刻の自動調整			
	時刻の自動調整	時刻の自動調整を有効にするか指定します。	(チェックあり) = 有効にする
	サーバ設定	時刻提供サーバの設定を有効にするか指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	アドレス	時刻提供サーバのIPアドレスを指定します。	時刻提供サーバのIPアドレスをIPv4またはIPv6のアドレス表記に従った文字列を入力する
	タイムゾーン設定	タイムゾーン設定を有効にするか指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	地域	地域情報を指定します。	地域情報を(地域) / (都市) 形式で入力する